# アイヌ韻文の行頭韻

## Alliteration in Ainu Poetry

丹菊逸治

Tangiku Itsuji

アイヌ・先住民研究センター

Ainu Teetawanoankur Kanpinuye Cise
Center for Ainu and Indigenous Studies, Hokkaido University

2019 年度アイヌ・先住民族言語アーカイヴプロジェクト報告書

Ainu and Indigenous Language Archive Project Report 2019

## はじめに

2018 年に北海道大学アイヌ・先住民研究センター報告書として刊行した『アイヌ叙景詩鑑賞〜押韻法を中心に』では、upopo ウポポなどアイヌ叙景詩の押韻法について解説した。同書では紙数の関係もあり、叙景詩以外のジャンル、特に叙事詩の韻文形式についてはかなり簡略化したモデルで説明せざるをえなかった。本報告書では、叙景詩と叙事詩の韻文形式について改めて検証している。

本来であれば本報告書のほうが先に出るべきだったのだが諸般の事情で遅れてしまった。アイヌ語を学び叙事詩を鑑賞する人々にいくらかでも参考にしていただければ幸いである。

2020 年 3 月 4 日

丹菊 逸治

## 目次

アイヌ韻文の行頭韻

はじめに---------- 3
目次---------- 5
序章---------- 9
　１．本書の目的---------- 9
　２．アイヌ語韻文の「押韻」にかんする先行研究---------- 9
第1章　伝統歌謡ウポポの行頭母音韻---------- 11
　概略---------- 11
　１．目的---------- 11
　２．アイヌ伝統歌謡ウポポ---------- 12
　　２－１．本稿で扱う資料---------- 12
　　２－２．ウポポの歌い方---------- 12
　　２－３．完全４行形式のウポポ（8 歌）---------- 13
　３．一般的なウポポの頭脚韻---------- 18
　　３－１．母音による行頭韻---------- 19
　　３－１－１．母音による行頭韻と「繰り返し語句」---------- 19
　　３－１－２．母音による不完全韻---------- 20
　　３－２．子音による行頭韻---------- 21
　　３－３．母音による脚韻---------- 25
　　３－４．子音による脚韻---------- 26
　　３－４－１．子音による脚韻とは何か---------- 26
　　３－４－２．子音による脚韻と思われる例---------- 27
　　３－５．母音による繰り返し韻---------- 29
　　３－６．子音による繰り返し韻---------- 30
　４．繰り返し語句---------- 32
　　４－１．繰り返し語句が行頭にあるウポポ---------- 32
　　４－２．繰り返し語句が行末にあるウポポ---------- 33
　　４－３．最終行内の繰り返し語句---------- 34
　　４－４．同一行の繰り返し---------- 36
　　４－４－１．４行中２行が繰り返される形式---------- 36
　　４－４－２．同一の１行のみを繰り返す形式---------- 37
　　４－４－３．同一の２行を２回繰り返す形式---------- 38
　　４－５．関係文的な繰り返し語句---------- 39
　５．交差配列による行頭韻---------- 40
　６．１行の音節数---------- 41

７.行頭に母音韻も繰り返し語句も持たないウポポ６歌の検討---------- 42
７－１．行頭に母音韻も繰り返し語句も持たないウポポその１／６---------- 43
７－２．行頭に母音韻も繰り返し語句も持たないウポポその２／６---------- 44
７－３．行頭に母音韻も繰り返し語句も持たないウポポその３／６---------- 46
７－４．行頭に母音韻も繰り返し語句も持たないウポポその４／６---------- 48
７－５．行頭に母音韻も繰り返し語句も持たないウポポその５／６---------- 49
７－６．行頭に母音韻も繰り返し語句も持たないウポポその６／６---------- 51
７－７．行頭に母音韻も繰り返し語句も持たないウポポ６例のまとめ---------- 52
９．第１章の結論---------- 53

第２章　アイヌ叙事詩の行頭母音韻---------- 54
概略---------- 54
１．目的---------- 54
２．平賀サタモによる 1959 年の語りにおける「行」---------- 55
２－１．アイヌ韻文体の「行」---------- 55
２－２．１行の音節数---------- 55
２－３．１行の最大音節数---------- 57
２－４．１行の単語数---------- 58
３．アイヌ叙事詩の詩連構造---------- 59
３－１．２行からなる対句や定型表現---------- 59
３－２．詩連---------- 60
３－３．独立性の高い関係修飾節・４行対句---------- 62
３－３－１．独立性の高い関係修飾節による詩連---------- 63
３－３－２．４行からなる対句による詩連---------- 63
３－４．詩連構造があいまいな例---------- 64
３－５．１詩連の行数---------- 66
４．平賀サタモの 1959 年の語りにおける押韻出現数---------- 67
４－１．４行詩連における頭脚韻---------- 68
４－１－１．４行詩連（104 例）における行頭母音韻出現数---------- 70
４－１－２．繰り返し語を除外した場合の行頭母音韻出現数---------- 70
４－１－３．４行詩連における行頭子音韻出現数---------- 72
４－１－４．行頭母音韻・繰り返し語句を持たない４行詩連---------- 74
４－２．３行詩連（87 例）における行頭母音韻出現数---------- 76
４－３．５行詩連（48 例）における頭脚韻---------- 78
４－３－１．５行詩連における行頭母音韻出現数---------- 78
４－３－２．５行詩連における行頭子音韻出現数---------- 79
４－４．２行詩連における行頭母音韻・行頭子音韻出現数---------- 80
４－５．６行詩連の構造---------- 81

４－５－１．6 行詩連の行頭母音韻出現数---------- 81
４－５－２．繰り返し行による「5 行詩連＋１」構成---------- 82
４－５－３．省略宣言句による「5 行詩連＋１」構成---------- 83
４－５－４．場面転換句による「5 行詩連＋１」構成---------- 83
４－５－５．感嘆句による「5 行詩連＋１」構成---------- 84
４－５－６．間接話法句による「5 行詩連＋１」構成---------- 85
４－５－７．対句を含む構成---------- 86
４－５－８．言い換えを含む構成---------- 87
４－５－９．ただ長いだけの構成---------- 88
４－６．7 行詩連の構造---------- 89
４－６－１．7 行詩連その１：比喩による繰り返しを含む構成---------- 90
４－６－２．7 行詩連その２：美辞の繰り返しを含む構成---------- 90
４－６－３．7 行詩連その３：長い定型的表現を含む構成---------- 91
４－６－４．7 行詩連その４：言い換えを含む構成---------- 91
４－６－５．7 行詩連その５：関係文と定型表現を含む構成---------- 92
４－６－６．7 行詩連その６：長い関係節を含む構成---------- 92
４－７．平賀サタモによる 1959 年の語りにおける詩連と押韻まとめ---------- 94
５．その他の押韻---------- 95
５－１．複数の詩連において最初の行あるいは最終行を一致させる---------- 95
５－２．部分的な一致による連鎖---------- 96
５－２－１．同一の語句による連鎖---------- 96
５－２－２．同一音・類似音による連鎖---------- 97
６．不完全韻---------- 98
６－１．複数音節で母音や子音が一致する---------- 99
６－２．一致しない母音や一部素性が異なる母音が参加している例---------- 100
６－３．行内位置は同じだが音節内位置が異なる例---------- 101
６－４．音節数が異なる例---------- 102
６－５．行内位置が異なる例---------- 103
６－６．行内位置と音節数がともに異なる例---------- 105
６－７．行内位置は同じだがあまり類似していない例---------- 106
６－８．あまり類似しないが 3 行以上にまたがる例---------- 107
７．第 2 章の結論---------- 109

第 3 章　結論---------- 110

引用文献---------- 111
付録資料：平賀サタモによる 1959 年の語りの全詩連構成および全不完全韻---------- 113

## 序章

### １．本書の目的

本書はアイヌ韻文における「音の一致」の一部が意識的な技法すなわち「押韻」であることを指摘するものである。丹菊逸治（2018）では 4 行詩連構造と頭脚韻、不完全韻、韻律（音節構造の一致）の存在を主張したが、それらがたんに偶然によるものではないと考える明確な根拠を示さなかった。本稿では行頭母音韻、4 行詩連構造、不完全韻について、NHK（1965）および、平賀サタモ（[1959]1993）という限られた資料においてではあるが、偶然生じたものか否か検証を試みるものである。

行頭母音韻については、①ＮＨＫ（1965）収録の upopo ウポポ 159 歌には行頭母音韻がほぼ例外なくみられること、②平賀サタモ（[1959]1993）には行頭母音韻が偶然に生じるより高い比率でみられることを指摘する。

4 行詩連構造と不完全韻については、丹菊（2018）を補う解説ともに、巻末に田村すゞ子・平賀サタモ（[1959]1993）一篇全体の全詩連構造と不完全韻と思われる全ての例を示す。

### ２．アイヌ語韻文の「押韻」にかんする先行研究

アイヌ語の日常会話文体と朗唱文体の間に語彙や動詞複合体形成法の違いがみられることは早い時期から知られていた。金田一京助（[1931]1993：278）では最上徳内による文化 5 年（1858 年）の『渡島筆記』の記述をあげている。同書では最上徳内は朗唱文体について「古辞雅語を専に用ふることと見えたり」と記し、現在でも用いられている「雅語」という表現で言及している（高倉新一郎編 1969：531-532)。現在のアイヌ語研究やアイヌ文学研究においては朗唱文体は「雅語」「韻文」などとさまざまに呼ばれるが、本稿では「韻文」と呼んでおく。この朗唱文体＝韻文について、日本の研究者の多くは「音節数をそろえる」ものだと考えてきた[1]。特殊な人称形式や語彙を用いたり、対句表現を多用したり、ということはあっても「韻」すなわち頭脚韻などの押韻は存在しないと考えてきたのである。

金田一京助（[1908]1992：18）が「韻や、アクセントに基く規定は全然自由で、唯音綴の数のきまりが、ほぼ一定して居る事である。」として以来、現在まで多くの研究者の見解はそれとほぼ同じである。中川裕（1997：195-196）は「アイヌ語の韻文は『韻』より『律』のほうに重点がおかれている」、中川裕・中本ムツ子（2007：107）は「韻文といっても、いわゆる頭韻、脚韻のようなものは、踏んでいるようにみえることもまれにありますが、さ

[1] もちろん 1 行の音節数が意識的にそろえられているのは間違いなく、実際に 5 音節行の比率は非常に高い。平賀サタモ（[1959]1993）においても、虚辞を含めれば全 1151 行中 1018 行、つまり全体の 88.4%、虚辞を含めなければ 763 行（66.3%）が 5 音節行である。

して重要ではありません」とし、押韻への志向を否定している。

一方、押韻がみられるという指摘も全くなかったわけではない。Philippi（[1979]1982：29）では"In Ainu poetry rhyming occurs quite accidentally, as it does in Japanese poetry, but it is not prosodically relevant and not cultivated per se. Alliteration occurs sporadically, and there sometimes appear to be conscious attempts on the part of the reciters to cultivate it, although it is by no means obligatory." 「アイヌ詩においては脚韻（rhyming）は日本の詩におけると同様に偶発的なものであり、韻律論的に関連はなく、本質的に洗練されたものではない。頭韻（alliteration）は散発的にあり、決して義務的ではないものの、歌い手がそれを洗練しようと意識的に試みているようにみえることもある。」と指摘し、子音による行頭韻を例示している[2]。村崎恭子（1989：6）は樺太に伝承される散文形式の昔話ジャンル tuytah トゥイタㇵについて「語りの間に、節のついた、韻をふんだ歌がはさまれることがおおい」と指摘し、村崎恭子（2001：9）では「散文の語りの中に、子どもの泣き声や鳥の鳴き声、舟が近づいくる音、糸つむぎの音などを描写するのに、韻を踏んだ調子の良い短い歌が挿入されている」とする。ただし「韻」や「調子」の具体的な詳細についてはふれていない。 また、報告・論文等での言及はないものの、詩の実作者や一部の研究者の間では北海道のアイヌ韻文における押韻も意識されていた[3]。

本稿はほぼ Philippi（[1979]1982）と村崎恭子（1989）の指摘を裏付けるものである。Philippi の「義務的ではないが、意識的に用いられている」という指摘は叙事詩に当てはまり、村崎恭子の「韻をふんだ歌」という指摘は叙景詩に当てはまる。

---

[2] Philippi（1979：29）で Alliteration の例として挙げられているのは行頭子音韻である。なお、Philippi は hu**s**ko as ras/**r**a**s** emaknakur-/-**r**o**s**ki kane/asir as ras/**r**a**s** esanakur-/-roski kane の 6 行で $C_1VC_2$ の $C_1$ にあたる r の一致だけでなく、$C_2$ にあたる s の一致も Alliteration（頭韻）と呼んでいる。

[3] 太田満氏によれば、言語学者浅井亨（アイヌ語）は詩法としての押韻に気づいていたという。太田満氏自身も詩作において押韻は意識している、とのことである（2018 年 5 月 2 日ネット上での個人的なテキストメッセージのやりとりによる）。

## 第１章　　アイヌ叙景詩の行頭母音韻

### 概略

アイヌ叙景詩の１ジャンル upopo ウポポの行頭母音韻の有無を『アイヌ伝統音楽』（1965　NHK)に掲載された 159 歌で検討した。その結果、行頭における母音の一致は偶然より高い比率（153 歌 96.2%）で生じていて、作為的な押韻が行われている可能性が高いことがわかった。行頭における母音の一致がみられないものは 6 歌あるが、そのうち 3 歌には行頭母音がかかわる押韻が確認できる。いかなる意味でも行頭に押韻を持たないのは３歌であり、それらを除くと偶然とは思えない高率（156 歌 98.1%）で押韻が出現していることが分かった。村崎恭子による 1989 年の「樺太アイヌの散文説話の挿入歌には押韻がある」という指摘が北海道アイヌのウポポにも当てはまることになる。

### １．　目的

第 1 章では、アイヌ伝統歌謡 upopo ウポポの押韻・繰り返し語句の在り方と行頭押韻の出現比率を確認し、「押韻」がたんに偶然によるだけのものか、意図的に行われているか否かを推定することである。資料として、NHK のアイヌ伝統歌謡調査資料の報告書にあたる NHK（1965）を用いる。

本稿では、まずウポポの 4 行詩形式を確認し、次に行頭で押韻も繰り返し語句も持たない（つまり、母音の一致を持たない）歌が 6 例しかないこと、さらにそのうち 3 例が「何らかの形で押韻している」ことを示す。

## ２．　アイヌ伝統歌謡ウポポ

### ２－１．　本稿で扱う資料

アイヌ伝統歌謡は 4 行形式を基本とする。丹菊逸治（2018）ではそれを詩形式としてとらえ、風景や情景の描写を内容とするものが多いことから「叙景詩」と呼んだ。ウポポと呼ばれる、複数人で歌う歌謡ジャンルの諸歌も、もともとは個人の詩として作られたものだと思われる[4]。複数人で歌うこともあり、ウポポの詩形式はかなり整えられている。ほとんどが 4 行で 1 つの歌になっている。

NHK（1965）は事実上、これまでに刊行された最大のアイヌ伝統歌謡資料である[5]。438 歌が楽譜付きで紹介されている。残念ながら付された 6 枚のレコードには 64 歌しか音源が収録されていない。実際に調査で採録された録音は全て NHK に保存されており、一時は研究利用もされていた。アイヌ民族にとっては伝統文化復興のためにも貴重な資料であり、早期の公開が望まれる[6]。刊行された NHK（1965）に付された音源は少ないものの、同書には楽譜が掲載されており歌い方がある程度確認できる[7]。本稿では内容ではなく押韻という音からみた形式を扱うため、資料をこの NHK（1965）掲載のウポポ 159 歌に限定した。

### ２－２．　ウポポの歌い方

ウポポの歌い方には 1 人が先導で歌い、その後に数人が①何グループかに分かれてそれぞれ輪唱で続く場合、②数人が声を合わせて唱和する場合、がある（主として地域によって異なる）。その際にしばしばシントコと呼ばれる漆器の蓋を叩いて拍子をとる。これを慣習的に「打（だ）」と呼ぶことがあり、本稿でもそれにならっている。1 打は多くの場合 2 音節に相当する。4 打単位で音の高低パターン（いわゆる旋律）が付けられることが多い。これがウポポにおける、いわゆる「行」である（「句」と呼ぶこともある）。

---

[4] アイヌ伝統歌謡はアムール・サハリンからさらにシベリア・北極圏まで広がる「個人の歌」文化に属する。詩としての内容分析については、代表的な叙景詩を取り上げた丹菊逸治（2018）等を参照されたい。

[5] 録音資料としては久保寺逸彦の録音資料等も存在するが、刊行物になっていない。

[6] 何人かの研究者は複製を所持しており、これまでにその一部が研究利用され論文も公開されている。また北海道アイヌ協会本部にも録音の複製があるというが、やはり公開はされていない。現在遺族の手元にどれだけが還元されているかも不明である。

[7] 楽譜は増田又喜と谷本一之によるもので、楽譜の作成方針は統一されていない。また、アイヌ伝統音楽の構造や伝統的な歌唱法を完全に反映したものではない。したがって音源が公開されなければ実際の歌唱の細部は不明である。

## ２－３．　完全４行詩形式のウポポ（8 例）

ウポポには「繰り返し」行や、意味のないかけ声が大半を占めるものも多い。だが、各行が異なる語句で構成された、完全な 4 行詩形式のものもある。つまり、同じ行を 2〜4 回繰り返したり、意味のないかけ声が大半を占めたり、ということがなく、言語音として意味があり、互いに異なる 4 行で構成されているものである。NHK（1965）に掲載された 159 歌のウポポにはそうした完全な 4 行詩形式のものが 8 例ある。楽譜番号は第 16、59、60、124、126、127、135、140 番である。これらには全て押韻が見られる。

以下、ウポポ資料は提示順に番号をふるが、NHK（1965）の楽譜に付された番号（「楽譜番号〜」）も示す。アイヌ語表記は適宜修正してある。母音韻・子音韻は適宜太字で示してある。不完全韻は下線部で示してある。持続時間が同じ部分を/で区切って示すことがある。その場合、〇で休止を示すことがある。「打」は確認できないため記していない。

日本語訳は基本的に丹菊による試訳である。語義不明の語は、カタカナでそのまま表記していることもある。語義が不明確な場合は訳語の後ろに「(？)」を付した。NHK(1965）に日本語訳が付されている場合はそれも掲載した。また、資料は□で囲んだが、必要に応じて□をさらに追加して語釈を加えてある。

資料 1

楽譜番号 16（NHK1965：35）　（採録地：白老近文）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **A**sipet parun | アシペッ川の河口の |
| **Ka**muy mawe | 神の風 |
| **Ka**ntori **wa** | 天から |
| Pitori **wa** | 神（？）から |

（NHK1965：35 掲載訳）

芦別川口の
神風は
天上から
神から

資料 2

楽譜番号 59（NHK1965：71）　（採録地：釧路地区白糠）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **Ha**wo punkar hawop **pa** | 音がする（？）　ブドウヅルで音がする（？） |
| **Ha**si kuruka sorar**pa** | 枝の上に滝がある（？） |
| **Ha**sipet un casi | ハシペッ川の砦の |
| **Ka**nras **k**asi **k**etunke | 屋根ぶきの骨組みが見えた（？） |

（NHK1965：72 掲載訳、改行は原文ママ）
……蔓で
……
灌木の上を
片付けて
ハシペッの砦の
一本の割木を上に
かぶせ

資料 3

楽譜番号 60（NHK1965：71）　（採録地：釧路地区白糠）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **H**esi punkar sorar**pa** | ヘシ（語義不明）蔓が床を押さえつける（？） |
| W**a**sipetun casi | ワシペッ川の砦の |
| K**a**nrasi kasi ketunke | 屋根板の上がはがれた（？） |
| **Ha**wo punkar hawop**pa** | 音がした　蔓で（？）音がした |

※kanrasi は kanras かもしれない

資料 4

楽譜番号 124（NHK1965：113）　（採録地：静内地区豊畑）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **Ka**nto horikasi | 天空から |
| **Ka**muy ran mat hene | 神が降ろした女神 |
| P**a**yosi pay**o** | （？） |
| **Ka**nto hura k**o** | 天の香りが立つ（？） |

（NHK1965：113）に付された訳
天空から
神の降した女神の
なりとどろく
天上の稲光りぞ

資料 5

楽譜番号 126（NHK1965：115）　（採録地：近文）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **Ka**rapto atuy ri**ri** | 樺太の海 |
| P**a**ya riri soya | 行くぞ（？）海原を（？） |
| Hutan kurka hutan ra**ri** | （？）の上を越えて（？） |
| **Ka**ne pon pon kane pon sor k**a** | 金属の小さな小さな、金属の小さな（？） |
| S**a** yusa soy**a** | （？） |

※最終行は後世の追加行かもしれない

資料 6

楽譜番号 127（NHK1965：116）　（採録地：十勝地区芽室太）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **Ka**ype rur sama | 波のところの |
| Oniwen kam**u**y | 荒々しい神が |
| **A**tuy pen r**u**r | 海のあたりで |
| **Ha**w osi haw osi | 声をあげる　声をあげる（？） |

（NHK1965：116 掲載訳）
波にのって
おこった神の
おこった声が
叩き　叩く

資料 7

楽譜番号 135（NHK1965：126）　（採録地：千歳）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **O**roro wa he kore p**u**n | （？）して持たせるよ、プン |
| K**o**rokoni pon kama s**u** | フキが小さなかますを（？） |
| **O**p tarakin na | 槍が揺れるぞ |
| Haw o | ハウォ（大きな音を表す擬音語） |

（NHK1965：126 掲載訳）
……
蕗の小さな叭
ぶらぶらだ
……

資料 8

楽譜番号 140（NHK1965：128）　（採録地：静内地区田原）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **Ni**pesi ka t**a** | シナノキの内皮の上に |
| **Ni**pesi konkani | シナノキの金属が（？） |
| Cara cara carin **na** | さらさらと音を立てる |
| **Ni**sikur ka ta carin **na** | 雲の上でさらさら音を立てる |

以上の 8 例には「複数行の行頭あるいは行末において、母音あるいは子音の一致」がみられる。これらが「頭韻」と「脚韻」である。また下線を引いた部分のように、複数行で「似ている音連続」がみられることがある。これらが「不完全韻」である。以下では両者を「押韻」と呼ぶ[8]。これらの一致を技法的な押韻とみなしてよいかどうか、つまりこれらが「偶然の産物」以上のものであるかどうか、を検証することが本稿の目的である。

とはいえ、実際のウポポでは、このように 4 行の各行が異なり、また 4 行全体で意味が通じるような完全な詩形式になった作品は少ない。例えば、

・かけ声が主体のもの
・かけ声ではないにせよ、非常に短い語句が繰り返されるだけのもの
・意味の分からない行が 2 から 3 行含まれるもの
・ 1 行が半分の長さのもの

などがかなりある。だが、いずれにせよほとんどの作品に行頭・行末での音の一致、不完全韻がみられる。意図的であるにせよ偶然であるにせよ、「押韻」は「一定の時間間隔で同じ音が繰り返される」という現象であり、繰り返しの印象を与えるものである。

[8] 音の一致がそれぞれ全て意図的であるかどうかに形式上の差異はない。ここでアイヌ韻文における「押韻」と呼んでいるものは、偶然の結果も作為の結果も含んでいるはずである。本稿の目的は、作者が全体として一致させるべく意識的・無意識的に努力しているかどうか、つまりなるべく多く押韻しようとしているかどうか、を解明することである。

## ３．　一般的なウポポの頭脚韻

NHK（1965）に収録されたウポポの多くは繰り返し語句・繰り返し行と、押韻つまり「行頭・行末における音の一致」を含んでいる。以下ではそれら「一般的なウポポ」について、

１．母音による行頭韻
２．子音による行頭韻
３．母音による行末韻（脚韻）
４．子音による行末韻（脚韻）
５．母音による繰り返し韻
６．子音による繰り返し韻

の例を確認する。

母音による頭韻はもっとも一般的にみられるものである。子音による頭韻は例は少ないものの、やはり意識的と思える例がある。母音による脚韻も意識的と思われるものの、かけ声等でそろえられていることが多く、韻と呼びにくい例もしばしばみられる。子音による脚韻については、当然ながら単一の子音では明確ではない。またアイヌ語の韻脚（複数音節による行末押韻の単位）が存在するのか否かも分かっていないため、はっきりしたことはいえない。

１行の内部において、複数の単語の語頭や語尾で同じ音を繰り返す「繰り返し韻」もしばしばみられる。母音、子音どちらの例もある。

## ３－１．　母音による行頭韻

資料 9

楽譜番号 7 （NHK1965：29）（採録地：千歳）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **O**roro pinne owa hey**a** | オロロ（語義不明）雄が集って　ヘヤ |
| **O**wa cisiner**e** | 集って鳴く（？） |
| Apk**a** top**a** ow**a** hey**a** | 雄鹿の群れが集って　ヘヤ |
| **O**wa cisiner**e** | 集って鳴く（？） |

（NHK1965：29 掲載訳）
狼の雄の群がどっさり
どっさりさわいでいるよ
強い雄鹿がどっさり
どっさりさわいでいるよ

この歌の pinne「雄の」apka「雄シカ」topa「群れ」は日常語でも用いられる。NHK（1965：29）掲載訳では ororo は「狼」と訳されているが、おそらく歌い手の説明にもとづくのであろう。語り手は horokew「オオカミ」から推測したのかもしれない。NHK（1965：29）掲載訳では owa は「群がどっさり」と訳されている。o「たくさんいる」と接続詞 wa と解釈したものであろう。heya は意味がないかけ声。cisinere は「さわいでいる」と訳されているが、この語形では他に記録されていない。cis「鳴く」と使役語尾-re 等の組み合わせから、そういう意味になると歌い手が推測しただけかもしれない。

### ３－１－１．　母音による行頭韻と「繰り返し語句」

owa heya（第 1 行後半・第 3 行後半）が繰り返し語となっており、owa cisinere（第 2 行全体・第 4 行全体）が繰り返し行となっている。また、繰り返し行を含め 3 行の行頭で母音 o が繰り返されている（以下の太字部分）。

1. **O**roro pinne **owa heya**
2. **Owa cisinere**
3. Apka topa **owa heya**
4. **Owa cisinere**

第１行冒頭の語 ororo と第２行冒頭の語 owa は違う語句だがともに同じ母音 o で始まっている。これが行頭の母音韻である。偶然同じ母音で始まっている可能性もあるが、故意に並べてある可能性もある

第２行と第４行では同じ語句 owa cisinere が２回繰り返されているだけだから、「押韻」ではなく「繰り返し語」である。行頭母音 o が一致しているのも「押韻」ではない。だが、故意に同じ語句を繰り返しているので、これは「繰り返しという技法」である。また、押韻ではないにしても、同じ音になっているので押韻と同じ「繰り返しの感覚」の効果はある。

### ３－１－２．　母音による不完全韻

資料９の第１行 ororo pinne と第３行 owa cisinere は全体としての音、特に母音の並びが似ている「不完全韻」である[9]。

**o**roro p**i**nn**e**　　の母音の配列は　o-o-o i-e
**o**wa c**i**s**i**n**e**r**e**　　の母音の配列は　o-a-i-i-e-e

| | | | |
|---|---|---|---|
| oro | ro | pin | ne |
| o | wa | cisi | nere |
| 母音 o | × | 母音 i | 母音 e |

これらはしばしばみられる技法である。

[9] 丹菊逸治（2018：22）および、第２章第６節を参照のこと。

## ３－２．　子音による行頭韻

子音による明確な頭韻の例は少ない。NHK（1965）に掲載された 159 歌では、暫定的ながら[10]全 595 行の行頭子音出現数は以下のようになっている。試みに声門閉鎖音を含む子音韻の割合も示したが、これもあくまで暫定的なものである。

**表.1**　ＮＨＫ（1965）掲載のウポポ 159 歌における行頭子音の割合

| 子音種別 | 出現数 | 比率 | 出現数のうち押韻もしくは繰り返し語句頭にある数と比率 | 出現数のうち押韻をなしている数と比率 |
|---|---|---|---|---|
| h | 263 | 44.2　% | 232（88.2%） | 83（31.6%） |
| 声門閉鎖音 | 153 | 25.7　% | 153（100.0%） | 83（54.2%） |
| k | 55 | 9.2　% | 23（41.8%） | 23（41.8%） |
| t | 31 | 5.2　% | 18（58.1%） | 9（29.0%） |
| c | 20 | 3.4　% | 8（40.0%） | 6（30.0%） |
| p | 16 | 2.7　% | 4（25.0%） | 0（0.0%） |
| s | 16 | 2.7　% | 8（50.0%） | 6（37.5%） |
| m | 10 | 1.7　% | 7（70.0%） | 2（20.0%） |
| n | 10 | 1.7　% | 7（70.0%） | 3（30.0%） |
| r | 10 | 1.7　% | 2（20.0%） | 0（0.0%） |
| y | 6 | 1.0　% | 3（50.0%） | 0（0.0%） |
| w | 6 | 1.0　% | 2（33.3%） | 0（0.0%） |
| 合計 | 595 | 100.2　% | | |

（以下、本稿各表では各出現率や比率を個別に小数点以下 2 位を四捨五入した。そのため合計が 100%ぴったりにならないこともある）

h が半数近く（44.2%）を占める。これは h で始まるかけ声がしばしば行頭に置かれていることを反映しているであろう。声門閉鎖音はいわゆる「母音始まり」のことであり、全体の 25.7%である[11]。h と声門閉鎖音だけで 7 割を占める。残りの子音も繰り返し語句の行頭や押韻形式の音の一致に参加していることが多い。本稿では子音韻については深入りせず、後の課題としたい。以下では行頭子音韻とみられる例をあげておく。

---

[10] ＮＨＫ（1965）では詩形が明確ではないこともあり確実なことがいえない。早期の音源の全面公開が望まれる。

[11] 丹菊逸治（2018）では「声門閉鎖音による行頭子音韻」を推定したが、これを母音韻とみるか子音韻とみるかを含め議論の余地はあろう。別稿に譲りたい。

資料 10

楽譜番号 157（NHK1965：142）　　（採録地：屈斜路）

| | （丹菊試訳） | |
|---|---|---|
| **T**uptari yan n**a** | 流氷が寄せたよ | |
| **T**ahiyo **ta** | タ　ヒヨ　タ | （語義不明） |
| Hiyo roro ha ho | ヒヨロロロハホ | （語義不明） |
| Hiyo **ta** | ヒヨ　タ | （語義不明） |

（NHK1965：142 掲載訳）
流氷が寄せたよ
……
……
……

NHK(1965）の解説によれば tuptari は「流氷」のことらしい。rup「氷」と関係がある語だろうか。yan は「上陸する（岸に向かってくる)」、na は終助詞である。tahiyo は不明、ta は場所を表す副助詞もしくは強調詞である。hiyo roro ha ho はいずれも言語音としての意味がないかけ声である。

意味が取れない部分が大半を占めるが、**t**uptari と **t**ahiyo は語頭で母音が異なり子音がともに t である。つまり子音 t で押韻している。

このような行頭の子音による押韻は数が少ないが他にもみられる。

資料 11

楽譜番号 71（NHK1965：77）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **H**awwappa | 半ワッパを |
| **H**ero hero hero | 食べよう食べよう食べよう |
| | ※NHK（1965：77 9 掲載訳は「弁当食べよう」だけである。 |

hero は本来は a=e ro（e「食べる」ro「〜しよう」）であり、人称接辞 a=があるはずで、また子音 h は不要である。もし NHK(1965：77-78）の解説と訳の通りだとすると、本来は以下のように行頭母音韻を踏んでいたと考えられる。

H**a**w wappa
**A**=e ro

しかし、やがて第 2 行の冒頭の人称接辞 a=が、第 1 行末の wappa の末尾母音 a を伸ばしたものだと誤解されて意味が分からなくなり、e がたんにかけ声と解釈されるようになったのであろう。そして行頭子音韻を踏むように子音 h が付加されて以下になったのであろう。

**H**aw wappa
**H**ero

なお、楽譜によれば持続時間で区切ると a で行頭母音韻、h で行頭子音韻を踏む。

**Ha**wwa / pa-
-**a** he / ro
**h**e / ro-
-o he / ro

つまり 2 行詩ではなく、以下のように各行の音節数の少ない 4 行詩と解釈できよう。

**H**awwapa
**H**ero
**H**ero
**H**ero

次のものは一見 2 行詩にみえるが、行の長さが半分の 4 行詩と解釈すると子音による頭韻の存在が分かる。

資料 12

楽譜番号 101（NHK1965：95）（採録地：二風谷）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Hup ca ho horerere | トドマツの枝　ホ　ホレレレ（語義不明、かけ声） |
| Hup ca ho hum hum | トドマツの枝　フムフム（かけ声） |

この歌の持続時間の配分は以下のようになっている（/で区切った部分が同じ長さで歌われる）。

Hup ca ho / horerere
Hup ca ho / hum hum

これは 1 行の音節数が少ない 4 行詩形式である。4 行で示せば以下のようになる。

| | |
|---|---|
| **Hup ca ho** | トドマツの枝、ホ（かけ声） |
| **H**orerere | ホレレレ（語義不明。かけ声） |
| **Hup ca ho** | トドマツの枝、ホ（かけ声） |
| **H**um hum | フムフム（擬音語） |

なお、NHK（1965：95-96）では horerere について胆振・釧路の類例から、元は ho ren ren だったと推測している。ho ren ren は「端よ沈め、沈め」というような意味である。hum hum は低い音を表す擬音語である。4 行には 2 行の繰り返し語句 hup ca ho が含まれているが、全て子音 h で始まっている。これは偶然ではなく、子音による頭韻であろう。

## ３－３．　母音による脚韻

資料 13

楽譜番号 8（NHK1965：30）（採録地：沙流川流域ピタラパ）

（丹菊試訳）

| | |
|---|---|
| Apka top**a** hoo | 雄シカの群　ホー |
| Ho top**a** hoo | ホー　群　ホー |
| Usus kin**a** hoo | 蹄　草　ホー |
| Ho kin**a** hoo | 草　ホー |

（NHK1965:30 掲載訳）

雄鹿の群だ　ホー
ホー　群だ　ホー
蹄の跡が草を　ホー
ホー　草を　ホー

usus は日常語としては中川裕（1995：62）に usis「ひづめ」という語が記録されている。伝統歌謡中で語形が変化してしまったのか、たんに歌謡の記録時のゆれなのかは不明である。なお、usus「ひづめ」と kina「草」は名詞が並置されているだけで、関係は歌詞中では語られていない。文としては動詞がなく不完全である。NHK（1965：30）では意訳している。

hoo は言語音としては意味のないかけ声であり、毎行の最後に繰り返されているので、神謡形式のリフレインのようなものと考えることができる。その場合は本文は

Apka top**a**
Ho top**a**
Usus kin**a**
Ho kin**a**

となり、各行の最後は topa と kina が 2 回ずつ繰り返されていることになる。top**a** と kin**a** はともに母音 a で終わっているので、母音 a による脚韻である。

## ３－４．　子音による脚韻

音節末子音による明確な脚韻はみられないようである。ただし、最後の音節の子音同士で押韻しているようにみえることもある。

### ３－４－１．　子音による脚韻とは何か

アイヌ語詩は原則として歌謡であり、各行末は持続して発声されるため、子音による脚韻は困難なはずである。しかし音節単位でみれば子音の一致は可能である。

資料３（再掲）

楽譜番号 60（NHK1965：71）　（採録地：釧路地区白糠）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **H**esi punkar sorar**pa** | ヘシ（語義不明）蔓が床を押さえつける（？） |
| W**a**sipetun casi | ワシペッ川の砦の |
| K**a**nras kasi ketunke | 屋根板の上がはがれた（？） |
| **Ha**wo punkar hawop**pa** | 音がした　蔓で（？）音がした |

※kanrasi と表記

この歌では、第１・４行の行末はどちらも pa で音節の子音と母音がともに一致している。これは複数標示の同じ接尾辞だが、sorar-pa と hawop-pa のように単語自体は別である。もちろん、たんに詩の意味内容によってどちらも複数標示がついているだけであり、音が一致したのはその結果にすぎず意図的ではないのだ、という可能性ももちろんある。

だが、もしもこれが意図的になされているとしたら、これは母音が一致した母音韻なのだろうが、子音も一致はしている。音節同士で onset オンセット（$C_1VC_2$ の $C_1$）が一致するものを頭韻、rime ライム（$C_1VC_2$ の $VC_2$）もしくは coda コーダ（$C_1VC_2$ の $C_2$）が一致するものを脚韻と呼ぶなら、これは「行末における頭韻」である。丹菊逸治（2018）では「最終音節における $C_1VC_2$ の任意の $C_1$ と $C_2$ が一致する押韻」つまり、「オンセット同士、コーダ同士、もしくはオンセットとコーダが一致する押韻」がアイヌ韻文の脚韻なのではないかと推測したが、それが偶然か否かの検証は、行頭母音に比較すると困難である。比較的検証しやすいと思われる叙事詩に関しても、田村すゞ子・平賀サタモ（1993）の行末音節でオンセット（$C_1$）同士が一致する比率は偶然より高いわけではない。また、実際には（ウポポにせよ叙事詩にせよ）歌詞の行末に閉音節が来る例は極めて少ない。

### ３－４－２．　子音による脚韻と思われる例

本稿での検証は主として行頭における頭韻、特に母音韻に絞り、アイヌ韻文における脚韻については今後改めて確認していきたいと考えている。ここでは脚韻と思われる例を紹介するだけにとどめておく。

資料 14

楽譜番号 81（NHK1965：83）（採録地：沙流川流域）

| | |
|---|---|
| hetunu**p** / hekarkar | エトゥヌプ（酒容器）が転がる（？） |
| hekannisi**po** / hesu**ye** | 天空が揺れる |
| sa tomari **ya** / sa ye**ya** ○ | 先の港の岸（？）先の岸（？） |

この歌を 3 行詩形式とすると、第 2・3 行末の ye と ya は意識的にそろえられているように思える。また、第 1 行前半部の最終音節 nup と第 2 行最終音節 po の子音 p も、偶然ではないように思われる。というのは hetunup の-p は単語の一部だが、hekannispo の-po はおそらく指小辞であり、本来はなくてもよいはずだからである。つまり hetunup に合わせて hekannisi に po が付けられた可能性がある。

次の例では、おそらく行末最終音節の母音は変えられているが、子音は保存されている。

資料 15

楽譜番号 138（NHK1965：127）（採録地：近文）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Ota nisike oman | 砂浜の薪を取りに行く（？） |
| Nisike se to**ri** | 薪を運んで（tori は語義不明） |
| Ota nisike se to**ro** | 砂浜の薪を取って背負って（？）（toro は語義不明） |
| Hun | フン（かけ声） |

NHK（1965:128）では「歌詞の意味は『砂浜を薪運びに行く……』といっているようであるが、なぜこんな歌が明らかでない。」とする。ota nisike oman「砂浜を薪運びに行く」（日常語文体であれば nisike の後に接続詞があってもよいかもしれない）ははっきりしているが、次の se tori と se toro は意味が分からない。したがって、se tori と se toro のどちらが本来の形なのかもわからないが、おそらく本来は同じ音形だったのに、最終母音だけ i

と o に分かれたのは間違いなさそうである。

次の例では最終音節が-run, we, wa, wa となっている。第 1 行は一致とはいえないかもしれないが、第 2 行末音節-we と、第 3・4 行末の wa は子音をそろえているように見える。

資料 1（再掲）

楽譜番号 16（NHK1965:35）（採録地：近文）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Asipet par**u**n | アシペッ川の |
| Kamuy ma**we** | 神の風 |
| Kantori **wa** | 天界から |
| Pitori **wa** | 神（？）から |

なお、持続時間が同じ部分を「/」で区切って示せば以下のようになる。

Asipe pa / run k**a**
muy maw / -e
Kantori / wa pi-
-tori / w**a**

## ３－５．　母音による繰り返し韻

行頭と行頭で音を一致させる行頭韻、行末と行末で音を一致させる行末韻など、複数の行にまたがる押韻のほかに、１つの行の内部で同じ音を繰り返す「繰り返し韻」がある。「繰り返し韻」は母音によるものと、子音によるものがある。

資料９（再掲）

楽譜番号７（NHK1965:29）（採録地：千歳）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Ororo pinne owa heya | オロロ（語義不明）雄が集って　ヘヤ |
| Owa cisinere | 集って鳴く（？） |
| Apk**a** top**a** ow**a** hey**a** | 雄鹿の群れが集って　ヘヤ |
| Owa cisinere | 集って鳴く（？） |

（NHK1965:29 掲載訳）
狼の雄の群がどっさり
どっさりさわいでいるよ
強い雄鹿がどっさり
どっさりさわいでいるよ

第３行 apk**a** top**a** ow**a** hey**a** は単語（あるいは２音節単位）が全て a で終わっている。これは「繰り返し韻」である。「繰り返し韻」には「繰り返し頭韻」と「繰り返し脚韻」がある。ここでは「繰り返し脚韻」であり、ちょうど４打の裏（ウラ）拍にあたる。

## ３－６．　子音による繰り返し韻

資料３（再掲）

楽譜番号 60（NHK1965：71）　（採録地：白老浜）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Hesi punkar sorarpa | ヘシ（語義不明）　蔓が床を押さえつける（？） |
| W**a**sipet un casi | ワシペッ川の砦の |
| **Ka**nrasi **k**asi **k**etun**k**e | 屋根板の上がはがれた（？） |
| H**a**wo punkar hawoppa | 音がした　蔓で（？）音がした |

田村すゞ子（1987：45）に類例と解説があり、kanras は板屋根の板、ketunke は「はがれる」という意味だという。sorarpa は田村訳では「見えてきた」。試訳では so-rarpa「床を・押さえつける」とした。hesi は語義不明。hawo はかけ声だが、NHK(1965：72）では hawot「音がする」、hawoppa はその複数形と解釈している。

第３行の **k**anras **k**asi **k**etun**k**e は３単語の各語頭および最後の語の最終音節がいずれも子音 k で始まる、「繰り返し頭韻」である。位置的にも４打を打つときの表（オモテ）拍にあたる。

なお、NHK(1965）では訳は付されていないが、次の類例が訳とともに掲載されている。

資料 16

楽譜番号なし（NHK1965：72）　（採録地：釧路地区白糠和天別）

| | |
|---|---|
| **Ha**w o punkar | …蔓で |
| **ha**w oppa | …… |
| **Ha**si kuruka | 灌木の上を |
| sorarpa | 片付けて |
| **Ka**si pet tun casi | ハシペッの砦の |
| **ka**nrasi kasi | 一本の割木を上に |
| **k**etunke | かぶせ |

これはこれで美しい行頭子音韻が並んでいることになるが、各行に 2 打を打つと第 5 行がうまく合わない（この行には 3 打が必要である）。この歌い方が楽譜例と同じだとするとむしろ以下のような 4 行詩ととるべきであろう。

| | |
|---|---|
| **Ha**w o punkar haw oppa | …蔓で…… |
| **Ha**si kuruka sorarpa | 灌木の上を片付けて |
| **Ka**si pet un casi（休止） | ハシペッの砦の |
| **K**anrasi **k**asi **k**etun**k**e | 一本の割木を上にかぶせ |

（丹菊による再構、訳は NHK1965：72 をそのまま用いた）

## ４．　繰り返し語句

複数の行で同じ語句が繰り返されている歌がある。これらは同じ行が繰り返されていることもあるが「行の一部の語句のみが複数行で一致する」場合もある。「一部のみ一致する」という点では押韻と共通するが、押韻と異なり「一致した部分」は同じ意味を有している。「押韻」は「意味は異なるが音が一致する」という現象であり、「繰り返し語句」は「行全体の意味は一部異なるが音が一致する」という現象である。つまり「繰り返し語句」は「押韻より音の一致度が高い」ともいえよう[12]。繰り返し語句は押韻と同じく、行頭にある場合、行末にある場合、そして行内部で繰り返される場合がある。また、押韻とは異なる特殊なものに「同一行の繰り返し」と「しりとり型配置」による関係文がある。

### ４－１．　繰り返し語句が行頭にあるウポポ

先にあげた NHK（1965：127）楽譜番号 138 は行頭で一致している例である。

資料 15（再掲）

楽譜番号 138（NHK1965:127）（採録地：近文）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **Ota nisike** oman | 砂浜の薪を取りに行く（？） |
| Nisike se tori | 薪を運んで（tori は語義不明） |
| **Ota nisike** se toro | 砂浜の薪を取って背負って（？）（toro は語義不明） |
| Hun | フン（かけ声） |

上の詩は 4 行詩形式としてみた場合、第 1・3 行の行頭が繰り返し語句 ota nisike になっていて、残り 2 行は押韻していない。

[12] 詩は発話であるから、発話内容が先に進まなくてはならないが、同時に繰り返し感覚を持たせたい。押韻は「話を先に進めつつ、音を繰り返す」ための技法である。同一行を繰り返せば、音は完全な繰り返しになるが、話が先に進まなくなってしまう。「繰り返し語」はその中間的な技法ともいえる。すなわち、「音は不完全に繰り返され、話は少しだけ先に進む」のである。

## ４－２．　繰り返し語句が行末にあるウポポ

繰り返し語句が行末にあり、残りの行に押韻がみられない例もある。

資料 17

楽譜番号 123（NHK1965：113）（採録地：十勝地区伏古）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Kanto horikasi wa | 天空から |
| Kamuy ran mat **heene** | 神が降ろした女神 |
| Piwsee piw | バリバリ響く |
| Kanto **heene** | 天空に |

行頭・行末でたんに 1 組の母音が一致するだけならば偶然の可能性もあるが、このように語句が一致する場合にはもちろん偶然ではありえない。また、この heene は語義が明確ではなく、意味的な理由で一致しているとは限らないのである。このような例は、行末においても音の一致すなわち行末韻（脚韻）が志向されている可能性を示唆する[13]。

[13] 「繰り返し語句」と押韻は類似の現象という可能性が高い。日本の和歌においても、古代歌謡に頭韻現象が知られているが、福田智子・南里一郎・竹田正幸（2002）は『万葉集』に同一文字列の反復が多くみられることを指摘している。

## ４－３．　最終行内の繰り返し語句

詩の最終行などに繰り返し語があることがある。前項における繰り返し語は、頭韻と同じく複数の行の行頭部に繰り返されるが、このタイプでは「繰り返し韻」と同じく、同一行内で同じ語句が繰り返される。

資料 18

楽譜番号 142（NHK1965:131）（採録地：十勝地区伏古）

（丹菊試訳）

| | |
|---|---|
| Pon paykar an kor | 小さな春が来た |
| Iwa se kotor | 霊山の背後に |
| Apka kotoyse | 雄鹿が群れをなす |
| Iwa topenni | 霊山のイタヤカエデを |
| **Kepu kepu kepu** | かじるかじるかじる |

（NHK1965：131 に付された訳）

早春になると
山の斜面に
雄鹿が集まって
イタヤの木を
かじる　かじる　かじる

NHK（1965:131）では第 3 行第一語は apuka になっているが apka の誤記であろう。なお、*kepu という語形は主要な辞書・語彙集には収録されていないが、kepkepu「かじる（他動詞）」という語の存在からすると、kepu という語形があってもおかしくない。

最終行 kepu kepu kepu では、*kepu「剥ぐ（？）」が同一行内で繰り返されている。このような歌の最後部分にある同一行内の繰り返し語からはいずれもとってつけたような印象を受ける。歌も元来は以下のような 4 行詩形式だったのではないかと思われる。kepu の繰り返しは、ウポポとして複数人で歌われるようになったのちに追加されたのではないか。

（丹菊による再構形）
Pon paykar an k**or**
**Iwa** se kot**or**
Apka kotoyse
**Iwa** topenni kepu（あるいは kepkepu）

この再構でも、第 2・4 行で繰り返し語 iwa が用いられていて、残りの行は行頭で押韻していない（つまり、最初から頭韻はなかった）。

なお、この歌は歌い方も変わっている。持続時間の配分を「/」で区切って示せば以下のようになる。それぞれ上から 2 打・2 打・3 打・2 打・3 打ずつと思われる。

Pon paykar / an kor
Iwa se / kotor
Apka / kotoyse- / -e
Iwato / penni
Kepu kepu / kepu- / -u

## ４－４．　同一行の繰り返し

同一行の繰り返しには、歌詞中の２行以上が同一行になり、他の行が異なっている場合と、同一行だけを繰り返すものがある。

### ４－４－１．　４行中２行が繰り返される形式

資料 19

楽譜番号 12（NHK1965:31）（採録地：鵡川流域春日）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **Ho topa ho** | ホ　群　ホ |
| Uses kina ho | 蹄の草　ホ |
| Apka topa ho | 鹿の群　ホ |
| **Ho topa ho** | ホ　群　ホ |

資料 13（楽譜番号 8　本書 p25）の類歌である。この歌では、最初の行と同一の行が最後に繰り返されている。はさまれた２行は別の語句になっている。

行全体が繰り返される位置は歌によって決まっているようである。**AA**BC（楽譜番号 133 など)、**A**B**A**C（楽譜番号 110 など)、**A**BC**A**（楽譜番号 12 など)、A**B**C**B**（楽譜番号 89 など)、AB**CC**（楽譜番号 115)、の全ての組み合わせが実在する。

なお、ウポポ以外のジャンルでは４行中第３行のみが異なり、残り３行が同じ行になっているもの（AABA)があるが（楽譜番号 160 など)、NHK（1965）に掲載されたウポポ 159 歌にはそのような例は見当たらない。

### ４－４－２．　同一の１行のみを繰り返す形式

資料 20

| |
|---|
| 楽譜番号 53　（NHK1965：65）（採録地：静内地区新冠万世）<br><br>（丹菊試訳）<br>**Ha**nru **ha**e ruhu wa　　ハンルハエ（かけ声）道から<br>Hanru hae ruhu wa<br>Hanru hae ruhu wa |
| NHK(1965：65）には「意味はよくわからないが次のようにも解される」として「足跡がわからない／ツンドラ地帯で」という訳を掲載している。 |

NHK(1965）では、同一行の繰り返しでも各回の音の高低パターン（いわゆる旋律）が異なる場合は全回を楽譜化している。これらは同一行の繰り返しによる複数行詩と考えるべきであろう[14]。同一行 1 行の繰り返し回数は 2〜6 行まで幅があるが、1 行が 1 回だけ歌われるとおぼしき例はないからである。なお、この形式の歌の多くには「繰り返し韻」が含まれている。

[14] 音の高低パターン（いわゆる旋律）と語句や詩形式の関係については今後の研究課題としたい。この繰り返し回数が何によって決まるのかについても現時点では全く分からない。

### ４－４－３．　同一の２行を２回繰り返す形式

資料 21

楽譜番号 149（NHK1965：136）（採録地：沙流川流域荷負）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Tama kuto | 玉が帯についた（？） |
| Hae | ハエ（かけ声） |
| Tama kuto | |
| Hae u | |

NHK（1965；136）では類歌をあげて「首飾りの珠の紐が切れて、珠がちらばったときの驚きが、そのままウポポになったものであるといっている」とする。

この歌は各行が 4 音節になっている。tama kuto と hae が同じ長さで歌われていることから、tama kuto hae を 2 回繰り返す 2 行形式ではなく、4 行形式とみるべきであろう。

このような 2 行の繰り返しには ABAB 形式、AABB 形式がある（ABBA 形式はないようである。繰り返し歌うので AABB と差がないためであろう）。2 行の繰り返し形式の歌にはこの歌のように意味の分かる語句が含まれるものは少ない。

資料 22

楽譜番号 110（NHK1965：102）（採録地：釧路地区美幌）

| | |
|---|---|
| (-e) Hu wa e / iyo ey o | |
| wa hew /ro hae- | |
| -e hu wa e / iyo ey o | |
| wa hew / ro ha e- | （語義不明） |

歌詞が全て語義不明ではあるが、歌い出しがウラ拍になっているので、実際には以下のような 2 行を 2 回繰り返している 4 行形式としてみるべきであろう。

Hu wa e iyo ey o
Wa hew ro hae

## ４－５．　関係文的な繰り返し語句

先行する行の行末と、後続する行の行頭に同じ語が繰り返されることがある。これは一種の関係文であり、統語論的な現象でもある。

資料 23

楽譜番号 121（NHK1965：110）（採録地：静内地区昭和）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Kani **rewka** | 金属の橋 |
| **Rewka** pake | その橋の頭が |
| Topan topan | たわむ　たわむ |
| Topan rewke | たわんで曲がる |

Batchelor（1938：506）「Topan-topan　v.t. To move or shake about.」とある。何かの影響で揺れる、すなわち「たわむ」ということかと思われる。

第 1・2 行では kani rewka rewka pake「金属の橋　橋の頭」という叙事詩文体的な関係文が用いられている。口語文体であればたんに kani rewka pake「金属の橋の頭」である。このような関係文については、金田一京助（[1908]1992：20）は「尚、『繰返し』の今一つの他の仕方は、前の句の末の語を、次の句の頭に今一遍繰返して綾を成して行く方法である」、田村すゞ子（1987：18）は「位置名詞などの前で、韻文ではよく、その前の名詞句の最後の名詞を行の頭にくり返す：páse kotan/kotan tapkasi.」と指摘する。丹菊逸治（2018：24）でも「しりとり型母音配置」として押韻と同じような「繰り返し」の詩的技法とみなした

しかしこれはたんに音の上での効果を狙った「繰り返し語」ではなく、叙事詩的な関係文構造というむしろ統語論的な現象とみなすべきかもしれない。

なお、第 3 行の内部で topan「たわむ（？）」が 2 回繰り返されている。この詩には、行頭部に繰り返し語があるだけで頭韻はない（母音脚韻は 4 行で踏んでいる）。また、第 3・4 行の行頭では頭韻と同じような「繰り返し語」としても topan が用いられている。

## ５．　交差配列による行頭韻

資料 24

楽譜番号 29（NHK1965：46）（採録地：静内地区田原）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| **C**upka wa | 東から |
| **k**amuy ran | 神が下りた |
| **l**wa teksam | 小山の近くに |
| **o**rew | とまった |
| **l**wa teksam | 小山の近くに |
| **k**ani maw ne | 金属音が |
| **c**inu | 聞こえた |

（NHK1965：47 掲載訳）
東の方から
神がおりて
岩角に
とまった
岩角に
美しい響が
聞えた

この歌では行頭の母音と子音が c-k-i-o-i-k-c と並んでいる。いわゆる交差配列である。交差配列[15]は通常は 1 行の内部で母音の繰り返し韻として好まれる。行頭でこのように母音と子音が整然と並んでいる歌は管見ではこの歌だけであるが、類歌が全道的に分布しているのでかなり好まれたのであろう。

[15] アイヌ口承文芸において交差配列が好まれていることは、大喜多紀明（2012）とそれに続く一連の研究で指摘されている。この歌の行頭交差配列韻については丹菊逸治（2018：44）が指摘している。

## ６．　１行の音節数

１行の音節数は原則として８音節以内である。ウポポとして歌う場合、sintoko シントコと呼ばれる漆器の蓋等を軽く叩いて拍子をとるが、その際には２打×２回＝計４打を音の高低パターン[16]の単位としており、１打につき２音節を発声する。ただし、全体が１行４音節で構成されている場合もある。その場合は１行あたり４打ではなく２打で歌われる。１〜4音節の行と 5〜８音節の行が混在している場合は、たいていは続けて歌ってしまうが、短い行に休止を足したり、適宜母音を伸ばしたりして長い行に合わせることもある。

次のものは１行あたり２打（4 音節）の４行形式である。

資料 25

楽譜番号 82（NHK1965:83-84）　（採録地：近文）

Hetunup
He kar kar
Hekan nisu
He sue

歌い方を無視したとしても、これらを十数音節の１行詩あるいは、7 音節前後の行からなる ２ 行詩と考えることは困難であろう。実際にはもっと短い単位で頭韻もしくは脚韻を意識しているからである[17]。やはり、行の長さが通常より短い（4 打ではなく ２ 打分である）4 行詩になっているとみるべきであろう。NHK(1965）に２行詩形式で掲載されているもののほとんどはこれにあたる。

[16] いわゆる「旋律」であるが、本稿では「音の高低パターン」と呼ぶ。実際にはアイヌ伝統歌謡は言語音から音の高低が確定する「朗唱」であり、言語音と無関係に作られうる「旋律」という用語は適切ではないからである。

[17] もちろん「規則的に繰り返し語句が入る１行詩」などとみなすことはできようが、それはあまり意味がないように思われる。

## ７．　行頭に母音韻・繰り返し語句を持たない６例の検討

アイヌ語の母音は 5 つなので、4 行あれば偶然でも 8 割程度は「2 個以上の母音の一致」がみられるはずである。以下は 4 行形式の行頭で母音の一致が偶然生じる確率である。

**表２．４行詩において偶然押韻が生じる確率**

| 押韻の種類 | 確率（%） |
|---|---|
| 2 行のみ一致 | 57.6 |
| 2 行の一致が 2 組 | 9.6 |
| 3 行の一致 | 12.8 |
| 4 行全てが一致 | 0.8 |
| 4 行全てが相違 | 19.2 |
| 合計 | 100 |

このように 4 行形式では偶然でも母音が一致しやすい。一つでも一致がある確率は 81.8%である。したがって行頭や行末で母音が一致していても大半は作為ではなく偶然であろう。また、「繰り返し語句」があれば、行頭母音も当然一致するが、これは作為であるにしても「押韻」とはいえないであろう。

しかし、NHK（1965）のウポポ 159 歌では、うち 153 歌に「行頭での母音の一致」（繰り返し語句による一致、同一行の繰り返しによる複数行詩を含む）がみられる。この比率は 96.2%であり、偶然より高い比率である。

行頭に繰り返し語句も押韻もみられないのは以下の 6 歌である。

楽譜番号 1、22、28、33、120、159

これは全 159 歌の 3.8%にすぎず、偶然で生じる確率 19.2%を考慮すると少ない。以下ではさらにこれら 6 歌について「行頭母音がかかわる別種の押韻の有無」を 1 つずつ検討する。

## ７－１．　行頭に押韻も繰り返し語も持たないウポポ（その１／６）

資料 26

楽譜番号 1　（NHK1965：26）（採録地：近文）

A ho he
Ho ho he　（語義不明）

全体が意味のない音で構成されているが、形式的には数少ない 2 行形式とみてよいであろう。最初の音節が第 1 行は a、第 2 行は ho というように変えられている。残りの部分 ho he は同じである。これはむしろ「同じ音の繰り返しで冒頭音節のみ変えてある」のである。つまり「繰り返し語句」の変形であり、押韻と同じような「繰り返し」効果がすでにあるので、押韻をさらに重ねなくともよいはずである。また、言語音としては意味がない ho he という音は同じ子音 h と異なる母音 o, e の組み合わせになっている。つまり一種の繰り返し韻である。

なお、4 行形式として解釈すれば、以下のような数少ない 1 行 1 打形式である。

A ho-
**o**-He ○
H**o** ho-
**o**-He ○（持続時間で切った場合）

A ho
He
Ho ho
He　　（言語音（？）で切った場合）

## ７－２．　行頭に押韻も繰り返し語も持たないウポポ（その２／６）

資料 27

楽譜番号 22　（NHK1965：89）（採録地：沙流川流域去場）

| | | （丹菊試訳） |
|---|---|---|
| **A**tuy so ka t**a** | hua ra e hoy | 海原の上で フアラエ　ホイ |
| **O** pinne cir[i]p**o** | hua ra e hoy | 雄の小鳥が フアラエ　ホイ |
| Tepakan tepakan | hua ra e hoy | 羽ばたく羽ばたく　フアラエ　ホイ |
| | | |
| S**a**n ota ka t**a** | hua ra e hoy | 村の前の浜で　フアラエ　ホイ |
| **O** matne cir[i]p**o** | hua ra e hoy | 雄の小鳥が　フアラエ　ホイ |
| Rimimse rimimse | hua ra e hoy | 叫ぶ叫ぶ　フアラエ　ホイ |

（NHK(1965：40）に「tepakan は水禽が水の上で羽搏きすることをいう」とある）

（NHK1965：40 掲載訳

海の上で／ウワラエ　ホイ
雄の小鳥が／フワラエ　ホイ
あっぷあっぷすると／フワラエ　ホイ
浜辺では／フワラエ　ホイ
雌の小鳥が／フワラエ　ホイ
びっくりして騒ぐ／フワラエ　ホイ
（改行は適宜／に変えた）

2 つの 3 行詩連で構成されている。各詩連内部では第 1 行の行頭・行末母音がともに a、第 2 行の行頭・行末母音がともに o となっている。各詩連内部では行頭で母音韻は存在しないが、第 1 詩連と第 2 詩連の第 1 行同士、第 2 行同士は同じ母音 a, o となっている。つまり各詩連の第 1 行同士、第 2 行同士という対応行頭が押韻する。例は少ないが叙事詩等にもみられる技法である。

このような2連3行詩形式は、4行詩的から派生して作られたと考えてよいだろう。すなわち、第1詩連第3行 tepakan tepakan、第2詩連第3行 rimimse rimimse という押韻していない繰り返しを1回にして第2行の末尾につれば（そして hua ra e hoy というリフレインを除けば)、以下のような5・8・5・8音節の4行詩形式になる。

**A**tuy so ka t**a**
**O** pinne cir po tepak**a**n
S**a**n ota ka t**a**
**O** matne cir po rimimse

## ７－３．　行頭に押韻も繰り返し語も持たないウポポ（その３／６）

資料 28

楽譜番号 28（NHK1965：45）（採録地：東静内）

（丹菊試訳）

| | |
|---|---|
| Cupka un mat | 東の女性（女神）が |
| Atte sinta | かけた揺り籠 |
| Sinta atka | その揺り籠の紐 |
| O ha o | オ　ハ　オ（かけ声） |

（NHK1965；45 掲載訳）

月の上の女神の
さげたゆりかごの
ゆりかごの紐
オ　ハ　オ

第 1 行が u-a-u-a という繰り返しの母音配列になっている。また第 2・3 行は atte sinta sinta atka「かけた・揺り籠の、揺り籠の・紐に」という 4 語の頭母音が a-i-i-a という交差配列になっている。第 4 行も母音が交差配列である。つまり

| | | |
|---|---|---|
| C**u**pk**a** **u**n m**a**t | u-a-u-a | （音節単位） |
| **A**tte s**i**nta / S**i**nta **a**tka | a-i-i-a | （単語の語頭） |
| **O** h**a** **o** | o-a-o | （音節単位） |

なお、この歌詞は脚韻が優位である。行単位はもとより、cupk**a** / un m**a**t / atte / sint**a** / sint**a** / atk**a** / o ha o という 2 音節単位でも、7 つのうち 5 つまでが a で終わっている。

C**u**pk**a** / **u**n m**a**t
Atte / sint**a**
Sint**a** / atk**a**
O ha o

そしてこの詩は音節の軽重の配列も以下のようにそろっている。●は CVC、○は CV 音節である。

| | |
|---|---|
| ●○●● | Cupka un mat |
| ●○●○ | Atte sinta |
| ●○●○ | Sinta atka |
| ○○○ | O ha o |

第 1〜3 行まではほぼそろっている[18]。第 1 行末と第 2・3 行末は○●（軽重）が揃っていないが、mat, -ta, -ka のように行末母音が揃えられている。

以上のように、この詩では行頭部も含めて別の音の作為がなされているので、それが理由で行頭での押韻を志向しなかった可能性が考えられよう。

なお、この歌はもともとは叙景詩として作られたものではなかったようである。NHK（1965：45）の解説には、特定の儀礼と結び付けられた特殊なウポポである、本来は子守歌だった、などの証言が紹介されている。また、歌詞中の atte sinta sinta atka「かけた揺り籠、その揺り籠の紐」という叙事詩的関係文が見られることからは、叙事詩（yukar）あるいは神謡（oyna）など何らかの韻文物語の一部だった可能性が考えられる。散文であれば atte sinta atka「かけた揺り籠の紐」でよい。このタイプの関係文は NHK（1965）の掲載のウポポ 159 歌中、この楽譜番号 28（資料 28)、楽譜番号 120（資料 30)、楽譜番号 121（資料 23）の計 3 歌にしかみられない（第 2 章でとりあげる平賀サタモ[1959]1993 では 310 詩連中 21 詩連にみられる)。楽譜番号 120 は楽譜番号 28 同様に押韻を持たない歌である。楽譜番号 121 はおそらく楽譜番号 120 の最後の 1 行が繰り返されるようになったものである。

[18] アイヌ語韻文の formula 内の行同士でしばしば音節数がそろえられているという現象については金田一京助（[1933]1992：296）Philippi（1979：30）が叙事詩文体について指摘している。金田一京助も Philippi もアイヌ韻文に韻律（metre つまり、CVC 音節と CV 音節の規則的配置）を認めてはいない。実際には丹菊逸治（2018）で指摘したように、音節数だけでなく音節の配置パターンがそろえられる、という韻律がみられる。

## ７－４．　行頭に押韻も繰り返し語も持たないウポポ（その４／６）

資料 29

楽譜番号 33（NHK1965：49）（採録地：十勝地区音更）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Cupkihi kamuy | 神々しい月の光が |
| Iwani kurka oman | アオダモの上を照らし行く |
| Etannewa oman | 長く伸びて行く |

（NHK1965：49 掲載訳）
月の光の神が
アオタモの影の上を行く
それを長くして行く

第 2・3 行末で oman という同語の繰り返しがあるが、それ以外は押韻も繰り返し語もない。だがこの詩では資料 28（楽譜番号 28）と同様、叙事詩によくみられる不完全韻[19]が用いられている。不完全韻というのは、「音が全体として似た語句」同士という「韻」である。ここでは、第 2 行前半部 iwani kurka と第 3 行前半部 etannewa が不完全韻となっている。

**i**-w**a**-**ni** k**u**r-k**a**
**e**-t**a**n-**ne w**-**a**

のように、i と e、wa と tan、ni と ne、kur と w、ka と a が対応し、全体として「音がよく似た語句」になっている。

| 第 2 行前半 | i | wa | ni | kur | ka |
|---|---|---|---|---|---|
| 第 3 行前半 | e | tan | ne | w | a |
| 音の共通性 | 前舌の狭め母音 | 母音 a | 子音 n<br>前舌の狭め母音 | 円唇音 | 母音 a |

この歌には資料 28（楽譜番号 28）とは異なり、もともと韻文物語の一部だったという証言はないようだが、同じく叙事詩等に多用される不完全韻を用いている。特殊な行頭音配列を持つ楽譜番号 29～32 の類歌でもある。丹菊逸治（2018：44）を参照のこと。

[19] 第 2 章第 6 節参照

## ７－５．　行頭に押韻も繰り返し語も持たないウポポ（その５／６）

資料 30

楽譜番号 120（NHK1965：110）（採録地：十勝地区芽室太）

| | （丹菊試訳） |
|---|---|
| Kane rexwka | 金属の橋 |
| rexwka no ho sike | 橋の真ん中 |
| topan rexwke | たわんで曲がる |

（NHK1965：111 掲載訳）
丈夫な橋
橋の真中が
しなりまがる

ローマ字表記の x は NHK（1965：110）に従ったものである。

x で表されている部分は、おそらく裏声を使っている部分であり、言語音ではないであろう。また、no ho sike の ho も no が裏声を用いて伸ばした部分であろう。sike の母音 i も聞き間違いの可能性が高い。したがって、言語音としては

Kane rewka
rewka noske
topan rewke

というような語形と思われる。この歌は叙事詩形式の特徴を備えている。散文体であれば kane ruyka noski「金属の橋の真ん中」となる関係文を kane ruyka, ruyka noski「金属の橋・橋の真ん中」と 2 つの名詞句に分割して 2 行にするのは叙事詩文体の特徴の一つである（第４－５節参照）。また第 1 行 rexwka<riwka「橋」と rexwke＜rewke「曲がっている」は、歌謡以外の韻文でよく用いられる不完全韻を踏んでいる。ただし行頭部分ではなく行末部分である。

先にあげた資料 25 はこの歌の類歌であり、おそらく本来は 3 行詩形式だったものを、topan を繰り返した第 3 行を加え、4 行詩形式に改変したものである。

資料 23（再掲）

| 再掲　楽譜番号 121（NHK1965：110）（採録地：静内地区昭和） | |
|---|---|
| | （丹菊試訳） |
| Kani rewka | 金属の橋 |
| Rewka pake | その橋の頭が |
| **Topan topan** | たわむ　たわむ |
| **Topan** rewke | たわんで曲がる |

資料 30 のように、3 行形式で行頭に母音韻や不完全韻を持たないものは不安定であり、だからこそ、資料 25 は topan を繰り返して行を増やし、安定した 4 行形式に改変されたのではないだろうか。

なお、kane ruyka「金属の橋」という文学的修辞は「余興踊り歌」ジャンルに分類されている楽譜番号 283 にもみられる。

資料 31

| 楽譜番号 283（NHK1965：267）（採録地：釧路地区塘路） | |
|---|---|
| | （丹菊試訳） |
| Konkani ruyka ho ruyka | 金属の橋　ホ　橋（ホはかけ声） |
| Konkani ruyka ho ruyka | 金属の橋　ホ　橋 |

NHK（1965：267）では konkani ruyka ho ruyka を 2 行繰り返す 2 行詩のように扱われているが、以下のような 4 行形式とみてよいであろう[20]。

K**o**nkani **ruyka**
H**o ruyka**
K**o**nkani **ruyka**
H**o ruyka**

[20] NHK（1965：267-268）でも 2 行の歌詞が異なる類歌が 4 行形式にまとめられている。

## ７－６．　行頭に押韻も繰り返し語も持たないウポポ（その６／６）

資料 32

| | |
|---|---|
| 楽譜番号 159（NHK1965：143）（採録地：静内） | |
| | （丹菊試訳） |
| Yuk top**a** r**a**n n**a** | 鹿の群が下りてきたぞ |
| Cipes**o**r**o** s**o**r**o** h**o**y | 船に（？）沿って下りてくる　ホイ |
| | （NHK1965：143 掲載訳） |
| | 鹿のかたまりが天降ったよ |
| | 吾里川にそうておりる |
| NHK（1965：144）では cip は cipet「我々の川」の意とするが、そう解釈するのは難しい。 | |

この歌の持続時間が同じくなる位置を「/」、休止を「○」で示せば、歌い方は以下のようになる。

Yuk top**a** / r**a**n n**a**
Cipes**o**r**o** / s**o**r**o**
H**o**y / ○

この歌は数少ない 3 行形式で、1 行目の後半が母音 a、2 行目の後半が母音 o による繰り返し韻になっている。おそらく行の大半部分が繰り返し韻になっているので、行頭母音を踏まずにすませているのであろう。本来は、

Yuk top**a**
ran n**a**
Cipesor**o**
soro h**o**y

のような脚韻優位の 4 行形式だったとも考えられる。

ただし、丹菊逸治（2018：42）で提案したように半子音 y が母音 i と押韻、つまり yuk の y と cipesoro の i が行頭母音を踏んでいる可能性もある。

## ７－７．　行頭に母音韻も繰り返し語句も持たないウポポ６歌のまとめ

以上、行頭に母音韻も繰り返し語句も持たない 6 歌の詩法を確認した。その結果は以下である。

**表３．**

| 特徴 ＼ 資料番号（楽譜番号） | 4 行形式で母音韻 | 行頭交差配列 | 行頭不完全韻 |
|---|---|---|---|
| 26（楽譜 1） | | | |
| 27（楽譜 22） | ○ | | |
| 28（楽譜 28） | | ○ | |
| 29（楽譜 33） | | | ○ |
| 30（楽譜 120） | | | |
| 32（楽譜 159） | | | |

4 行詩形式と解釈すると行頭母音で押韻しているものが 1 歌ある。次に、行頭母音を巻き込んだ交差配列を持つものが 1 歌、行頭母音を巻き込んだ不完全韻を持つものが 1 歌ある。これら 3 歌は「行頭母音がかかわる押韻」がなされているわけである。したがって、行頭母音がかかわる押韻現象が全くみられないものは 3 歌、すなわち資料 26（楽譜番号 1 本書 p43)、資料 30（楽譜番号 120　本書 p49)、資料 32（楽譜番号 159　本書 p51）だけである。

## ９．　第１章の結論

NHK（1965）のウポポ資料 159 歌で行頭押韻の確認を行った。行頭における母音の一致は偶然（およそより高い比率（153 歌 96.2%）で生じていて、作為的な押韻が行われている可能性が高い。行頭における母音の一致がみられないものは 6 歌（3.8%）あるが、うち 3 歌には行頭母音がかかわる別種の押韻が用いられている。いかなる意味でも行頭部に押韻を持たないのは 3 歌（1.9%）のみである。

このようにＮＨＫ（1965）のウポポ資料にかんするかぎり、偶然とは思えない高い比率（156 歌 98.1%）で押韻が確認できた。

## 第 2 章　アイヌ叙事詩の詩連構造・行頭母音韻・不完全韻

### 概略

平賀サタモによって 1959 年に語られた叙事詩には、①3・4 行詩連を中心とする詩連構造がある。②4 行詩連には偶然生じる確率（88.6%）より高い比率（94.3%）で行頭母音韻がある。③主として詩連内部の不完全韻が全体の半数以上の行で確認できる。

### 1．　目的

叙事詩の例として平賀サタモ[21]（[1959]1993）をとりあげ、同テクストにおける、1．詩連構造の存在　2．行頭母音韻その他の押韻の存在　3．不完全韻の存在　を検証する。

この叙事詩作品は、北海道鵡川町生まれの平賀サタモ（1895 年頃〜1972）によって 1959 年に語られ、それを言語学者田村すゞ子が録音したものである。田村すゞ子は 1963 年に文字化作業を終え、1993 年に文字テキストが録音資料とともに公刊された[22]。公刊されたテキストには語り手平賀サタモによる注釈がほどこされている（一部の文言の修正、行の追加など）。本稿では原則として録音資料の分析を行う。田村すゞ子・平賀サタモ（1993）掲載の加筆修正されたテキストと区別するために、録音資料（の文字化テキスト）を「平賀サタモ（[1959]1993）」とする[23]。なお、本来はアイヌ口承文芸作品に題名はないが、田村すゞ子は「村焼き国焼き」（アイヌ語 Kotan sitcire Mosir sitcire）という題を付している。

平賀サタモ（[1959]1993）のローマ字表記は必ずしも田村すゞ子・平賀サタモ（1993）と同じではない（聞き起こし自体が異なることもある）。また、訳は田村すゞ子・平賀サタモ 1993 を参考にしているが丹菊による試訳である。u, ep などの虚辞はそのまま示してある（ただし文頭でも小文字のままにしてある）。行を例示する際には田村すゞ子・平賀サタモ（1993）で付された行番号を 4 桁の数字で行頭に付した。

---

[21] 田村すゞ子（1996：付録頁 22）では「平賀サダ」として写真入りで掲載され、さらに「アイヌ名 Satamo サタモ、通称サダモ」としている。田村すゞ子編による刊行物では署名等に「サダモ」として表記されているが、ここではアイヌ語形として掲載されている「サタモ」を用いることにした。

[22] 2020 年 3 月現在で早稲田大学リポジトリ https://waseda.repo.nii.ac.jp/からテキスト本および録音資料が公開されている。リポジトリで公開されているテキストは 1993 年の刊行物の撮影画像であり、物語本文のみで解説部分は含まれていない（図書館等に収蔵されている印刷版を参照されたい）。公開されている録音は mp3 フォーマットである。

[23] この録音資料には文字資料と異なりエディションの差は存在しないため録音時の年号を付すことにした。

## ２．　平賀サタモによる 1959 年の語りにおける「行」

### ２－１．　アイヌ韻文体の「行」

アイヌ民族の叙事詩は朗唱されるものである[24]。upopo ウポポを始めとする伝統歌謡（叙景詩)、リフレインを持つ神謡（oyna オイナ、kamuyyukar カムイユカㇻ)、叙事詩（yukar ユカㇻ、sakorpe サコロペ)、神への祈り（kamuynomi カムイノミ）など、口頭伝承（あるいは口承文芸）ジャンルによって歌い方は少しずつ異なるが、基本的にはいずれも朗唱である。つまり、歌詞（言語音）が重要であり、歌詞に合わせて音の高低パターン（いわゆる「旋律」だが、器楽の曲とは異なり、歌詞つまり言語音から独立したものではない）が作られている。叙事詩の朗唱の際には、同じ持続時間を持つ一定の高低パターンが繰り返されるが、その単位を研究者は「句」「行（ぎょう)」などと呼んできた[25]。本稿ではアイヌ韻文体を詩形式としてとらえ「行」と呼んでおく。

### ２－２．　１行の音節数

アイヌ叙景詩の 1 行の音節数はさまざまである。とはいっても、ウポポとして複数人数で声を合わせて歌うためには、各行の音節数が一致しているほうが歌いやすい[26]。したがって、歌い方にもよるが、各行の音節数はだいたい同じである[27]。

一方、叙事詩は一人で歌うものであり、各行の音節数は一定ではない。だが、叙事詩を歌う際に用いられる repni レプニと呼ばれる拍子棒を叩くタイミングに収まっている必要はある。そのため基本的には 1 行の音節数は 4 から 7 に収まっている。このことは従来から指摘されており、5 音節の行が多いため「1 行 5 音節」が基本とみなされてきた[28]。平賀サタモ（[1959]1993）においても、虚辞を含めれば全 1151 行中 1018 行（88.4%)、虚辞

---

[24] 散文調で語られることもある（rupaye ルパイェ）が、本稿では朗唱（sakoye）されたものを扱う。Philippi（[1979]1982：39）によれば、散文調の語りは本来は朗唱の前に準備される非公式のものである。

[25] 金田一京助（[1908]1992：18）では「句」と呼んでおり、久保寺逸彦（1977：23）でも「聖伝」(叙事詩とほぼ同じ形式のもの）に関して「句」という語を用いている。

[26] 金田一京助（[1908]1992：46）は 2 行単位で音節数がそろえられることを指摘している。また、金田一京助（[1933]1992：296)「七音節のような長句が来る場合には、すぐ次の句も七音節ぐらいの長さの句をもって対にする」

[27] sintoko シントコと呼ばれる漆器（日本から輸入された「行器」）の蓋などを叩いて歌うが、その際には 1 打あたり 2 音節が基本である。

[28] 金田一京助（[1933]1992：295)「その一口一口はたいていみな同じほどの五音節前後、短くて四音節、長くて六音節を止まりとし」

を含めなければ 763 行（66.3%）が 5 音節行である。

歌う際には、最後の 2 音節の長さは 1 行の音節数にかかわらず決まっており、残りの音節が前半部にほぼ均等に配分される。ウポポを歌う際にシントコの蓋などを叩いて拍子をとることを「打」と呼ぶのと同様に、レプニを叩くタイミングを「打」と呼ぶ（記号●で表すこともある）。

例 1 .

1129　anan korka アナンコロカ（4 音節）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 歌 | \|a | nan \|kor | \|ka | \| |
| レプニ | ● | | ● | |

例 2 .

0001　iresucasi イレスチャシ（5 音節）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 歌 | \|i | re su | \|ca | \|si | \| |
| レプニ | ● | | ● | | |

例 4 .

0068　kaparpe otcike カパラペオッチケ（6 音節）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 歌 | \|ka par pe ot | \|ci | \|ke | \| |
| レプニ | ● | | ● | |

例 5 .

0422　ki ruwe tas ta pan nek

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 歌 | \|ki ruwe tas ta | \|pan | \|nek | \|（7 音節） |
| レプニ | ● | | ● | |

上記例 1 ～ 5 で、レプニ第 1 打に含まれる音節数は、それぞれ 2 、3 、4 、5 だが、レプニ第 2 打に含まれる音節数は常に 2 である。そして第 1 打はそれぞれ原則として均等に 2 分割、3 分割、4 分割、5 分割されて、そこに 1 音節ずつが配分されるのである[29]。

[29] したがって、アイヌの伝統歌謡・朗唱について「拍子」という概念の有効性には限界がある。「5 音節行の第 1 打は 3 拍子、第 2 打は 2 拍子である」などと分析するのは適切ではない。

## ２－３．　１行の最大音節数

平賀サタモ（[1959]1993）では 1 行の音節数は最大で 7 音節である。上に示したように、レㇷ゚ニ 2 打目には持続時間に余裕があるので、1 打目と同じように 5 音節を押し込めれば理論的には全体で 10 音節まで入るはずである。しかし実際にはそのように歌われることはない[30]。1 行は最大 7 音節に決められている。

1 行の音節数が最大 7 音節になっているのは、おそらくアイヌ語の言語構造を反映したものである。田村すず子（1996）は、平賀サタモも多大な協力をした沙流方言辞書であり、口語も多く反映しているが、その見出しの音節数ごとの単語数を示せば以下のようになる。

**表１．**田村すゞ子（1996）の見出し語における 1 ～10 音節語の数

| 音節数 | 単語数 | 比率※ | 比率（累計） |
|---|---|---|---|
| 1 | 647 | 6.8% | 6.8% |
| 2 | 2032 | 21.2% | 28.0% |
| 3 | 2623 | 27.4% | 55.4% |
| 4 | 2304 | 24.1% | 79.4% |
| 5 | 1377 | 14.4% | 93.8% |
| 6 | 389 | 4.1% | 97.9% |
| 7 | 145 | 1.5% | 99.4% |
| 8 | 39 | 0.4% | 99.8% |
| 9 | 15 | 0.2% | 99.9% |
| 10 | 5 | 0.1% | 100.0% |
| 合計 | | 100.2% | |

5 音節までで全見出し語の 93.8%、7 音節までで 99.4%が含まれる。8 音節以上の語はわずか 0.6%しかない。これは Philippi（1979：30）が指摘する「1 単語で 1 行を構成する」という志向と関連しているであろう[31]。どうしても 8 音節以上になった場合には 2 行に折り返すことも可能である[32]。叙事詩で用いられる 1 人称叙述形式を考慮しても 1 人称接辞 a=ア「私」という 1 音節が追加されるだけである（実際にはゼロ人称の 3 人称形式や、人称の付かない不定詞用法も多い）。

[30] これは韻律と関係していると思われるが、それについては今後の課題としたい。

[31] 金田一京助が「行」と呼ばずに「句」と呼んだのも、このためかもしれない。

[32] Philippi（1979：30）はこういったいわゆる「行またがり」の多さも指摘している。

## ２－４．　１行の単語数

平賀サタモ（[1959]1993）の 1 行の平均単語数は 2.2 語である。これは Philippi（1979：30）による「1 行につき動詞または名詞が 1 単語」という指摘と合致するように思われる。アイヌ叙事詩は一般に短い修飾語句や接続詞などがついた名詞や動詞（＝名詞句や副詞句）が 1 行を構成する。そのため、単音節からなる動詞に意味を変えない接辞がついて音節数が増やされる、という技法が発達している。例えば、san サン「下りる」や ran ラン「下りる」という単音節語 1 語の代わりに接辞を足したり語幹重複をしたりして、ci-san-a-san-ke チサナサンケ[33]「下りる」や ci-ran-a-ran-ke「下りる」という 5 音節語を派生させて用いる、などの例である[34]。これは常に起こるのではなく、san サン「下りる」などの 1 語が 1 行にあたってしまう場合のみに起こる。例えば、

例 6

| 0491　u san=an hike　ウ　サナンヒケ「下りたのだが」（u は虚辞） |
|---|

例 7

| 0288　san hum konna　サンフムコンナ「下りる音は以下のごとく」 |
|---|

など接続詞や他の単語が後続する場合にはそのまま san が用いられる。たんに 1 行の音節数を増やしたいだけなら、次の単語を同じ行に入れてしまえばよいのだが、Philippi が指摘する「1 行 1 単語志向」があるからこそ、それをせずに 1 単語の音節数を増やすのである。

ただし、叙事詩文体における「単語」の定義は若干問題を含んでいる。口語とは異なり、単語境界が確定しにくい例がみられるからである。本稿では、これらの例についても人称接辞 a=から動詞語幹までを 1 単語とみなしておく。

[33] cisanasanke という語自体は平賀サタモ（[1959]1993）では用いられていないが、田村すゞ子・平賀サタモ（1993：53）では第 628 行 u puspa kane の修正として現れている。

[34] ciranaranke の例は中川裕（1997：205）による。

## ３．　アイヌ叙事詩の「詩連」構造

### ３－１．　２行からなる対句や定型表現

アイヌ叙事詩に 2 行あるいは 4 行からなる定型表現があることは金田一京助（[1908]1992：18）以来、繰り返し指摘されてきた。Philippi（1979）は最もまとまった記述である[35]。ここでは定型表現の全体像の記述を試みることはしないが、行数と関連させて例示しておく。

最も多く見られるのは 2 行の対句である。

例 8

| | | |
|---|---|---|
| 0012 | Sikari cup noka | 「満月の模様」 |
| 0013 | u Nin cup noka | 「三日月の模様」 |

例 9

| | | |
|---|---|---|
| 0071 | Otu kesto ta | 「2 日の間」 |
| 0072 | Ore kesto ta | 「3 日の間」 |

2 行にまたがる表現が対句になり、全体として 4 行の定型表現になっている場合もある。

例 10

| | | |
|---|---|---|
| 0178 | Ekimun kiroru | 山へ向かう道は |
| 0179 | sinna kane | また別に |
| 0180 | Episun kiroru | 浜へ向かう道は |
| 0181 | sinna kane | また別に |

例 11

| | | |
|---|---|---|
| 0364 | Kotan sitcire | 村を焼き |
| 0365 | Mosir sitcire | 国を焼く |
| 0366 | San ka tososo | 棚を荒らし |
| 0367 | Oypepi poro | その椀が大きい |

4 行からなる定型表現は、それだけで一つの文章となっている場合がある。

例 12

| | | |
|---|---|---|
| 0382 | Itak turano | その言葉とともに |
| 0383 | iyonuytasa | 今度は |
| 0384 | itak kutcama | 言葉の喉の響きが |
| 0385 | uwetunuyse | 金属音のように美しく響く |

[35] 中川裕（1997）でも Philippi（1979）を増補する形で分類が試みられている。

並行的な表現の3行からなる定型句もあるが、極めてまれである。平賀サタモ([1959]1993)には次の1例しかない。

例 13

| | | |
|---|---|---|
| 0646 | Kamuy cipanup | 神の鉢巻き |
| 0647 | Kamuy ninkari | 神の耳環 |
| 0648 | Kamuy tamasay | 神の首飾り |

3行にまたがる表現が対句になった合計6行の定型表現もある。

例 14

| | | |
|---|---|---|
| 0511 | u Tuyma uk pe | 遠くに草を食むときは |
| 0512 | kokirawsika | 角を背中に |
| 0513 | omare kane | 当てながら |
| 0514 | u Hanke uk pe | 近くに草を食むときは |
| 0515 | kokirawriki | 角を上に |
| 0516 | roski kane | 立てながら |

## 3－2．　詩連

金田一京助以来のアイヌ語・アイヌ文学研究においては、対句や定型表現は他の「地の文」とは異なる特別な部分であり、それら定型表現だけが局地的に「3 行のかたまり」(3 行詩連）や「4行のかたまり」(4行詩連）をなしている、とみなされてきた[36]。しかし、それ以外の部分も何らかの単位、少なくとも「文」という単位が連なって構成されているはずである。あるいは複数の文が集まったり、長い文は複数の部分に分かれていたり、といったことが考えられるはずである。そして実際に、叙事詩は全編にわたってかなり明確で長さがそろった数行単位の文章・句で構成されている。本稿ではそれらを「詩連」と呼ぶ。

平賀サタモ（[1959]1993）の冒頭部は、次のような詩連構造になっている[37]。

---

[36] 金田一京助、久保寺逸彦らは定型表現の構造については指摘しているが、それ以外の部分の構造についてはほとんど言及していない。Philippi もやはり定型表現（formula）の分類を試みているが、それ以外の部分がどのような単位で構成されるかについてはあまり明確に示していない。アイヌ叙事詩の定型表現とそれ以外の部分の関係については、モンゴル叙事詩に関する藤井麻湖（1997）の研究が示唆的だと思われるが、別稿に譲りたい。

[37] 筆者の管見ではアイヌ口承文芸についてこのように数行ごとに区切る表記を初めて積極的に採用したのは Philippi（[1979]1982）である。ただし、Philippi はその区切りが何を意味するのか必ずしも明確には示していない。

例 15

| | | |
|---|---|---|
| 0001 | Iresu casi | 私が育てられた砦 |
| 0002 | tan poro casi | この大きな砦が |
| 0003 | **cisireanu**. | 建っていた。 |
| | | |
| 0004 | Iresu sapo | 私の育ての姉が |
| 0005 | irespa ki wa | 私を養育して |
| 0006 | okaan katu | 暮らしていた様は |
| 0007 | **anomommomo**. | 省略する。 |
| | | |
| 0008 | u Pakno ne kor | それはそれとして |
| 0009 | u casi kotor | 砦の天井が |
| 0010 | koyaykan ruwe | 飾られていたのは |
| 0011 | ene oka hi, | このようである。 |
| | | |
| 0012 | Sikari cup noka | 満月の模様や |
| 0013 | u nin cup noka | 欠けたる月の模様が |
| 0014 | **earuwato**. | 満ち満ちている。 |
| | | |
| 0015 | u Emko kusu | そのため |
| 0016 | u casi upsor | 砦の内側は |
| 0017 | u tonon sukus | 昼の光が |
| 0018 | cieomare | 入ってくる |
| 0019 | u semkoraci | かのように |
| 0020 | u casi upsor | 砦の内側は |
| 0021 | **enipekooma**. | 輝いていた |
| | | |
| 0022 | u Pakno ne kor | そこまでとして |
| 0023 | kamuy iyoykir | 神の宝物 |
| 0024 | kamuy inuma | 神の武具が |
| 0025 | u ran pes kunne | 低い崖のように |
| 0026 | **cisiturire** | 伸びていた |
| | | |
| 0027 | Iyoykir enka | 宝物の上に |
| 0028 | u nispa mut pe | 英雄の佩刀が |
| 0029 | otu santuka | 何本もの柄が |
| 0030 | **uowkauyru**. | 重なっていた。 |

| | | |
|---|---|---|
| 0031 | Ukopusakur- | たくさんの房が |
| 0032 | u -suypa kane. | 揺れながら。 |
| | | |
| 0033 | Iyoykir ka ta | 宝物の上には |
| 0034 | tapan pe rekor | 名付けて |
| 0035 | kamuy hayokpe | 神の鎧 |
| 0036 | u siknu pito ne | 生きている神のように |
| （*0037 | siknu kamuy ne | 生ける霊として）※この行は録音時にはない |
| 0038 | u an kane | ありながら。 |

これらの詩連は、基本的に文もしくは独立性の高い節と一致し「動詞が最後に後置される」というアイヌ語の語順に合わせて動詞で終わるか、動詞の後に終助詞もしくは強い区切りを示す kane などの接続詞が置かれている。

（1）0003 **cisireanu**、0007 **anomommomo**、0014 **earuwato**、0021 **enipekoma**、0026 **cisiturire**、0030 **uowkauyru**　はいずれも述部をなす動詞である。

（2）0011 ene oka hi「それは次のようである」は文法的には形式名詞で終わっているが、以下に直接話法を導入するため強い区切りの機能がある[38]。。

（3）0031 Ukopusakur- と 0032 u -suypa kane　は「行またがり」の 1 語の動詞 ukopusakursuypa「たくさんの房が揺れる」と接続詞 kane「〜しながら」、0038 u an kane「ありながら」はともに接続詞 kane「〜しながら」で終わっている。叙事詩においては強 kane を含めいくつかの接続詞は多くの場合終助詞とほぼ同じ機能を有している[39]。

接続詞 kane でつながれた 2 つの文は互いに独立性が高く、田村すゞ子・平賀サタモ(1933)でも、日本語訳においてしばしばそこで文を切っている。そのほかに hike、awa、kusu、p/pe なども強い区切りを示す。

### 3－3．　独立性の高い関係修飾節・4 行対句

主節と接続詞で導かれる従属節が 2 つの文とみなし得るだけでなく、長い関係修飾文に

[38] Philippi（1979：38）は ene oka hi で終わる数行単位を「直接話法に関する formula」と分類している。

[39] 叙事詩においてしばしば接続詞が文末詞のように用いられている。藤井麻湖（1997：116）はモンゴル叙事詩について同じような現象を指摘している。

おいても修飾部と被修飾部の独立性は高い。それらは別々の詩連をなしている可能性がある。また、逆に短い文が２つで一つのまとまりになっている例もみられる。それらも詩連をなしている可能性がある。

### ３－３－１．　独立性の高い関係修飾節による詩連

．長い関係文においては関係修飾節（連体修飾節）と被修飾節が別の詩連になる。

例 16

| | | |
|---|---|---|
| 0879 | u ki wa ne kor | そこで |
| 0880 | u nen ta usa | 誰が |
| 0881 | u respa ciki | 育てたら |
| 0882 | u pirka kuni | よいような |
| | | |
| 0883 | kamuy opoysan | 神の子孫 |
| 0884 | kamuy hekaci | 神の子供 |
| 0885 | u ne nankora | であろうか |

### ３－３－２．　４行からなる対句による詩連

２行が２組で４行対句となっている場合は、それだけで１つの詩連になる。

例 17

| | | |
|---|---|---|
| 0657 | Kamuy tamasay | 神の首飾りを |
| 0658 | o rekutuyruke. | 首にかけた。 |
| 0659 | Kamuy ninkari | 神の耳輪を |
| 0660 | kisar uyruke. | 耳につけた。 |

### ３－４．　詩連構造があいまいな例

次に示すような 7 行詩連を例えば「＊で示した位置で分割するのはおそらく適切ではないであろう。今後、このような位置で詩連を区切る要素が見つかるかもしれないが、今のところ区切りが明確なのは kane などの接続詞で明確に区切られている場合である。

例 18

| | | |
|---|---|---|
| 0015 | u Emko kusu | そのため |
| 0016 | u casi upsor | 砦の内側は |
| 0017 | u tonon sukus | 昼の光が |
| 0018 | cieomare | 入ってくる |
| | ＊ | |
| 0019 | u semkoraci | かのように |
| 0020 | u casi upsor | 砦の内側は |
| 0021 | enipekoma. | 輝いていた |

また、次のような 6 行も、形式的（文法的）には 6 行で 1 文とみるか、3 行文と 2 行文とみるかあいまいである[40]。意味の連続性からみれば、おそらく以下のように「＊」で示した位置で分割すべきではない。

例 19

| | | |
|---|---|---|
| 0033 | Iyoykir ka ta | 宝物の上には |
| 0034 | tapan pe rekor | 名付けて |
| 0035 | kamuy hayokpe | 神の鎧 |
| | ＊ | |
| 0036 | u siknu pito ne | 生きている神のように |
| 0038 | u an kane | ありながら。 |

[40] 形式的（文法的）には 0034 tapan pe rekor kamuy hayokpe の後ろに動詞 ne が必要である。ne が省略された破格とみることもできるし、0038 u an kane の an まで 1 文であるとみなすこともできる。

ただし、田村すゞ子・平賀サタモ（1993：13）では平賀サタモ本人が 5 行文の 0036　u siknu pito ne「生きている神のように」の後ろに以下のように 0037　siknu kamuy ne「行ける霊として」を追加するのが正しい、と修正を加えている。その場合は対称性からみても 4 行文と 2 行文と解釈すべきかもしれない。

例 20

| | | |
|---|---|---|
| 0033 | Iyoykir ka ta | 宝物の上に |
| 0034 | tapan pe rekor | あるものは名付けて |
| 0035 | kamuy hayokpe | 神の鎧 |
| | * | |
| *0037 | siknu kamuy ne | 生きている霊のように（この行は録音時にはない） |
| 0036 | u siknu pito ne | 生きている神のように |
| 0038 | u an kane | ありながら。 |

また、その場合には 0027 から 0038 までの 12 行が以下のように対称性を持った一連の表現として 4 詩連になっているとみるべきなのかもしれない。

例 21

| | | |
|---|---|---|
| 0027 | Iyoykir enka | 宝物の上に |
| 0028 | u nispa mut pe | 英雄の佩刀が |
| 0029 | otu santuka | 何本もの柄が |
| 0030 | **uowkauyru**. | 重なっていた。 |
| | | |
| 0031 | Ukopusakur- | たくさんの房が |
| 0032 | u -suypa **kane**. | 揺れながら。 |
| | | |
| 0033 | Iyoykir ka ta | 宝物の上には |
| 0034 | tapan pe rekor | 名付けて |
| 0035 | kamuy hayokpe | 神の鎧（があった）。 |
| | | |
| 0036 | u siknu pito ne | 生きている神のように |
| *0037 | siknu kamuy ne | 生きている霊のように（この行は録音時にはない） |
| 0038 | u an **kane** | ありながら。 |

## ３－５．　１詩連の行数

平賀サタモ（[1959]1993）という叙事詩テキスト全体は、1〜7 行からなる詩連（文もしくは節）を単位として構成されている。詩連数は合計 310 詩連である。 1 行から 7 行詩連までの各行数の詩連の出現比率は以下のようになっている。

**表２．** 平賀サタモ（[1959]1993）の各種詩連の数と割合

| 行数 | 詩連数 | 比率 |
|---|---|---|
| 1 | 2（結句「pakno」を含む） | 0.6　% |
| 2 | 47 | 15.1　% |
| 3 | 87 | 28.1　% |
| 4 | 104 | 33.5　% |
| 5 | 48 | 15.5　% |
| 6 | 16 | 5.2　% |
| 7 | 6 | 1.9　% |
| 合計 | 310 | 99.9　% |

3 行詩連・4 行詩連が 6 割強を占める。もっとも数が多いのは 4 行詩連である。4 行単位の定型表現の存在を考え合わせると、この叙事詩文体には 4 行で 1 文となる強い志向があるといってよい。

## ４．　平賀サタモの 1959 年の語りにおける押韻出現数

### ４－１．　４行詩連における頭脚韻

平賀サタモ（[1959]1993）の冒頭部には以下のような「単語の繰り返し」と「音の一致」がみられる。

例 22

| | | |
|---|---|---|
| 0001 | **I**resu **casi** | 私が育てられた砦 |
| 0002 | tan poro **casi** | この大きな砦が |
| 0003 | c**i**sireanu. | 建っていた。 |
| | | |
| 0004 | **Ires**u sap**o** | 私の育ての姉が |
| 0005 | **ires**pa ki wa | 私を養育して |
| 0006 | okaan katu | 暮らしていた様は |
| 0007 | anomommom**o**. | 省略する。 |
| | | |
| 0008 | u P**a**kno ne k**or** | それはそれとして |
| 0009 | u c**a**si kot**or** | 砦の天井が |
| 0010 | koyaykan ruwe | 飾られていたのは |
| 0011 | ene oka hi, | このようである。 |
| | | |
| 0012 | S**i**kari **cup noka** | 満月の模様や |
| 0013 | u n**i**n **cup noka** | 欠けたる月の模様が |
| 0014 | earuwato. | 満ち満ちている。 |

これらのうち、音のみの一致はいわゆる「押韻」の可能性がある。しかし、アイヌ語の母音数は 5 つであり、叙事詩の「詩連」内において行頭や行末で母音が一致しても、ほとんどは偶然の産物であろう。

結論を先に言えば、実際の行頭行末の母音押韻の数は、偶然生じる確率をわずかながら上回っている。つまり「偶然生じる母音押韻を生かすが、なるべく多く押韻せよ（ただし、押韻しない詩連があってもよい)」というルールだと考えられる。それがアイヌ語の叙事詩における母音韻である。これは Philippi（[1979]1982：29）の「義務的ではないが、意識的に用いられている」という説明と合致する。以下では詩連の行頭母音の押韻について、出現数の多い順に 4 行詩連・3 行詩連・2 行詩連については概略を、7 行詩連・6 行詩連については全例を検証する。行末母音についてはデータのみ示す。

### ４－１－１．　４行詩連（104 連）における行頭母音韻出現数

４行詩連における行頭母音韻の種類は以下の５通りである。

① 「2 行のみ」：4 行中 2 行の行頭が同じ母音、残りの行頭母音がそれぞれ別の母音
② 「2 行 2 組」：4 行中 2 行の行頭が同じ母音、残りの行頭母音が別の母音で一致
③ 「3 行のみ」：4 行中 3 行で行頭が同じ母音
④ 「4 行一致」：4 行全ての行頭が同じ母音
⑤ 「4 行全相違」：4 行全ての行頭が違う母音

各母音が同じ確率で行頭に来るとき、これらの一致が偶然生じる可能性は以下である。

**表３．**　４行詩連の行頭で各種押韻が偶然生じる確率（各母音の出現比率が同じ場合）

| 押韻種別 | 確率（%） |
|---|---|
| 2 行のみ | 57.6 |
| 2 行 2 組 | 9.6 |
| 3 行のみ | 12.8 |
| 4 行一致 | 0.8 |
| 4 行全相違（押韻なし） | 19.2 |
| 合計 | 100 |

アイヌ語は 5 母音の言語であるため、並んだ 4 行において行頭・行末で母音が一致する確率は非常に高く、偶然に任せても 8 割を超える。したがって詩連内部における行頭の「押韻」の多くは自然に生じたものであろう。しかし、それに加えて意図的に押韻がなされてもいるとすれば、比率は偶然によるよりその分だけ高くなるはずである。

平賀サタモ（[1959]1993）の 4 行詩連における行頭母音押韻の数と比率は以下である。

**表 4**．平賀サタモ（[1959]1993）の 4 行詩連の行頭母音韻の数と比率

| 押韻種別 | 出現数 | 比率 | 偶然生じる確率 |
|---|---|---|---|
| 2 行のみ | 56 | 53.8　% | 57.6 |
| 2 行 2 組 | 11 | 10.6　% | 9.6 |
| 3 行のみ | 29 | 27.9　% | 12.8 |
| 4 行全一致 | 3 | 2.9　% | 0.8 |
| 4 行全相違（押韻なし） | 5 | 4.8　% | 19.2 |
| 合計 | 104 | 100　% | 100 |

実際には、行頭での出現数が多い母音と少ない母音がある。例えば母音 u は行頭での出現数が少ない（虚辞の u を除く）。平賀サタモ（[1959]1993）における各母音の数と比率は以下のようになっている[41]。

**表 5**．平賀サタモ（[1959]1993）全 1151 行における母音出現率

| 母音 | 行頭 | 行末 | 最後から二番目 | 参考：全母音 |
|---|---|---|---|---|
| a | 404（35.0%） | 323（28.1%） | 448（38.9%） | 1841（33.0%） |
| e | 221（19.2%） | 307（26.7%） | 155（13.5%） | 1099（19.7%） |
| i | 261（22.7%） | 167（14.5%） | 128（11.1%） | 864（15.5%） |
| o | 178（15.5%） | 199（17.2%） | 223（19.4%） | 982（17.6%） |
| u | 87（7.6%） | 155（13.5%） | 197（17.1%） | 799（14.3%） |
| 合計 | 1151（100%） | 1151（100%） | 1151（100%） | 5585（100.1%） |

平賀サタモ（[1959]1993）の 4 行詩連（586 行 104 詩連）における行頭母音の出現数も全 586 とほぼ同様で、a（136[32.7%]）、e（81[19.5%]）、i（102[24.5%]）、o（69[16.6%]）、u（28[6.7%]）である。それを考慮すると、全母音が同じ比率で出現する場合とは、押韻が偶然に生じる確率が変わる。実際の一致の出現数・比率は以下である。

[41] 最後から 2 番目の音節は母音 a が 38.9%であり、最終音節より多めである。これは作為が全くなくとも「同じ音になりやすい」ということである。最終音節でなく、この位置（最後から 2 番目）の音節が叙事詩を歌う際にもっとも明瞭に歌われる個所であることは偶然ではないのかもしれない。

**表５．**平賀サタモ（[1959]1993）4 行詩連（586 行 104 詩連）において、各母音の出現比率を考慮した上での偶然による押韻の出現確率と実際の出現数

| 押韻種別 | 実際の出現数（比率） | 偶然生じる数（確率） |
|---|---|---|
| 2 行のみ | 56（53.9%） | 57.0（54.9%） |
| 3 行のみ | 29（27.9%） | 18.5（17.9%） |
| 2 行 2 組 | 11（10.6%） | 12.1（11.7%） |
| 4 行全一致 | 3（2.9%） | 1.8（1.7%） |
| 4 行全相違（押韻なし） | 5（4.8%） | 14.4（13.9%） |

これらのうち「押韻しない」のは「4 行全相違」の場合だけであり、偶然で 14.4%生じるはずだが、実際には 4.8%である。つまり、意図的でなくとも 86.1%で押韻するはずだが、実際には 95.2%で押韻している。もともと一致する可能性が高いとはいえ、わずかながら意図的な押韻もあると考えてよいだろう。

### ４－１－２．　繰り返し語を除外した場合の行頭母音出現数

ウポポなど叙景詩と長大な叙事詩では文体に違いがあり、前者にはかけ声など繰り返し語句が非常に多いのに対して、後者ではそれらは少ない。ＮＨＫ（1965）のウポポ 159 歌中で繰り返し語句を含まないものはわずか 8 歌である。ウポポに「押韻」はあるにせよ、その数字が「繰り返し語句」によって結果的に押し上げられているのも確かである[42]。

叙事詩にも少ないにせよ「繰り返し語」が存在する。比率を検証する上では、「叙事詩においても繰り返し語が多いために一致率が高くなっているのであって、押韻ではないのではないか」という疑問が生じるであろう。結論を先にいえば、繰り返し語によって一致率が高くなっているわけではない。以下は検証である。

104 詩連のうち 17 例では複数行の行頭に同一の単語・名詞形態素が置かれている。これらは「押韻」というよりも繰り返し語による一致である。例えば

例 24

| | | |
|---|---|---|
| 0067 | **Kaparpe** itanki | 上等なお椀 |
| 0068 | **kaparpe** otcike | 上等なお膳を |
| 0069 | uwoeroski | 並べてくれた、 |
| 0070 | ikoypunpa | 私に供してくれた。 |

[42] 「繰り返し語句」と「押韻」は、原理的には同じく「繰り返しの感覚をもたらす技法」である。人類史的には「押韻」はユーラシア大陸の一部で発達した特殊な技法なのであろう。世界的には「繰り返し語句」だけによる歌謡のほうが広く分布している。

において、kaparpe「上等な」という同じ単語が繰り返されている。また、

例 25

| | | |
|---|---|---|
| 0539 | Ikootuyma | 遠くから私に対して |
| 0540 | u **sik**keruru | 眼を見開き |
| 0541 | u **sik**tokoko | 眼をむき出している |
| 0542 | aruska kusu | 私は腹を立てて[43] |

において、**sik**kerukeru と **sik**tokoko は同一の名詞形態素 **sik**「目」を繰り返し用いている。これら、一部が異なるほぼ同じ語句を用いる修辞は押韻と非常に似た現象であるが、厳密にいえば押韻ではない。これらは「同じ意味であるからこそ対句になっている」のであり、意味と音形のどちらが重要なのか不明である[44]。しかし、アイヌ語は単音節語基を多数つなげて 1 単語とする総合的な言語であり、その結果出来上がる単語において内部の語基の意味が本来とはかけ離れてしまっていることも多い[45]。本稿では便宜的に「独立語としても用いられる語基を語頭に含んでいるか否か」を基準として、その一致は押韻ではなく繰り返し語として扱う。o-re A/o-tu A、という対句や、iresu「育てる（単数形)」と irespa「育てる（複数形)」など語頭が同じ単複交替形などの一致は「繰り返し語句」であり、a-などの人称接辞や自動詞化接頭辞 i-、ko-, e-など充当接頭辞、 名詞的であっても独立した名詞形を持たない si-, yay-, mon-などの一致は「押韻」として扱う。

---

[43] この詩連は次の詩連との境界があいまいである。ikootuyma（副詞)、sikkeruru（動詞)、siktokoko（動詞）の 3 行で文が終わっており、最終行 aruska kusu「私は腹を立てて」を次の詩連の冒頭行とみなすこともできる。しかし、意味的には sikkeruru と aruska kusu の間は強く結びついており形式的に混乱している。sikkeruru/siktokoko という対句形式をとったために、その後ろに aruska kusu に形式的につながる形態素を置きづらくなってしまっている（本来の文としては sikkeruru hi aeruska kusu などが考えられる)。

[44] これについては今後の課題としたい。

[45] 例えば irankarapte「ご挨拶申し上げます」がどのような語基からなっているかなどは、すでに分からなくなっている。

押韻は「行頭における一致」のうち「繰り返し語による一致」を除いたものである。そのような一致を含む詩連は 87 例ある。その内訳を示すと以下のようになる。

**表 7．**平賀サタモ（[1959]1993）の 4 行詩連の押韻（繰り返し語句による一致を除く）

| 押韻種別 | 実際の出現数（比率） | 偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| 2 行のみ | 47（54.0%） | 47.1（54.1%） |
| 3 行のみ | 24（27.6%） | 16.3（18.7%） |
| 2 行 2 組 | 8（9.2%） | 11.8（11.7%） |
| 4 行全一致 | 3（3.4%） | 1.7（2.0%） |
| 4 行全相違（押韻なし） | 5（5.7%） | 11.7（13.4%） |
| 合計 | 87（99.9%） | 88.6（99.9%） |

意図的でなくとも 86.5%で押韻するはずだが、実際には 94.2%で押韻している。つまり、繰り返しによらなくても、やはり高めのポイントになっている。

### 4－1－3．　4 行詩連における行頭子音韻出現数

叙事詩における「行頭子音韻」は出現に偏りが大きく、偶然か作為かを考えるのは困難である。平賀サタモ（[1959]1993）の 4 行詩連 586 行のうち行頭子音が声門閉鎖音である（いわゆる母音始まりである）行が 201 行（34.3%）と約 3 分の 1 である[46]。行頭子音韻を踏む 4 行詩連は 30 例（4 行詩連全体の約 29%）ある。行頭子音韻の出現比率は偶然生じる確率と比して大きく異なることはないが、「3 行のみ一致」している例が多めに生じている。偶然 2 行のみ一致しているものを工夫したのかもしれない。

**表 8．**平賀サタモ（[1959]1993）の 4 行詩連における行頭子音一致の出現数

| 押韻種別 | 実際の出現数（比率） | 偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| 2 行のみ | 23（22.1%） | 27.3（26.9%） |
| 2 行 2 組 | 0（0%） | 0.4（0.4%） |
| 3 行のみ | 7（6.7%） | 2.5（2.4%） |
| 4 行全一致 | 0（0%） | 0.1（0.1%） |
| 4 行全相違（押韻なし） | 74（71.2%） | 73.1（70.3%） |
| 合計 | 104 | 103.4（100.1%） |

[46] ただし、アイヌ伝統歌謡においては 4 行すべてが声門閉鎖音始まり（母音始まり）の歌がいくつか存在する。丹菊逸治（2018）

なお、全 1151 行中、母音始まり（声門閉鎖音始まり）の行は 504（43.8%）、子音始まりの行は 647（56.2%）であり、ほぼ半数だが子音始まり行が若干多い（4 行詩連 104 連 416 行中ではそれぞれ 201（48.3%）と 215（51.7%）であり比率はほぼ同じだが、やはりほんのわずか子音始まり行のほうが多い）。以下に子音の内訳とともに示す。

**表 9．**平賀サタモ（[1959]1993）全 1151 行および 4 行詩連 416 行における行頭音数と比率

| | 全行（数） | 全行（比率） | 4 行詩連（数） | 4 行詩連（比率） |
|---|---|---|---|---|
| p | 44 | 3.8　% | 9 | 2.2　% |
| t | 70 | 6.1　% | 24 | 5.8　% |
| k | 205 | 17.8　% | 76 | 18.3　% |
| h | 39 | 3.4　% | 12 | 2.9　% |
| m | 34 | 3.0　% | 7 | 1.7　% |
| n | 67 | 5.8　% | 25 | 6.0　% |
| r | 30 | 2.6　% | 11 | 2.6　% |
| s | 84 | 7.3　% | 33 | 7.9　% |
| c | 46 | 4.0　% | 12 | 2.9　% |
| w | 3 | 0.3　% | 0 | 0.0　% |
| y | 25 | 2.2　% | 6 | 1.4　% |
| 母音（声門閉鎖音） | 504 | 43.8　% | 201 | 48.3　% |
| 子音 | 647 | 56.2　% | 215 | 51.7　% |
| 合計 | 1151 | 100　% | 416 | 100　% |

### ４－１－４．　行頭母音韻・繰り返し語句を持たない４行詩連

平賀サタモ（[1959]1993）の 4 行詩連 104 例において、行頭母音韻（繰り返し語句によるものを含む）の出現率は 99 例 95.2%、行頭子音韻を含めると行頭韻出現率は、103 例 99.0%、行頭に押韻・繰り返し語句を全く持たない 4 行詩連はわずか 1 例 1%にすぎない。

ＮＨＫ（1965）に収録された 159 歌のウポポにおいては、行頭押韻母音韻（繰り返し語句によるものを含む）の出現率は 153 歌 96.2%、行頭母音が関わる不完全韻などを含めると 156 歌 98.1%が押韻している。つまり、ウポポにおいても叙事詩の 4 行詩連においても、押韻の出現率は偶然によるよりも高くなっている。

行頭の母音が全て異なる 4 行詩連は以下の 5 例である。

資料 1

| | | |
|---|---|---|
| 0079 | u Sirka nuye | ナイフの鞘の彫刻 |
| 0080 | **t**omika nuye | 刀の鞘の彫刻 |
| 0081 | **t**apan pe patek | そればかりを |
| 0082 | nepki ne aki | 私は仕事としていた。 |

資料 2

| | | |
|---|---|---|
| 0341 | u **K**i rok awa | そうして |
| 0342 | **k**unne kosonte | 黒いコソンテの |
| 0343 | **k**amuy menoko | 神の女性は |
| 0344 | ene itak hi, | 次のように言ったのだ。 |

資料 3

| | | |
|---|---|---|
| 0739 | u Sinis kotor | 天空面を |
| 0740 | u **t**oni un wa | あちらへ |
| 0741 | u **t**ani un wa | こちらへ |
| 0742 | esisuye kor | 揺れるように行き |

資料 4

| | | |
|---|---|---|
| 1027 | Ne hi koraci | それと同時に |
| 1028 | ru an toy ka wa | 神なる地表から |
| 1029 | tapan kamuy maw | この神の風が |
| 1030 | cirikipuni | 吹き上がった。 |

資料 5

| | | |
|---|---|---|
| 1107 | Poro ketusi | 大きなケトゥシ |
| 1108 | u **s**ut ketusi | 先祖伝来のケトゥシを |
| 1109 | **s**e kane oka | 背負った者たちが |
| 1110 | ahup wa arki | 入って来た。 |

上記のうち 4 例（80%）は行頭子音韻を踏んでいる。行頭子音韻を踏む 4 行詩連は 104 詩

連中 30 例（4 行詩連全体の約 29%）だから、サンプル数は非常に少ないものの、高い比率とはいえよう。つまり「行頭母音韻を持たない 4 行詩連には、行頭子音韻の出現率が高い」のである。

なお、行頭押韻のない唯一の 4 行詩連（1027-1030）を含め、上記 5 例は全て後述する「不完全韻」を踏んでいる。「不完全韻」の出現率は高く、全 310 詩連中 264 詩連（85.1%）、全 1151 行中 711 行（61.8%）が不完全韻を踏む行を含んでいる。叙事詩文体を特徴づけるものといってよい。

## ４－２．　3 行詩連（87 例）における頭韻の出現数

3 行詩連は 87 例ある。うち行頭に繰り返し語句を持たない詩連は 78 例である。3 行詩連における行頭母音韻の種類は以下の 3 通りである。

① 「2 行のみ」：3 行中 2 行の行頭が同じ母音、残りの行頭母音がそれぞれ別の母音
② 「3 行全一致」：3 行全ての行頭が同じ母音
③ 「3 行全相違」：3 行全ての行頭が違う母音

各母音が同じ確率で行頭に来るとき、これらの一致が偶然生じる確率は以下である

**表 11.** 3 行詩連（87 例）で押韻が偶然生じる確率（母音が全て同じ比率の場合）

| 押韻種別 | 偶然生じる確率 |
|---|---|
| 2 行のみ | 41.76（48%） |
| 3 行全一致 | 3.48（4%） |
| 3 行全相違（押韻なし） | 41.76（48%） |

**表 12.** 3 行詩連（87 例）で押韻が偶然生じる確率と実際の出現数・比率（実際の母音出現比率を加味した修正後）

| 押韻種別 | 実際の出現数（比率） | 偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| 2 行のみ | 53（60.9%） | 44.5（51.2%） |
| 3 行全一致 | 6（6.9%） | 5.5（6.3%） |
| 3 行全相違（押韻なし） | 28（32.2%） | 37.0（42.5%） |
| | 87（100%） | 87（100%） |

全 87 詩連 261 行

**表 13.** 繰り返し語によらない 3 行詩連 78 例において、押韻が偶然生じる確率と実際の出現数・比率（実際の母音出現比率を加味した修正後）

| 組み合わせ | 実際の出現数（比率） | 偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| 2 行のみ一致 | 45（57.7%） | 40.0（51.2%） |
| 3 行全一致 | 5（6.4%） | 4.7（6.1%） |
| 3 行全相違（押韻なし） | 28（35.9%） | 33.3（42.7%） |
| | 78（100%） | 78（100%） |

意図的でなくとも 57.3%で押韻するはずだが、実際には 64.1%で押韻している。4 行詩連と同様、やはり繰り返しによらなくても、実際の出現比率はやや高めになっている。

なお、3 行詩連においては 4 行詩連と異なり、行頭母音韻を踏まない 28 例における子音

の一致の比率が特に高いということはないようである。

## ４－３．　５行詩連（48例）における頭脚韻

### ４－３－１．　５行詩連における行頭母音韻出現数

５行詩連は48例ある。うち行頭に繰り返し語句をもたない詩連は35例である。５行詩連における行頭母音韻の種類は以下の７通りである。

①「2行のみ」：5行中２行の行頭が同じ母音、残り３行の行頭母音がそれぞれ別の母音
②「2行２組」：5行中２行の行頭が同じ母音、残り３行中２行が別の母音で一致
③「3行のみ」：5行中３行の行頭が同じ母音、残り２行の行頭母音がそれぞれ別の母音
④「3行と２行」：5行中３行の行頭が同じ母音、残り２行が別の母音で一致
⑤「4行のみ」：5行中４行の行頭が同じ母音、残り１行が別の母音
⑥「5行全一致」：5行全ての行頭が同じ母音
⑦「5行全相違」：5行全ての行頭が違う母音

**表14.** ５行詩連（48例）で押韻が偶然生じる確率（母音が全て同じ比率の場合）

| 押韻種別 | 偶然生じる確率 |
|---|---|
| ２行のみ | 18.4（38.4%） |
| ２行２組 | 13.8（28.8%） |
| ３行のみ | 9.2（19.2%） |
| ３行と２行 | 3.1（6.4%） |
| ４行のみ | 1.5（3.2%） |
| ５行全一致 | 0.1（0.16%） |
| ５行全相違（押韻なし） | 1.8（3.84%） |

**表15.** ５行詩連48例において押韻が偶然生じる確率と実際の出現数・比率（実際の母音比率による修正後）

| 押韻種別 | 実際の出現数と比率 | 偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| ２行のみ | 11（22.9%） | 13.0（27.2%） |
| ２行２組 | 13（27.1%） | 13.2（27.5%） |
| ３行のみ | 8（16.7%） | 11.5（24.0%） |
| ３行と２行 | 4（8.3%） | 4.9（10.3%） |
| ４行のみ | 12（25.0%） | 3.9（8.2%） |
| ５行全一致 | 0（0%） | 0.4（0.9%） |
| ５行全相違（押韻なし） | 0（0%） | 0.9（1.9%） |
| | 48 | 47.8 |

**表 16.** 繰り返し語によらない 5 行詩連 35 例において押韻が偶然生じる確率と実際の出現数・比率（実際の母音比率による修正後）

| 押韻種別 | 実際の出現数と比率 | 偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| 2 行のみ | 6（17.1%） | 7.9（22.6%） |
| 2 行 2 組 | 13（37.1%） | 9.8（27.9%） |
| 3 行のみ | 4（11.4%） | 8.8（25.1%） |
| 3 行と 2 行 | 4（11.4%） | 4.2（12.0%） |
| 4 行のみ | 8（22.9%） | 3.5（10.0%） |
| 5 行全一致 | 0（0%） | 0.4（1.3%） |
| 5 行全相違（押韻なし） | 0（0%） | 0.4（1.1%） |
| | 35 | |

5 行詩連においては全行の母音が異なっている例はない。だが、アイヌ語は 5 母音なので、5 行詩連で「押韻しない」のは全行の母音が互いに異なる場合のみであり、偶然生じる確率は 0.7%である。つまり 99.3%の確率で少なくとも 2 行で母音が一致する。したがって「2 行以上の押韻」数からは何が意図されているのかは判断できない[47]。

押韻種別内訳をみると、実際の数では、2 行のみの押韻が減り、2 行 2 組でそれぞれ押韻、4 行で押韻の割合が増えている。だが、3 行一致、3 行と 2 行で一致している押韻は逆に若干減っている。

### ４－３－２．　5 行詩連における行頭子音韻

5 行詩連全 48 詩連のうち行頭子音韻を持つ詩連は 19 詩連、39.6%である。

5 行詩連全 48 詩連 240 行中、母音始まりの行が 85 行（35.4%）、子音始まりの行は 155 行（64.6%）である。平賀サタモ（[1959]1993）全体での母音始まり行と子音始まり行の比率（43.8：51.7）に比べて、子音始まり行の比率が若干高くなっている。

**表 17.** 平賀サタモ（[1959]1993）における母音始まり行と子音始まり行の数

| | 全 1151 行 | 4 行詩連 416 行 | 5 行詩連 240 行 |
|---|---|---|---|
| 母音始まり行<br>（声門閉鎖音） | 504（43.8%） | 201（48.3%） | 85（35.4%） |
| 子音始まり行 | 647（56.2%） | 215（51.7%） | 155（64.6%） |

[47] 5 母音言語において、99.3%の確率で生じる「5 行中 2 行の行頭のみで母音が一致する状態」を「繰り返しの感覚」としてとらえ得るのであれば、「5 行を 1 単位とする」というルールによる「自動的な押韻」ということになる。

## ４－４．　２行詩連における行頭母音韻・行頭子音韻出現数

２行詩連は 47 例ある。うち行頭に繰り返し語句を持たない詩連は 45 例である。2 行詩連では行頭母音韻は「2 行一致（押韻している）か、2 行不一致（押韻していない）か」の 2 通りしかない。押韻しているもの 12 例、押韻していないもの 33 例である。行頭子音韻を持つ 2 行詩連は 1 例のみである。

**表 18.** 2 行詩連（47 例）で押韻が偶然生じる確率と実際の出現数・比率（母音が全て同じ比率の場合）

| 押韻種別 | 実際の出現数（比率） | 押韻が偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| 2 行一致 | 14（29.8%） | 9.4（20%） |
| 2 行不一致 | 33（70.2%） | 37.6（80%） |
| 合計 | 47（100%） | |

**表 19.** 2 行詩連（47 例）で押韻が偶然生じる確率と実際の出現数・比率（母音の比率を加味して修正）

| 押韻種別 | 実際の出現数・比率 | 押韻が偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| 2 行一致 | 14（29.8%） | 11.1（23.7%） |
| 2 行不一致 | 33（70.2%） | 35.9（76.3%） |
| 合計 | 47（100%） | |

**表 19.** 2 行詩連（行頭に繰り返し語句を持たない 45 例）で押韻が偶然生じる確率と実際の出現数・比率（母音が全て同じ比率の場合）

| 押韻種別 | 実際の出現数（比率） | 押韻が偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| 2 行一致 | 12（26.7%） | 9.0（20%） |
| 2 行不一致 | 33（73.3%） | 36.0（80%） |
| 合計 | 45（100%） | |

**表 20.** 2 行詩連（行頭に繰り返し語句を持たない 45 例）で押韻が偶然生じる確率と実際の出現数・比率（母音の比率を加味して修正）

| 押韻種別 | 実際の出現数・比率 | 押韻が偶然生じる確率 |
|---|---|---|
| 2 行一致 | 12（26.7%） | 10.4（23.1%） |
| 2 行不一致 | 33（73.3%） | 34.6（76.9%） |
| 合計 | 45（100%） | |

いずれにせよ、実際の出現数は偶然に生じるよりわずかながら高めである。

## ４－５．　６行詩連の構造

### ４－５－１．　６行詩連の行頭母音韻出現数

6 行詩連は 16 例である。6 行内部での行頭母音の一致の形式から見た場合、内訳は次のようになっている。

**表 22.** 6 行詩連 16 例の、押韻種別ごとの詩連出現数

| 押韻種別 | 詩連数 |
|---|---|
| 2 行一致が 2 組 | 2 |
| 2 行一致が 3 組 | 1 |
| 3 行のみ一致 | 3 |
| 3 行と 2 行それぞれ一致 | 5 |
| 3 行一致が 2 組 | 0 |
| 4 行のみ一致 | 3 |
| 4 行と 2 行それぞれ一致 | 0 |
| 5 行一致 | 2 |
| 6 行一致 | 0 |

行数の多さと例の少なさを考えると、これらの「押韻」が偶然によるものか否かを判別することは難しい。そもそも第 1 行と第 6 行のように離れた位置で母音が一致していても一致だと感じられるのかどうか疑問である。

6 行詩連が詩形式として不安定であることは内部構造からもうかがえる。16 例中 9 例は 5 行詩連に 1 行追加された構成となっており、5 行詩連部分だけでも押韻している。6 例は内部に対句・言い換えなどによる 2〜4 行の定型表現を含んでおり、それ以外の部分だけでも押韻している（ただし定型表現も押韻に参加してはいる）。つまり、16 例中 15 例は 3 行〜5 行詩連の拡張とみなしうる。そして元の 3〜5 行詩連として押韻がある。純粋な 6 行詩連は 1 例のみである。

以下に 16 例の構成を示しておく。

### ４－５－２．　繰り返し行による「5 行詩連＋１行」構成

同じ行が繰り返されて 5 行詩連が 6 行詩連になっているものが 2 例ある。

資料 6

| | | |
|---|---|---|
| 0097 | Tane ne kusu | 今では |
| 0098 | s**i**neanto t**a** | ある日 |
| 0099 | **u nisapramta** | 突然に |
| 0100 | **u nisapramta** | 突然に（前行の繰り返し行） |
| 0101 | ekimne rus**u**y | 山に行きたい |
| 0102 | **i**yannukam**u** | という気持ちでいっぱいになった。 |

資料 7

| | | |
|---|---|---|
| 0593 | **cipiyepkore** | （彼女らが）悪口を言ったのも |
| 0594 | **cipiyepkore** | 悪口を言ったのも（前行の繰り返し行） |
| 0595 | u **y**upke hik**e** | たいそうひどい悪口を |
| 0596 | **i**yekarkar haw**e** | 私に対して言ったこと |
| 0597 | oka ya sekor | であろうか、と |
| 0598 | **y**aynuan hik**e** | 思ったので |

この 2 例について、田村すゞ子・平賀サタモ（1993：50 では平賀サタモ本人による「すぐ続けて次のことを言うとふしに入れないから、おなじことを二度いうことある」という説明を紹介し、「ふしを合わせるために前の行がくり返されている」としている。ただ、それだけでは詩形によるのか、それとも歌っているときの音の高低パターン（いわゆる「旋律」）の間違いを補完するためなのか判別できない。とはいえ、詩形としては 1 行だけで問題ないので、詩形式としては 5 行詩連と考えてよいであろう[48]。

繰り返し行を除いた構成は 1 例目が tane ne kusu「今では」という導入部に続く 4 行。4 行内部に行頭母音韻、行末母音韻がある。なお、行末母音韻は導入行を含む。

２例目は最終行が yaynuan hike「（と）思ったので」という話法の行である。これは y 行による頭子音韻をなす。それ以外の 4 行内部に行頭母音韻、行末母音韻がある。

[48] 朗唱時の単位の問題については今後の課題としたい。

### ４－５－３．　省略宣言句による「5 行詩連＋1 行」構成

描写の省略宣言句 anomommomo「(以下) 省略する」が付加されているものが 1 例ある。

資料 8

| | | |
|---|---|---|
| 0167 | T**a**nepo sonn**o** | 今こそ本当に |
| 0168 | **ka**muy kar casi | 神が作った砦 |
| 0169 | **k**eray ne kus**u** | であるがゆえに |
| 0170 | u c**a**si kam**u**y | 神のような砦の |
| 0171 | u pirka kat**u** | 美しいさまは |
| 0172 | **anomommomo** | 省略する。(省略の宣言句) |

anomommomo「省略する」はさまざな挿入の仕方があるが、ここでは u pirka katu「その美しいさまは」に続いて文の一部となっている。第 1 行 tanepo sonno「今こそ本当に」は強調の導入行である。本来は「今こそ～であることを見たのであった」などと結び、さらに「その美しいさまは云々」と続くべきであるが、それらの部分が anomommomo「省略する」になっている。導入行と省略宣言行を除いた 4 行の内部には行頭母音韻、行頭子音韻、行末母音韻がある。ただし、行頭においては 6 行中 4 行の行頭母音が a でそろっている。

### ４－５－４．　場面転換句による「5 行詩連＋1 行」構成

場面転換句 u pakno ne kor「それはそれとして」を第 1 行とするものが 1 例ある。

資料 9

| | | |
|---|---|---|
| 0567 | **u Pakno ne kor** | それはそれとして（場面転換句） |
| 0568 | h**a**rkiso pek**a** | 左座側のあたりの |
| 0569 | u c**a**si teks**a**m | 砦のそばの |
| 0570 | u niste toy **o**r | 固い土のところを |
| 0571 | h**a**pur toy kunne | 柔らかい土のように |
| 0572 | **a**ureekiru | 私は足でひっくり返した、 |

u pakno ne kor「それはそれとして」は明確な場面転換の語句である。したがって、前の詩連にも後ろの詩連にも特別な結びつきがない。これを除いた 5 行には行頭で「4 行一致」の母音韻、行末では「2 行一致」の母音韻がみられる（ただし 5 行あれば 96%以上の確率で母音 2 つ以上が一致する)。

### ４－５－５．　感嘆句による「5 行詩連＋1 行」構成

感嘆句 easirana「何とまあ」を第 1 行とするものが 2 例ある。

資料 10

| | | |
|---|---|---|
| 0268 | **Easirana** | 何とまあ（感嘆句） |
| 0269 | **kamuy** ne kusu | 神であるがゆえ |
| 0270 | u **kamuy** ipor | 神の顔つきの |
| 0271 | u **e**ypottumm**a** | その顔つきからして |
| 0272 | **k**osinna kan**e** | （人間とは）違っていて |
| 0273 | nupur pe son**e** | 巫力ある者に違いない。 |

easirana「何とまあ」に続く 5 行中、第 2・3・4・5 行は 4 行全体が定型表現である（ただし散文体であれば第 3 行 u kamuy ipor「神の顔つきの」は不要)。この 4 行は内部に行頭子音韻を含む。母音の一致は 6 行に分散しており、4 行内部にまとまった母音韻はみられないが、繰り返し語句 kamuy がある。

資料 11

| | | |
|---|---|---|
| 0637 | **Easirana** | 何とまあ（感嘆句） |
| 0638 | s**i**kari cup nok**a** | 満月の模様 |
| 0639 | u n**i**n cup nok**a** | 三日月の模様 |
| 0640 | **e**aruwato | がたくさんついている |
| 0641 | k**a**muy kosont**e** | 神のコソンテが |
| 0642 | u s**a**nasank**e** | 出てきた。 |

easirana「何とまあ」に続く 5 行中、第 2 ・ 3 ・ 4 行が 2 行対句を含む定型的表現（連体修飾句）である。その 2 行対句は行頭母音韻を踏む。また、第 5・6 行は行頭行末ともに母音韻を踏む。ただし、導入行 easirana「何とまあ」は続く 3 行と母音韻を構成してもいる。

### ４－５－６．　間接話法句による「5 行詩連＋1 行」構成

間接話法を導く句 yaynuan hike「と、思ったが」あるいは yaynuan korka「と、思ったのだが」が最終行になるものが 3 例ある。

資料 12

| | | |
|---|---|---|
| 0439 | **I**tak ne yakka | 言葉さえも |
| 0440 | c**i**yekosom**o**- | 私に対する |
| 0441 | u -**ya**ykatanu | 無礼千万な表現を |
| 0442 | **i**yekarkar haw**e** | 私に対して使う |
| 0443 | oka ya sek**o**r | ものかと |
| 0444 | **yaynuan hike** | 私は思ったので（間接話法句） |

資料 13

| | | |
|---|---|---|
| 1143 | T**a**pan te wan**o** | これからは |
| 1144 | mosir er**ekor** | 国によって名を呼ばれるのだ |
| 1145 | u **a**ynu s**ekor** | 人間と |
| 1146 | **a**ireko oasi | 呼ばれることになる |
| 1147 | u ki hawe an | のだなと |
| 1148 | **yaynuan hike** | 私は考えて（間接話法句） |

資料 14

| | | |
|---|---|---|
| 0447 | **E**un ka tapn**e** | そのことに対し |
| 0448 | u w**e**n menok**o** | 悪い女性 |
| 0449 | ut**a**r orkeh**e** | たちに |
| 0450 | **e**attam nen**o** | 刀ひとつに |
| 0451 | **a**tuypa anki | 切ってやろう |
| 0452 | **yaynuan korka**と私は思ったが（間接話法句） | |

3 例ではいずれも母音韻は前半部に偏っている。平賀サタモ（[1959]1993）全体では、yaynuan「と、思う」を含む行が最終行になっている詩連は 8 例ある。うち 2 行詩連・3 行詩連が各 1 例、5 行詩連が 2 例、6 行詩連が 4 例である。最も多い 4 行詩連の例はない。つまり、yaynu「思う」を含む行は本来は詩連に含まれず、まとまった叙述内容を持つ詩連を作った後で、yaynu「思う」を含む追加行で間接話法化しているのであろう。

### ４－５－７．　対句を含む構成

対句や言い換えなどによる定型的な表現は２行～７行詩連のいずれにもみられるが、６行詩連では 16 例中 6 例と高い比率で含まれている。対句的な定型表現はうち３例である。

資料 15

| | | |
|---|---|---|
| 0215 | **A**ratuyso k**a** | はるか海原の上 |
| 0216 | **a**tuyso ka w**a** | 海原の上から |
| 0217 | m**a**k an kat kor p**e** | どんな姿のものか |
| 0218 | u ek hum konn**a** | やってくる音が |
| 0219 | **koturimimse** | 鳴り響いている。 |
| 0220 | **kokewrototke** | 轟いている。 |

資料 16

| | | |
|---|---|---|
| 0221 | u S**e**nram sekor | さてさて（？） |
| 0222 | mak an kat kor p**e** | どんな姿のものか |
| 0223 | **u pase humi** | 重い音 |
| 0224 | **e siturare** | を伴っている。 |
| 0225 | **u Kosne humi** | 軽い音 |
| 0226 | **e sihopire** | を後にしている。 |

資料 17

| | | |
|---|---|---|
| 0363 | T**a**nan to or ta | 今日は |
| 0364 | **Kotan sitcire** | 村を焼き |
| 0365 | **Mosir sitcire** | 国を焼く |
| 0366 | S**a**n ka tosos**o** | 棚の上を荒らす |
| 0367 | Oypepi por**o** | そのお椀が大きな |
| 0368 | K**a**muy ne an kur | 神であるお方 |

資料 15 では、0219 koturimimse「鳴り響く」 0220 kokewrototke「轟く」は音や構成が類似し、語義が似ており、しばしばこの 2 つの対で用いられる決まり文句である。資料 16 では、0223～0226 は pase「重い」と kosne「軽い」という紋切型の対義語を用いた表現である。資料 27 では、0364～0368 は全体も英雄 Aynurakkur アイヌラックルの父親の描写として定型的な表現だが、内部に kotan「村」と mosir「国」という紋切型の類義語を用いてもいる。

### ４－５－８．　言い換えを含む構成

定型的な言い換えを含む構成である。

資料 18

| | | |
|---|---|---|
| 0623 | **Tapan kamuy maw** | 神の風 |
| 0624 | **k**etusi upsor w**a** | ケトゥシの中から |
| 0625 | **hopuni kamuy maw** | 吹き出す神の風 |
| 0626 | **kamuy** maw sik**a** | その神の風の上に乗り |
| 0627 | **kamuy** kosont**e** | 神のコソンテが |
| 0628 | u puspa kan**e** | 出てきて |

資料 19

| | | |
|---|---|---|
| 0963 | Nisatta **wano** | 明日からは |
| 0964 | t**a**pan te **wano** | 今からは |
| 0965 | **kamuy mosir ka un** | 神の世界へ |
| 0966 | **u kanto or un** | 天界へ |
| 0967 | u **a**rpa kuni p | 行くべきもので |
| 0968 | **a**ne ruwe ne | 私はあります。 |

資料 20

| | | |
|---|---|---|
| 1082 | **A**nak ki kork**a** | けれども |
| 1083 | hunakke kusu | せっかく |
| 1084 | **iresu sapo** | 私の育ての姉 |
| 1085 | **kamuy moyremat** | 神の淑女が |
| 1086 | c**i**kaspaott**e** | 私に命じた |
| 1087 | **i**yekarkar p**e** | こと |

資料 18 では、0624-0625 ketusi upsor wa hopuni **kamuy maw**「ケトゥシ（容器）の中から吹き出す神の風」は直前の　0623 tapan **kamuy maw**「この神の風」を説明する形になっている。散文的表現であれば 0623 自体が丸ごと不要である。資料 19 では 0965 の kamuy mosir ka 「神の世界」と 0966 の「天の世界」は同義の言い換えである。資料 20 では iresu sapo「私の育ての姉」が kamuy moyremat「神の淑女」という敬称で言い換えられている。これらの定型句は韻文であることを示す。また、押韻に参加しつつも、それなしでも押韻はなされている。これらの定型句は押韻形式的には 1 行とみなせるのではないか。

### ４－５－９．　ただ長いだけの構成

資料 21

| | | |
|---|---|---|
| 1118 | **Sekor** eyki yakne | このようにお前がすれば |
| 1119 | mosir **erekor** | 国によって名付けられる |
| 1120 | **e**ki katuhu | ことにお前もなり |
| 1121 | u aynu mosir | 人間の国と |
| 1122 | **sekor erekor** | 呼ばれる |
| 1123 | u ki kus ne na | ようになるだろう。 |

導入句や感嘆句などの独立した行をもたず、また明確な切れ目や結びつきの強い定型表現などを含まず、たんに長いだけの構成である。このような構成の６行詩連はこの１例だけである。とはいっても、内部に切れ目は存在する。

まず、第１行は条件節、最終行（第６行）はモード（法）を示す助動詞句であり、第 2〜4 行で結びつきの強い１つの節をなしてはいる。つまり、Mosir erekor eki katuhu aynu mosir sekor erekor「国によって名付けられることにお前もなり、(この国も)人間の国と呼ばれる」の前後を Sekor eyki yakne「このようにお前がすれば」と ki kus ne na「そうなるであろう」で挟む構造になっている。また、第２・３行 mosir erekor eki katuhu「国によって名付けられることにお前もなり」は、第４・５行 u aynu mosir sekor erekor「人間の国と呼ばれる」の理由を示している。１文で１詩連をなすという原則がある以上、統語論的な内部構造を持つのは当然ではあり、この６行詩連も例外ではない。しかし、他の６行詩連のようなはっきりとした「5 行詩連＋１」という構成ではないように思われる。

## ４－６．　７行詩連の構造

７行詩連は６例ある。７行詩連は６行詩連以上に押韻の単位となることが難しいと思われる。６行詩連と同様に 2〜4 行単位の定型表現を含むことが多く、実質的には２つの部分から構成されている。６例はそれぞれ導入行を持ち、さらに

① 資料 22：比喩によって同じ内容を繰り返す２つの部分から構成されている
② 資料 23：同じような美辞を含む２つの部分から構成されている
③ 資料 24：定型表現を含む
④ 資料 25：詳細な説明による言い換えを含む
⑤ 資料 26：関係文と定型表現を含む
⑥ 資料 27：関係文を含む

というさまざまな構成法で作られているが、基本的には前半部・後半部の各部分内部で押韻している。ただし、資料 24 は後半、資料 26 は前半のみで押韻している。

### ４－６－１．　７行詩連（その１／６）：比喩による繰り返しを含む構成

比喩導入句 u semkoraci「かのように」によって実質的に同じ内容が繰り返される構成。

資料 22

| | | |
|---|---|---|
| 0015 | **u Emko kusu** | それによって（導入行） |
| 0016 | u **c**asi upsor | 砦の内側 |
| 0017 | u tonon sukus | 昼の光 |
| 0018 | **c**ieomare | 入ってくる |
| | | |
| 0019 | u s**e**mkoraci | かのように |
| 0020 | u casi upsor | 砦の内側 |
| 0021 | **e**nipekooma | 光線が差し込む。 |

u emko kusu「それによって」という比喩の導入行があり、３行ずつのまとまりが２つ並んでいる。まとまりごとに行頭母音韻を踏んでいる。u semkoraci「かのように」は比喩を導入する句だが、ここでは実質的には同じ内容（tonon sukus cieomare「昼の光が入ってくる」と casi upsor enipekooma「砦の内側に光線が差し込む」）が繰り返されている。

### ４－６－２．　７行詩連（その２／６）：美辞の繰り返しを含む構成

感嘆句に導入され、美辞を繰り返している構成。

資料 23

| | | |
|---|---|---|
| 0043 | **Easirana** | 何とまあ（感嘆句） |
| 0044 | u nan nipek**i** | 顔から発せられる光は |
| 0045 | h**e**tuku cup n**e** | 昇る太陽のように |
| | | |
| 0046 | **i**yenu cupk**i** | 発する太陽の光が |
| 0047 | u c**i**wre kotom | 差し込むかのように |
| 0048 | u p**i**rka ruw**e** | 美しいことに |
| 0049 | anikorayap | 私は感嘆する。 |

感嘆句 easirana「何とまあ」を含む前半３行と後半４行で構成される。前半３行、後半４行には行頭母音韻がみられる。主人公が育ての姉の美貌を褒め称える美辞は二重になっていて、0045 hetuku cup ne「昇る太陽のように」という比喩が、0046-0047 iyenu cupki ciwre kotom「発する太陽の光が差し込むかのように」と言い換えて繰り返されている。繰り返された部分は 0048 pirka ruwe「（のように）美しいこと」との３行で行頭韻を踏む

### ４－６－３．　７行詩連（その３／６）：長い定型的表現を含む構成

感嘆句に導入され、定型的な修飾表現を持つ構成。

資料 24

| | | |
|---|---|---|
| 291 | **Easirana** | 何とまあ |
| 292 | **i**nan okay pe | どちらが |
| 293 | u rapokkar**i** | 劣る |
| 294 | u **ki** kane h**i** | ということも |
| 295 | u **k**oysamnop**o** | ないような |
| | | |
| 296 | upak ramet**o**k | 同じくらいの勇者 |
| 297 | c**i**esonere | に間違いない。 |

感嘆句 easirana「何とまあ」とそれに続く６行詩連からなる。６行詩連は inan okay pe rapokkari (ki kane hi) koysam 「どちらが劣ることもない」という４行にわたる定型的な修飾表現を含む。この表現を利用した４行は行頭母音韻を含み、行末でも韻を踏む。最後の２行からなる後半部は内部で押韻せず、前半部から連続した押韻になっている。

### ４－６－４．　７行詩連（その４／６）：言い換えを含む構成

言い換え（説明の詳細化）を内部に持つ構成。

資料 25

| | | |
|---|---|---|
| 0316 | u **Ki rok ayne** | そうしているとやがて |
| 0317 | u t**a**n tepo t**a** | すぐ目の前に |
| 0318 | r**e**tar kosont**e** | 白いコソンテの |
| 0319 | k**a**muy menoko | 神の女性の |
| 0320 | u t**e**ksama t**a** | すぐそばに |
| | | |
| 0321 | m**a**k an kat kor p**e** | どんな姿のものだろうか |
| 0322 | c**i**sikurur**e** | 近寄ってきた。 |

導入句 u ki rok ayne「そうしているとやがて」に、場所を説明する４行、動作を説明する３行という構成になっている。場所を説明する４行は u tan tepo ta「すぐ目の前に」と言ってから、その場所をさらに詳細に述べる３行が続く構成である。最初の４行は内部に押韻を含む。最後の２行も行末で母音韻を踏む。だが、第６行目つまり後半部の冒頭は前半部からの連続した押韻になってもいる。

### ４－６－５．　７行詩連（その５／６）：関係文と定型表現を含む構成

関係文と定型表現を含む構成。

資料 26

| | | |
|---|---|---|
| 0560 | **u Ekan ayne** | ついに来て（場面転換） |
| 0561 | iresu **casi** | 私の育った砦の |
| 0562 | **casi** erupsik t**a** | 砦の奥側で |
| | | |
| 0563 | u t**a**n rikna w**a** | その高いところから |
| 0564 | u simomanpe | 大きなシカを |
| 0565 | **a**osura hum ko | 放り出した音が |
| 0566 | korimnatar**a** | 鳴り響いた　■ |

導入句 u ekan ayne「ついに来て」は ek「来る」という具体的な動詞を含むが、その前の詩連で移動しているさまが語られているので、やはり u ki rok ayne「そうしたあげく」などの代動詞を含む導入句と同じように、ほぼ接続詞句と同じようなものとみるべきであろう。iresu casi /casi erupsik ta「私が育った砦の／砦の奥側で」は叙事詩的な関係文であり、散文（日常会話文体）であれば、たんに iresu casi erupsik ta「私が育った砦の奥側で」といえばすむ。最後の２行は hum「音」について korimnatara「鳴り響く」という定型的表現である。導入句の次の前半４行が押韻を含む。前半には叙事詩的関係文、後半はに定型表現と行頭行末がある。だが、前半部と後半部の間でも母音 a による押韻が連続している。

### ４－６－６．　７行詩連（その６／６）：長い関係節を含む構成

長い関係修飾を含む構成

資料 27

| | | |
|---|---|---|
| 0828 | C**i**kuni **kupka** | 木の鍬（くわ）を |
| 0829 | ani mosir k**a**r | 国土を作るのに使った |
| 0830 | u k**i** rok **kupka** | その鍬を |
| | | |
| 0831 | m**o**sir noski w**a** | 国土の真ん中から |
| 0832 | u **o**yra hin**e** | 忘れたまま |
| 0833 | kamuy nis ka un | 神の天空に |
| 0834 | rikin aan p**e** | 上ってしまったのですが |

導入句などはないが、前半３行が関係修飾を含む名詞句になっている。この部分は冗長的な表現になっている。すなわち、散文体ならたんに ani mosir kar/cikuni kupka「国土を作っ

た木の鍬」でせいぜい2行ですむものを、cikuni kupka/ani mosir kar/u ki rok kupka「木の鍬、国土を作った、そうした鍬」と3行に伸ばしている。その3行は行頭母音韻、行末母音韻をともに含む。2行のままだと行頭母音韻を踏まない。後半4行は前半 mosir noski wa/u oyra hine「国土の真ん中から／（鍬を）忘れたまま」と後半 kamuy nis ka un/rikin aan pe「神の天空に／上ってしまったのですが」に分かれる。接続詞 hine があるが、意味の結びつきが強いのでこれは同一の詩連とみるべきであろう。この4行の内部では行頭母音韻、行末母音韻が踏まれる。なお、前半部と後半部の境目にあたる第3行と第4行をまたいで母音 a による行末母音韻が続いている。

## ４－７．　平賀サタモによる 1959 年の語りにおける詩連と押韻まとめ

以上、4 詩連を中心に、平賀サタモ（[1959]1993）における、2〜7 行詩連の行頭母音韻の存在を検証した。アイヌ語は 5 母音言語であり、叙事詩の 2〜5 行詩連においては行頭で母音が一致する確率は 8 割以上である。だが、実際には偶然によるよりも高い比率で一致がみられる。これは Philippi（[1979]1982）による「義務的ではないが意識的である」という行頭頭韻にかんする指摘を裏付けるものである。

また、6 行詩連・7 行詩連については、2〜4 行からなる複数の部分に分かれると考えられること、それらが押韻の単位となっている可能性があることがわかった。

## ５．　その他の押韻

ここからは、平賀サタモ（[1959]1993）にみられる、行頭行末押韻以外の「押韻と思われる現象」について指摘する。

### ５－１．複数の詩連において最初の行あるいは最終行を一致させる

例 25

| | | |
|---|---|---|
| 0693 | **kuwa kurkasi** | 杖の上に |
| 0694 | u kane **kuwa** | 金属製の杖の |
| 0695 | cinoye **kuwa** | 捻じれた杖の |
| 0696 | **kuwa** tuykasi | その杖の上に |
| 0697 | u notomare. | あごをのせていた。 |
| | | |
| 0698 | **kuwa kurkasi** | 杖の上を |
| 0699 | u tekrarire. | 手で押されていた。 |
| | | |
| 0700 | u **kurkasi**ke | そのうえで |
| 0701 | itak omare. | 言葉を発した。 |

例 26

| | | |
|---|---|---|
| 0637 | Easirana | 何とまあ |
| 0638 | sikari cup noka | 満月の模様 |
| 0639 | u nin cup noka | 三日月の模様 |
| 0640 | earuwato | がたくさんついている |
| 0641 | **k**amuy **k**osonte | 神のコソンテを |
| 0642 | u **sanasanke.** | 取り出した。 |
| | | |
| 0643 | Cinoye kuwa | 捻じれた杖 |
| 0644 | u **k**ane **k**uwa | 金属製の杖を |
| 0645 | u **sanasanke** | 取り出した。 |
| | | |
| 0646 | **K**amuy cipanup | 神のチパヌプ |
| 0647 | **k**amuy ninkari | 神の耳輪 |
| 0648 | **k**amuy tamasay | 神の首飾り |
| 0649 | **k**oaruweun | ひとそろいを |
| 0650 | u **sanasapte.** | 取り出した。 |

例 25 では各詩連の第 1 行に kuwa, kuwa kurkasi が繰り返されている。例 26 では各詩連の最後に sanasanke「取り出す」という繰り返し語がみられ、その直前に子音 k による行頭韻・繰り返し韻を配置している。これは upopo など伝統歌謡（叙景詩）でもみられる技法である。

## ５－２．　部分的な一致による連鎖

美辞を並べた描写では、行の語句の一部が次の行で用いられる形で連鎖していく。押韻に似るが、完全に同一の単語を用いる点、次には別の単語で連鎖する点が異なる。

### ５－２－１．　同一の語句による連鎖

例 27

| | | |
|---|---|---|
| 0637 | easirana | 何とまあ |
| 0638 | sikari **cup noka** | 満月の模様 |
| 0639 | u nin **cup noka** | 三日月の模様 |
| 0640 | earuwato | がたくさんついている |
| 0641 | kamuy kosonte | 神のコソンテが |
| | | |
| 0642 | u sanasanke. | 出てきた。 |
| 0643 | cinoye **kuwa** | 捻じれた杖 |
| 0644 | u kane **kuwa** | 金属製の杖が |
| 0645 | u sanasanke | 出てきた。 |
| | | |
| 0646 | **kamuy** cipanup | 神のチパヌプ |
| 0647 | **kamuy** ninkari | 神の耳輪 |
| 0648 | **kamuy** tamasay | 神の首飾り |
| 0649 | koaruweun | ひとそろいが |
| 0650 | u sanasapte. | 出てきた。 |

これらは意味的な観点から対句的表現だとも指摘されてきた。確かに sikari cup noka「満月の模様」と(u) nin cup noka「三日月（欠ける月）の模様」における sikari cup「満月」と nin cup「三日月（欠ける月)」は対句であるが、後半部の noka「模様」（あるいは前半部の cup も含めて）は同一語句の繰り返しである[49]。

[49] こういった表現が「くり返し」的性質であると強調したのは立石久雄（1991：164）で

### ５－２－２．　同一音・類似音による連鎖

語句単位ではなく、同一音や類似音が連続することもある。次の 6 行詩連では、第 2 音節目に母音 u、および子音 p による連続性がある。

例 28

| | | |
|---|---|---|
| 0623 | Ta**pan** kamuy maw | 神の風が |
| 0624 | ke**tusi** upsor wa | ケトゥシの中から |
| 0625 | ho**puni** kamuy maw | 吹き出す神の風 |
| 0626 | kam**u**y maw sika | その神の風の上に乗り |
| 0627 | kam**u**y kosonte | 神のコソンテが |
| 0628 | u **pus**pa kane | 出てきて |

次の 3 行詩連では各行の行末に a-i を軸とした連続性がある。

例 29

| | | |
|---|---|---|
| 0743 | ne hi ko**raci** | であるかのように |
| 0744 | u kus **wa ani** | 通ると、そのために |
| 0745 | uhuy **wa pay**e. | みな燃えて行く。 |

これらは次に述べる「不完全韻」の一部でもある（下線部で示した）。不完全韻は基本的には 2 行単位であるが、このように 3 行以上の連鎖をなす場合がある。

---

ある。ただし立石久雄は意味的な繰り返しとみなしていたようである。ここでは音形としての繰り返しである点に注目したい。

## 6． 不完全韻

音素あるいは単音節単位の完全な一致ではなく、行と行の間で複数の音の並びが「似ている」例がある。本稿ではこれらを「不完全韻」(imperfect rhyme) と呼ぶ[50] (丹菊 2018：22)。

不完全韻は基本的に各詩連内部に対応する 2 行で存在するが、3 行以上にまたがることもあり、また詩連をまたぐこともある。行内部の位置もまちまちである。だが、平賀サタモ（[1959]1993）においては、不完全韻を含む詩連は全 310 詩連中 264 詩連（85.1%）、不完全韻を踏む行は全 1151 行中 714 行（62.0%）である。これによって叙事詩全体が「音がよく似た語句の連続」となり、流れるような感覚を生むのである。

不完全韻は基本的に

① 複数音節で母音や子音が一致する

というものだが、実際には以下のようなさまざまなバリエーションがある。

② 一致しない母音や一部素性が異なる母音が参加している
③ 行内位置は同じだが音節内位置が異なる例
④ 音節数が異なる例
⑤ 行内位置が異なる例
⑥ 行内位置と音節数がともに異なる例
⑦ 行内位置は同じだがあまり類似していない例
⑧ あまり類似しないが 3 行以上にまたがる例

以下では平賀サタモ（[1959]1993）における不完全韻のバリエーションを例示する。

[50] Imperfect rhyme は英詩などにおいては「完全に韻脚（foot）が一致するわけではない押韻」を指すが、アイヌ語韻文では韻脚が明確ではない。本稿では「複数の音素が全て一致するわけではない」という意味で Imperfect rhyme という用語を用いている。Kawahara（2007）が指摘する日本のラップ歌謡の Half rhyme に近い現象かもしれない。

## ６－１．　複数音節で母音や子音が一致する

行頭母音韻のように単一の母音だけが一致するのではなく、複数音節で母音や子音が一致する例がある。一致する音の間には別の母音や子音が挟まれている。

例 30

| | | |
|---|---|---|
| 0146 | iresu s**a**p**o** | 私を育ててくれた姉上 |
| 0147 | tapan te p**a**kn**o** | 今の今まで |

例 31

| | | |
|---|---|---|
| 0131 | u k**a**n**e** **a**mset | |
| 0132 | u **a**ms**e**t k**a** wa | |

例 32

| | | |
|---|---|---|
| 1082 | a**nak** **k**i **k**orka | けれども |
| 1083 | hu**nakk**e **k**usu | せっかく |

なお例 32 では母音 i と e、母音 o と u も類似母音であるが、これについては次の第６－２節で述べる。

特に次のように、前後に同一語句がある場合はより広い範囲で一致した印象がもたらされる。

例 33

| | | |
|---|---|---|
| 0578 | k**a**m**u**y **he tapan** | 神なのだろうか |
| 0579 | **a**yn**u** **he tapan** | 人間なのだろうか |

he tapan　という同一語句の繰り返しを後半に持ち、前半部は対義表現（「人」と「神」）だが、同時に不完全韻になってもいる。このような「よくできた対句」は偶然であろうと意図的であろうと、結果的に広く用いられるであろう。

## ６－２．　一致しない母音や一部素性が異なる母音が参加している例

次の例では a-u-a-ke に対し a-u-o-ke が対応している。

例 34

| | | |
|---|---|---|
| 0114 | k**a**m**u**y r**a**n**ke** tam | 神が下した刀を |
| 0115 | **a**k**u**tp**oke**ciw | 帯の下に差した |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ka | muy | ran | ke |
| a | kut | po | ke |
| 母音 a | 母音 u | | 子音 k・母音 e |

次の例では kuni に対し konci が対応している。母音 u と o は同じではないが、狭めの後舌円唇母音という素性が共通する「似ている母音」である。このようにしばしば、一部の素性のみが一致する母音同士が対応している。

例 35

| | | |
|---|---|---|
| 0378 | akore **ku**n**i** | お贈りしようと |
| 0379 | cikarkar **ko**nc**i** | 刺繍した帽子を |

| | |
|---|---|
| ku | ni |
| kon | ci |
| 子音 k・母音 u と o（狭めの円唇母音） | 母音 i |

なお、この 2 行はもっと広くほぼ行全体に近い kore kuni と karkar konci が不完全韻をなしているのかもしれない。

## ６－３．　行内位置は同じだが音節内位置が異なる例

以下の例では、s は音節単位では同じ位置に来ていない。だが歌の持続時間内部において、音の開始位置は同じ位置に来る。このような場合は一致している印象は強くなるであろう。

例 36

| | | |
|---|---|---|
| 0093 | u k**esto an kor** | 毎日毎日 |
| 0094 | ir**esu sapo** | 私の育ての姉は |

歌う際のタイミング

| レプニ（拍子棒） | ● | | | | ● | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 休止 | u | **ke** | **sto** | **an** | **kor** |
| | 休止 | i | **re** | **su** | **sa** | **po** |

不完全韻

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| u | kes | to | an | kor |
| i | res | u | sa | po |
| 母音 u と i の類似（狭母音）（ただし u は虚辞） | 母音 e 子音 s | 母音 o と u の類似（後舌・狭め母音） | 母音 a | 母音 o |

## ６－４．　音節数が異なる例

以下の例では u-a-a-e に対し o-a-a-a-e が対応している。つまり、母音 a による 2 音節と母音 a による 1 音節が対応している（虚辞 u も考慮するならそれも音節数が合わない)。

例 37

| | |
|---|---|
| 0255 | u **u**r**ar** t**a**k **ne**　霞の塊に |
| 0256 | k**o**y**a**yk**ar** k**ane**. なっていて |

歌う際のタイミング

| レプニ（拍子棒） | ● | | | | ● | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 休止 | u | **u** | **rar** | **tak** | **ne** |
| | 休止 | **ko** | **yay** | **kar** | **ka** | **ne** |

不完全韻

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| u, u | ra | r | tak | ne |
| ko | yayka | r | ka | ne |
| 後舌・狭め母音 u, o（ただし u の 1 つは虚辞） | 母音 a | 子音 r | 母音 a | 子音 n・母音 e |

## ６－５．　行内位置が異なる例

以下の例では対応する場所に来ていない。0221 行の ram は虚辞を入れて 3 音節目、0222 行の kan は 2 音節目であり、最後の kor の位置もずれている。だが、それでも「似ている」印象を与えるであろう。

例 38

| | |
|---|---|
| 0221 | u senr**am** se**kor** |
| 0222 | mak **an** kat **kor** pe |

歌う際のタイミング

| レプニ（拍子棒） | ● | | | | ● | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 休止 | u | sen | **ram** | **se** | **kor** |
| | 休止 | ma | **kan** | **kat** | **kor** | pe |

不完全韻

| | | | |
|---|---|---|---|
| sen | ram | se | kor |
| ma | kan | kat | kor |
| ※ | 母音 a・音節末子音が鼻音 | ※ | CVC 全て一致 |

上記「※」部分は共通性はないが、ともに前の行で母音 e、後の行で母音 a になっていて、わずかながらも繰り返しの印象をもたらすであろう。

例 39

| | |
|---|---|
| 0433 | cipi**y**e**pk**ore |
| 0434 | u **y**u**pk**e hike |

歌う際のタイミング

| レプニ（拍子棒） | ● | | | | ● | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 休止 | ci | pi | **yep** | **ko** | re |
| | 休止 | u | **yup** | **ke** | hi | ke |

不完全韻

| | |
|---|---|
| yep | ko |
| yup | ke |
| 子音 y・狭母音・子音 p | 子音 k・半狭母音 |

あるいは cipiyepkore という行全体と u yupke hike という行全体同士が不完全韻をなしている、とみるべきかもしれない。

## ６－６．　行内位置と音節数がともに異なる例

以下の例では「似ている」箇所の開始部分も音節数も異なる。

例 40

| | | |
|---|---|---|
| 0197 | ae**k**is**a**rs**u**t**u** | 私の耳元にはそれで |
| 0198 | **k**om**a**wk**u**r**u**r**u** | 風を切る音が鳴っていた。 |

| レプニ（拍子棒） | ● | | | | ● | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 休止 | ae | **ki** | **sar** | **su** | **tu** |
| | 休止 | **ko** | **maw** | **ku** | **ru** | **ru** |

不完全韻

| | | | |
|---|---|---|---|
| ki | sar | su | tu |
| ko | maw | kuru | ru |
| 子音 k | 母音 a | 母音 u | 母音 u |

## ６－７．　行内位置は同じだがあまり類似していない例

以下の 2 行は虚辞を含めれば 2 組の母音と 1 組の類似母音が同じタイミングの位置に来ている。このような場合は音の類似度は低くても「似ている」印象を与えるであろう。

例 41

| | |
|---|---|
| 0279 | **u** pets**o** ka t**a** |
| 0280 | h**o**ra**o**ciwp**a** |

| レプニ（拍子棒） | ● | | | | ● | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 休止 | u | pet | so | ka | ta |
| | 休止 | ho | ra | o | ciw | pa |

不完全韻

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| u | pet | so | ka | ta |
| ho | ra | o | ciw | pa |
| 母音 u と o（狭め母音）（ただし u は虚辞） | なし | 母音 o | なし | 母音 a |

## ６－８．　あまり類似しないが３行以上にまたがる例

完全に一致する場合から、素性の一部が似ている場合までこれらの類似度はさまざまである。行のどこに位置するかによっても印象は異なる。ときにはそれら「似ている音」が数行にわたり連続している。これは「５－２－２．類似音の連鎖」と同じものである。

例 42

| | | |
|---|---|---|
| 0317 | u **Ta**n t**e**p**o ta** | すぐ目の前に |
| 0318 | re**ta**r **k**os**o**n**te** | 白いコソンテの |
| 0319 | kam**u**y m**e**n**o**ko | 神の女性の |
| 0320 | u **te**k**sa**m**a ta** | すぐそばに |
| 0321 | ma**k a**n **ka**t k**o**r p**e** | どんな姿のものだろうか |
| 0322 | cisi**k**ur**u**r**e** | 近寄ってきた。 |

不完全韻

| | | | |
|---|---|---|---|
| ①②tan | ①te | po | ①②ta |
| ①②tar | ②③ko | son | ①③te |
| ③muy | ①me | o | (ko) |
| ①tek | ④sa | （ma) | ①②ta |
| ②④kan | ②④kat | kor | ③pe |
| ③④ku | ③ru | ru | ③re |
| ①子音 t<br>②母音 a<br>③母音 u<br>④子音 k | ①母音 e<br>②子音 k<br>③母音 o, u<br>④母音 a | 母音 o, u | ①子音 t<br>②母音 a<br>③母音 e |

これらはどこまでが意識的に用いられているのかわからないが、少なくとも一部は意識的なものであろう。以下の例などは偶然かもしれないが、弱くても類似はしており、つまり弱いなりに効果があるであろう。

例 43

| | | |
|---|---|---|
| 1148 | **y**a**y**n**ua**n hike | 私は考えて |
| 1149 | **iru**sk**a** k**e**wtum | 怒りの心を |
| 1150 | a**y**a**y**k**o**rp**a**r**e** | 私は持って |

不完全韻

| | | | |
|---|---|---|---|
| yay | nu | an | hike |
| i | rus | ka | ke |
| yay | kor | pa | re |
| yay と i（音節全体の類似） | 母音 u と o<br>子音 n と r（歯茎音） | 母音 a | 母音 i-e と母音 e |

yay, i はともに 1 音節であり、yay は広母音 a を含むが i で始まり i でおわる音節である。yaynuanhi、iruskake の 2 音節目の u に yaykorpare の o が対応する位置にあり、ともに後舌円唇母音である。最終母音は i, e, e で、いずれも狭めの前舌非円唇母音である。yaynuanhi と iruskake の n と r も対応する位置にあるが、ともに歯茎音である。

例 44

| | | |
|---|---|---|
| 1096 | u **a**m**i**n**u**m**p**e | 炉縁に |
| 1097 | **a**ur**eko**y**up**u | 足を押しつけていた。 |
| 1098 | cis**e kan kotor** | 建物の天井を |
| 1099 | **akonot**tarara | 睨みつけていた。 |

不完全韻

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1096 | a | mi | - | ①num | ①pe |
| 1097 | au | re | - | ①②koyu | ①②pu |
| 1098 | - | se | kan | ①②ko | ②tor |
| 1099 | - | - | a | ①②ko | ②not |
| | 母音 a | 母音 e, i | 母音 a | ①母音 o, u<br>②子音 k | ①子音 p<br>②母音 o, u |

1096-1098 はほぼ行全体近くが対応しているが、1099 は行前半部のみが対応している。ただし、1099 後半部に a-a という並びがあることも、1097-1099 の母音 o, u の並びと「同じ（あるいは類似の）母音が並ぶ」という意味で「似ている」印象をもたらしているのかもしれない。

## ７．　第２章の結論

平賀サタモ（[1959]1993）1 作品だけではあるが、1 編全体にわたえる「押韻」の全体像がつかめた。アイヌ韻文は 4 行を単位とする傾向が強い「4 行詩連構造」ともいうべき構造を有している（4 行詩連が最多で全体の 33.4%を占める）、6・7 行にわたる詩連は実際には 5 行詩連あるいはさらに行数の少ない複数の詩連から構成されている。

4 行詩連においては偶然でも 88.6%で行頭母音韻が生じるが、実際の押韻出現数は 94.2%であり、意図的に押韻が増やされていると思われる。2 行詩連・3 行詩連においてもやはり偶然より高い比率で押韻が生じている。5 行詩連は判断が難しいが、4 行で一致する押韻の出現率が高いことに注意したい。6 行詩連・7 行詩連については、基本的に内部の構成単位ごとに押韻している可能性が高い。

不完全韻が多いことも叙事詩文体の特徴である。平賀サタモ（[1959]1993）における「不完全韻」の出現率は全 310 詩連中 264 詩連（85.1%）である。

## 第 3 章　結論

第 1 章では 4 行形式を基本とするアイヌ伝統歌謡ウポポについては行頭母音韻が偶然とは思えない高い比率で出現していることがわかった。第 2 章ではアイヌ叙事詩も 4 行形式を基本とし、またウポポより出現比率が小さいものの、行頭母音韻が偶然以上に出現していることがわかった。また、どちらにも不完全韻が見られる。つまり、ウポポも叙事詩もよく似た形式を持っている。これは「アイヌ韻文」の形式、文体的特徴とみてよい。

従来「アイヌ韻文」の文体的特徴については、5 音節を基本とした音数律、特殊な語彙、定型表現、2 行対句などが指摘されてきた[51]。本稿ではさらに詩連構造、行頭母音韻、不完全韻の 3 つを追加したことになる。

また、ウポポと叙事詩の間には押韻の傾向の違いも存在する。村崎恭子による「樺太アイヌの散文説話中に登場する挿入歌に押韻がある」という指摘は叙事詩よりウポポによく当てはまる。叙事詩においては、行頭母音韻の出現率が最も高い 4 行詩連においても、偶然による確率 88.6%に対し 94.2%でやや高い比率を示すが、ウポポにおける行頭母音韻の出現率は 98.1%とさらに高いのである。叙事詩については Philippi の「意識的だが義務的ではない」という記述のほうが当てはまる。「できるだけたくさん押韻する」と言い換えても良いだろう。ほかにも違いはある。関係文的な繰り返し語句や不完全韻はウポポより叙事詩に多く見られる。

単純に行頭母音韻と同じように数を比較すると、行頭子音韻、行末母音韻はさほど出現率が高くなく、意図的と判断する数的な根拠はない。だが、Philippi も指摘するように散発的ながらも意図的に思える行頭子音韻は存在する。また、行末の繰り返し語句は行末韻の存在を示唆する。

---

[51] 近年では甲地利恵（2000）奥田統己（2012）など語アクセントと朗唱時の音の高低パターンに関する研究がある。

## 引用文献


NHK（日本放送協会）編
1965『アイヌ伝統音楽』（ソノシート付）日本放送出版協会
大喜多紀明
2012「『アイヌ神謡集に掲載されたカムイユカㇻについての考察　修辞論的　視点より」『人間生活文化研究 22』大妻女子大学人間生活文化研究所
奥田統己
2012 「アイヌ語の韻文における音節数志向とアクセント志向」『千葉大学ユーラシア言語文化論集 14』千葉大学ユーラシア言語文化論講座
金田一京助
[1908]1992「アイヌの文学」『金田一京助全集　第 7 巻　アイヌ文学 I』三省堂 7-44、初出『中央公論』23-1・2・3　所収
[1931]1993「ユーカラ概説」『金田一京助全集　第 8 巻　アイヌ文学 II』三省堂 7-336、初出『アイヌ叙事詩ユーカラの研究（二分冊)』東洋文庫
[1933]1992「アイヌの歌謡と万葉集の歌」『金田一京助全集　第 7 巻　アイヌ文学　I』三省堂 291-313、初出『万葉集講座　第 3 巻　言語研究偏』春陽堂　所収
久保寺逸彦
1977『アイヌ叙事詩　神謡・聖伝の研究』岩波書店
甲地利恵
2000「「クモの神の自叙」の音楽について　旋律構造とリズム配分を中心に」『北海道立アイヌ民族文化研究センター紀要 6』北海道立アイヌ民族文化研究センター
高倉新一郎（編）
1969『日本庶民生活史料集成　第 4 巻』三一書房
立石久雄
1991『アイヌの神謡　昔話とユーカラへの道』西田書店
田村すゞ子
1987『アイヌ語音声資料 4　福満・鵡川の歌謡』早稲田大学語学教育研究所
1996『アイヌ語沙流方言辞典』草風館
田村すゞ子・平賀サタモ
1993『アイヌ語音声資料 8　サダモさんのユーカラ 2　KOTAN SITCIRE MOSIR SITCIRE 2 村焼き国焼き 2 』早稲田大学語学教育研究所
丹菊逸治
2018『アイヌ叙景詩鑑賞～押韻法を中心に』北海道大学アイヌ・先住民研究センター報告書

中川　裕
1995『アイヌ語千歳方言辞典』草風館
1997『アイヌの物語世界』平凡社
中川裕・中本ムツ子
2007『カムイユカㇻでアイヌ語を学ぶ』白水社
平賀サタモ
[1959]1993（田村すゞ子・平賀サタモ 1993『アイヌ語音声資料 8　サダモさんのユーカラ 2　KOTAN SITCIRE MOSIR SITCIRE 2 村焼き国焼き 2』早稲田大学語学教育研究所　に付属したカセットテープ録音資料）
福田智子・南里一郎・竹田正幸
2002「古典和歌における反復表現の諸相」『人文科学とコンピュータ』53-7　47-54　情報処理学会研究報告
藤井麻湖
1997『モンゴル叙事詩のナラトロジー（物語の構造分析）研究　アルタイ・ハイラハ叙事詩を事例として』総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻　博士論文
村崎恭子
1989『樺太アイヌ語口承資料 1』昭和 63 年度科学研究費補助金（一般研究（C））研究成果報告書「樺太アイヌ語の記述的研究」（課題番号 62510266）
村崎恭子・浅井タケ
2001『樺太アイヌの昔話』草風館
Batchelor, John
1938 An Ainu-English-Japanese Dictionary 4th edtion, Iwanami, Tokyo（『アイヌ・英・和辞典　第 4 版』岩波書店）
Kawahara, Shigeto
2007 Half rhymes in Japanese rap lyrics and knowledge of similarity, J East Asian Linguist, 16, pp113-144
Philippi, Donald L
[1979]1982 Songs of Gods,Songs of Humans: The Epic Tradition of the Ainu, Princeton University Press

## 付録資料　平賀サタモによる 1959 年の語りの全詩連構成と全不完全韻

本資料は、音声資料である平賀サタモ（[1959]1993）の詩連構造と不完全韻を示したものである。したがって、平賀サタモ（[1959]1993）の刊行テキストである田村すゞ子・平賀サタモ（1993）とはアイヌ語表記が異なる場合もある。

1．　行番号は田村すゞ子・平賀サタモ（1993）と同一のものを用いた。刊行されたテキストには、語り手の平賀サタモが後日録音を聞いてから追加した行が含まれているが、付録資料には含まれていない。そのため、該当する番号は脱落している。

2．　詩連と詩連の間は 1 行空けてある。

3．　詩連の最終行が動詞句をなしている場合は■を、名詞句をなしている場合は▲を、接続表現になっている場合は●を付してある。▲には必要に応じてどのような名詞句か、また●には原則としてどのような接続表現が用いられているかを付してある。

4．　不完全韻を含む行のみを文字で示し、それ以外の部分は「○○○」のように省略してある。○は 1 音節である（CVC 音節と CV 音節は区別していない）。不完全韻の部分は太字になっている。細字部分は不完全韻に参加していない。

5．　不完全韻は多くの場合詩連内部で押韻するが、詩連をまたいでいることもある。また、不完全韻の複数の組が交錯している場合もあるが、それらの組は区別していない。

6．　虚辞 u、ep は○ではなくそののまま u, ep で示した。

7．　見やすさを考慮して文頭でも大文字にせず全て小文字とした。

| | | |
|---|---|---|
| 0001 | **iresu ca**si | |
| 0002 | ○○○○ | |
| 0003 | **cisirea**nu | ■ |
| 0004 | **iresu sa**po | |
| 0005 | **irespa** ki wa | |
| 0006 | ○○○○○ | |
| 0007 | ○○○○○ | ■ |
| 0008 | u **pakno ne kor** | |
| 0009 | u **casi kotor** | |
| 0010 | ○○○○○ | |
| 0011 | ○○○○○ | ▲ene oka hi |
| 0012 | ○○○○○○ | |
| 0013 | u ○○○○ | |
| 0014 | ○○○○○ | ■ |
| 0015 | u **emko kusu** | |
| 0016 | u ○○○○ | |
| 0017 | u **tonon sukus** | |
| 0018 | **cieomare** | |
| 0019 | u **semkoraci** | |
| 0020 | u **casi upsor** | |
| 0021 | e**nipekooma** | ■ |
| 0022 | u **pakno ne kor** | |
| 0023 | ○○○○○ | |
| 0024 | **kamuy inuma** | |
| 0025 | u **rampes kunne** | |
| 0026 | **cisiturire** | ■ |
| 0027 | **iyoykir en**ka | |
| 0028 | u **nispa mut**pe | |
| 0029 | o**tusantu**ka | |
| 0030 | **uokauyru** | ■ |
| 0031 | **ukopusakur**- | |
| 0032 | u -**suypa ka**ne | ●kane |
| 0033 | i**yoykir ka** ta | |
| 0034 | ○○○○○ | |
| 0035 | ka**muy hayokpe** | |
| 0036 | sik**nu pito ne** | |
| 0038 | u ○○○ | ●kane |
| 0039 | iresu **sapo** | |
| 0040 | aniko**rayap** | ■ |
| 0041 | **kamuy** he **tapan** | ■ |
| 0042 | **aynu he tapan** | ■ |
| 0043 | ea**sirana** | |
| 0044 | u ○○○○ | |
| 0045 | **hetuku cup ne** | |
| 0046 | **iyenu cupki** | |
| 0047 | u ○○○○ | |
| 0048 | u **pirka ruwe** | |
| 0049 | a**nikorayap** | ■ |
| 0050 | u ○○○○ | |
| 0051 | **iyoykir mon**pok | |
| 0052 | **cituyeam**set | |
| 0053 | u ○○○○ | |
| 0054 | **cisireanu** | ■ |
| 0055 | u **amset kur**ka | |
| 0056 | a**yayoresu** | ■ |
| 0057 | **iresu sapo** | |
| 0058 | ○○○○○ | |
| 0059 | **iparosuke** | ■ |
| 0060 | ea**sira**na | |
| 0061 | u **pirka** suke | |
| 0062 | **eyaykesupka**- | |
| 0063 | -**ewakitara** | |
| 0064 | u **ciwre ka**ne | ●kane |
| 0065 | u **pirka** suke | |
| 0066 | **ki wa ne ki** kor | ●kor |
| 0067 | **kaparpe itanki** | |
| 0068 | ○○○○○○ | |
| 0069 | uw**oeroski** | ■ |
| 0070 | ik**oypun**pa | ■ |
| 0071 | ○○○○○ | |
| 0072 | ore **kesto** ta | |
| 0073 | u ki **katu**hu | |
| 0074 | ○○○○○ | ■ |
| 0075 | tane **anakne** | |
| 0076 | se**mar poronno** | |
| 0077 | u **anan ki** kor | ●kor |
| 0078 | **tap orowano** | ●tap orowano |
| 0079 | **u sirka** nuye | |
| 0080 | **tomika** nuye | |
| 0081 | tapan **pe patek** | |
| 0082 | nepki **ne aki** | ■ |
| 0083 | ○○○○○ | |
| 0084 | ○○○○○ | |
| 0085 | **makiri e**tok | |
| 0086 | **asikrarire** | ■ |
| 0087 | ○○○○○ | |
| 0088 | **asikkote**su | |
| 0089 | ○○○○○ | |
| 0090 | **anioke**re | ■ |
| 0091 | ○○○○○ | ■ |
| 0092 | ○○○○○ | ■ |
| 0093 | u **kesto an kor** | |
| 0094 | i**resu sapo** | |
| 0095 | ○○○○○ | |
| 0096 | ○○○○○ | ●ayne |

0097 ○○○○○
0098 **sineanto** ta
0099 u **nisapramta**
0100 u ○○○○
0101 e**kimne rusuy**
0102 i**yannukamu** ■

0103 ta**pan pe kusu**
0104 **kamuy hayok**pe
0105 **iyoykir ka un**
0106 **auyna katu**
0107 ○○○○○ ■

0108 ka**muy koson**te
0109 asi**kurka sam**
0110 ○○○○○ ■

0111 uwok**kane kut**
0112 e**arsay** neno
0113 **ayaykoyupu** ■

0114 **kamuy ranke** tam
0115 **akutpoke**ciw ■

0116 **kane pon** kasa
0117 **kasa rantupep**
0118 **ayaykoyupu** ■

0119 **kina tuye** hos
0120 a**eyaypokisir**
0121 **ekarkar kane** ●kane

0122 ○○○○○
0123 ○○○○○
0124 ae**yayureka**
0125 u **karkar ka**ne ●kane

0126 ○○○○○
0127 ○○○○○
0128 ○○○○○
0129 ○○○○○ ■

0130 u ○○○○
0131 u **kane am**set
0132 u **amset ka** wa
0133 u **ranan ki** wa ●wa

0134 ○○○○○○
0135 ○○○○○
0136 ○○○○○ ●kor

0137 **iresu sapo**
0138 **ine rok pe kus**

0139 **iyeoripak pe**
0140 **itukarike**
0141 kosi**kerana**
0142 u at**te kane** ●kane

0143 ita**kan hawe**
0144 ○○○○○ ▲ene oka hi

0145 ○○○○○
0146 iresu **sapo**
0147 tapan te **pakno**
0148 **ire**su **sapo** ▲

0149 **sinen** ene wa
0150 pa**ro cioyki**
0151 ○○○○○
0152 ○○○○○○

0153 u ○○○○
0154 ○○○○○
0155 ○○○○○ ●yak

0156 u **yuk cikoykip**
0157 kasi **ciose**
0158 a**ekarkar ki na** ■
0159 **itakan tura** ●tura

0160 u **soy wa samma**
0161 anosi**raye** ■
0162 inkaran **ruwe** ▲ruwe

0163 ○○○○○
0164 ○○○○○
0165 u **soyke sama**
0166 ○○○○○ ■

0167 ○○○○○
0168 **kamuy** kar casi
0169 **keray ne kusu** ●kusu
0170 u **casi kamuy**
0171 u **pirka katu**
0172 ○○○○○ ■

0173 u ○○○○
0174 casi **soyna wa**
0175 ○○○○○ ■

0176 u **pirka ka**tu
0177 ○○○○○ ■

0178 **ekimun** kiroru
0179 u **sinna** kane ●kane
0180 **episun** kiroru
0181 u **sinna** kane ●kane

0182 u **siran ciki**
0183 ekimun **kiroru**
0184 ki**roru tuyka**
0185 aeyay**rikikur**-
0186 -**hopunpa ka**ne ●kane

0187 u **toytoy ka wa**
0188 **hopuni rera**
0189 u ○○○○
0190 ○○○○○○
0191 u ○○○○ ●kane

0192 ○○○○○
0193 u ○○○○
0194 ○○○○○
0195 u ○○○○
0196 ○○○○○ ●korka

0197 ae**kisarsutu**
0198 **komawkururu** ■

0199 u ○○○○
0200 ○○○○○
0201 ○○○○○ ■

0202 u **ki rok ayne**
0203 a**kor ekimne**
0204 ○○○○○○-
0205 -○○○○○ ■

0206 ○○○○○
0207 ep a**kor petpo**
0208 u **pet hontomo**
0209 ○○○○○
0210 u ○○○○ ●kane

0211 u pet **teksam ta**
0212 acas**tustekka** ■
0213 **inuan kuni**
0214 **ene oka hi** ▲ene oka hi

0215 ○○○○○
0216 ○○○○○
0217 **mak an kat kor** pe
0218 u **ek hum kon**na
0219 ○○○○○ ■
0220 ○○○○○ ■

0221 u sen**ram sekor**
0222 ma**k an kat kor** pe
0223 u **pase** humi
0224 e **siturare** ■
0225 u **kosne** humi
0226 e **sihopire** ■

0227 u ○○○○
0228 u ○○○○
0229 u **tuytuy nis** ne
0230 uko**tutturse** ■

0231 u **nis rap etok**
0232 u **numnu kawkaw**
0233 u **numnu apto**
0234 e**ran hum konna**
0235 ○○○○○ ■

0236 **iyos nisihi**
0237 ○○○○○
0238 **nisoparakur**-
0239 u ○○○○ ●kane

0240 ○○○○○
0241 u **pet turasi**
0242 u ar**ki humi**
0243 **koturi**mimse ■

0244 ○○○○○
0245 ○○○○○
0246 u **kapar** toypo
0247 **ayayka**kuste ■

0248 u **anan awa**
0249 u ○○○○
0250 u ○○○○ ●-no

0251 i**teksama** ta
0252 u **petso ka** ta
0253 ○○○○○
0254 ○○○○○ ■

0255 u **urar tak ne**
0256 **koyaykar kane** ●kane

0257 ko**uratcari**
0258 ep ○○○ ●wa
0259 a**nukan** ruwe
0260 ene **oka hi** ▲ene oka hi

0261 ○○○○○
0262 kamuy **menoko**
0263 u an **nanko**ra ■

0264 ○○○○○
0265 retar **cipanup**
0266 u ○○○○
0267 e**sipine pe** ▲名詞句

0268 ○○○○○
0269 ○○○○○
0270 u ○○○○
0271 u ey**pottumma**
0272 **kosinna** kane ●kane
0273 nupur pe **sone** ■sone

0274 nupur can**noye p**
0275 ○○○○○
0276 u **seske kane** ●kane

0277 u ○○○○○
0278 u ○○○○ ●kane

0279 **u petso ka ta**
0280 **horaociwpa** ■

0281 u **castustekka**
0282 u siran **awa** ●awa

0283 **ep akor petpo**
0284 **pet kur etoko**
0285 iworso **ka wa**
0286 ○○○○○ ▲名詞句

0287 **kohumepusi**
0288 u ○○○○
0289 **koturimimse** ■
0290 ○○○○○ ■

0291 ○○○○○
0292 i**nan okay pe**
0293 u **rapokkari**
0294 u ○○○○
0295 u koy**samnopo**
0296 upak **rametok**
0297 ○○○○○ ■

0298 sipase **kamuy**
0299 u **pase humi**
0300 u **siturare** ■
0301 u **kosne** humi
0302 e **sihopire** ■

0303 u **nis rap etok**
0304 u **numnu kawkaw**
0305 u **numnu apto**
0306 **eran hum konna**
0307 ○○○○○ ■

0308 ○○○○○
0309 u ○○○○
0310 u ○○○○ ●kane

0311 mak an **kat kor** pe
0312 u ne **nankora** ■
0313 u ○○○○
0314 u san **hum konna**
0315 ○○○○○ ■

0316 u ○○○○
0317 u **tan tepo ta**
0318 re**tar kosonte**
0319 **kamuy menoko**
0320 u **teksama** ta
0321 **mak an kat** kor pe
0322 cisi**kurure** ■

0323 a**nukan ruwe**
0324 ○○○○○ ▲ene oka hi

0325 kunne **kosonte**
0326 ○○○○○
0327 **koar'uwe**un
0328 u **yayne**nayne
0329 e**sipine** pe ▲名詞句

0330 ○○○○○
0331 u ○○○○
0332 ey**pottumma**
0333 **kosinna** kane ●kane

0334 u ○○○○
0335 u **neno kane**
0336 nupur **pe sone** ■nupur pe sone

0337 nupur can**noye p**
0338 esi**rutumka**
0339 o**nuyna ka**ne
0340 ○○○○○ ■

0341 u ○○○○
0342 **kunne kosonte**
0343 **kamuy menoko**
0344 ○○○○○ ▲ene itak hi

0345 **koninkar kusu**
0346 **rep un iworso**
0347 ○○○○○
0348 u **ek menoko**
0349 **kamuy moyre**mat ▲名詞句（呼びかけ）

0350 iworso ka ta
0351 **urokte** kamuy
0352 kamuy **oruspe**
0353 a**punno** siran ya ■
0354 uwepe**kennu** ■wepekennu

0355 u ○○○○
0356 **retar kosonte**
0357 ○○○○○ ▲ene itak hi

0358 **repuyso ka ta**
0359 ○○○○○
0360 kamuy or **ta anak**
0361 **airanak** pe ka
0362 i**sam korkay**ki ●korkayki

0363 **tanan to or ta**
0364 **Kotan** sitcire
0365 **Mosir sit**cire
0366 **San ka tososo**
0367 **Oypepi poro**
0368 ○○○○○ ▲名詞句

0369 u **Hon okkasi**
0370 O**poysuyanke**
0371 kamuy ra**metok**
0372 **ne yak** easir

0373 ○○○○○
0374 u ○○○○ ●wa kusu

0375 **tanan** to or ta
0376 ○○○○○
0377 in**karan** wa kusu ●wa kusu

0378 akore **kuni**
0379 ci**karkar konci**
0380 akor wa **yanan**
0381 ○○○○○○○ ■

0382 itak **turano**
0383 iyo**nuytasa**
0384 itak **kutcama**
0385 ○○○○○ ■
0386 ○○○○○ ▲ene oka hi

0387 **kim un iworso**
0388 iwor**so ka wa**
0389 u san **menoko**
0390 **kamuy moyremat** ▲名詞句（呼びかけ）

0391 kimuy**so ka ta**
0392 a**yra**nak kuni p
0393 **isam** he ki ya ■
0394 **itak rok awa** ●awa

0395 ki**m un iworso**
0396 ○○○○○
0397 u **san menoko**
0398 ○○○○○ ▲ene itak hi

0399 ○○○○○
0400 ○○○○○
0401 **kim un i**worso
0402 **epunki**ne kamuy ▲名詞句

0403 ○○○○○
0404 u ○○○○
0405 ○○○○○ ●taptap

0406 ○○○○○
0407 ○○○○○
0408 ○○ u ○○○ ●連体修飾句

0409 u **hon okkasi**
0410 o**poysuyanke**
0411 ○○○○○
0412 ka**muy ne an kur** ▲名詞句

0413 ne yak **easir**
0414 **ayaykotomka**
0415 **yaynuan wa** kus ●kus

0416 **tanan to or ta**
0417 ○○○○○
0418 in**karan** wa kusu ●wa kusu

0419 akore **kuni**
0420 matan**pusi taptap** ●taptap
0421 akor wa **sanan**
0422 **ki ruwe tas tapan** nek■
0423 u **hawas** hike ●hike

0424 **iruska** kewtum
0425 **ayaykorpare** ■

0426 **mak an kat kor pe**
0427 u ○○○○
0428 ○○○○○
0429 ○○○○○
0430 u ○○○○ ●taptap

0431 a**sinuma** mosma
0432 **mosma** an kuni p
0433 cipi**yepko**re
0434 u **yupke** hike
0435 ○○○○○○○○○ ■

0436 **usayne ka** tap
0437 u **wen menoko**
0438 **utar orke**he ▲名詞句

0439 ○○○○○
0440 ○○○○○-
0441 u -**yaykata**nu
0442 iye**karkar ha**we
0443 ○○○○○
0444 ○○○○○ ●hike

0445 ○○○○○
0446 ayay**korpare** ■

0447 eun **ka tapne**
0448 u wen **menoko**
0449 ○○○○○
0450 eat**tam neno**
0451 **atuypa an**ki ■
0452 **yaynuan** korka ●yaynuan korka

0453 **apunitara**
0454 ○○○○○○-
0455 -**kokisma ka**ne ●kane

0456 ○○○○○
0457 **irespa siri**
0458 u **pirka kuni p** ▲名詞句（p）

0459 **iresu sapo**
0460 ○○○○○
0461 u **ne a hine**
0462 ○○○○○ ▲ene itak hi

0463 si**no utarpa**
0464 sino **rametok** ▲名詞句（呼びかけ）

0465 e**annu ki pe**
0466 e**annukar pe**
0467 iruska **kewtum**
0468 eki **wa ne kor** ●kor

0469 sem ok**kayoram**
0470 ○○○○○○ ■

0471 nep **enukar yakka**
0472 nep **enu yakka**
0473 ikiya **eyruska na** ■

0474 **sekor okay** pe
0475 ○○○○○○
0476 **etoko ta**
0477 ○○○○
0478 ○○○○ ▲hi

0479 ○○○○○
0480 ○○○○○
0481 **koetoranne** ■

0482 ○○○○○
0483 u **oar apunno**
0484 **homar rera**
0485 **homaritara** ■

0486 **hopuni rera**
0487 u ○○○○
0488 ae**yaypas**tere ■
0489 u **sanan** katu
0490 ○○○○○ ■

0491 u **sanan** hike ●hike

0492 ○○○○○
0493 **tanan** to or ta
0494 ○○○○○ ▲名詞句（呼びかけ）

0495 u yuk **cikoyki**p
0496 kasi **ciose**
0497 ae**ekarkar** ki na ■
0498 **itakan** awa ●itakan awa

0499 nep ka u **asakno**
0500 sirepa**an yakun**
0501 **iresu sapo**
0502 **ikoyki sekor**
0503 ○○○○○ ●kusu

0504 tu iwor**so ka**
0505 tu ke**nasso ka**
0506 ano**pasopas** ■

0507 **inkaran hike** ●hike
0508 **u simomanpe**
0509 ○○○○○
0510 ko**moyna**tara ■

0511 u **tuyma** uk pe
0512 ○○○○○
0513 **om**are kane ●kane

0514 u **hanke** uk pe
0515 koki**rawriki**
0516 u **roski** kane ●kane

0517 ipe **sir konna**
0518 ○○○○○ ■

0519 u **sirki hi ta**
0520 o**ar apunno**
0521 ○○○○○
0522 **ayaytuypare** ■

0523 u **pancikiri**
0524 u ○○○○○
0525 **anesikari** ■

0526 **ane cikuni**
0527 **anehaytare** ■
0528 ○○○○○
0529 **ayepekare** ■

0530 ○○○○○
0531 ○○○○○ ■

0532 u ki **rok ayne**
0533 a**nukar ruwe**
0534 ene **oka hi** ▲ene oka hi

0535 u **nep pahawe**
0536 ikonu **kuni p** ●p
0537 retar sik**numi**
0538 ○○○○○ ■

0539 ○○○○○
0540 u **sikkeruru** ■
0541 u **siktokoko** ■
0542 arus**ka kusu** ●kusu

0543 u **kanna** ruyno
0544 asirkik hum **konna**
0545 ○○○○○
0546 ○○○○○ ■

0547 ○○○○○
0548 cikoykip **kamuy**
0549 ranma **katuhu**
0550 ○○○○○ ■

0551 ki hi **orowa**
0552 u **pancikiri**
0553 atapka**kokomo** ■
0554 aetapka **konna**
0555 **racini**tara ■

0556 e**p akor ca**si
0557 ko**pakke sa**ma
0558 ayay**tuye**re ■
0559 ayay**terke**re ■

0560 u ○○○○
0561 **iresu** casi
0562 ca**si erupsik ta**
0563 u tan **rikna** wa
0564 u ○○○○
0565 ○○○○○○
0566 ○○○○○ ■

0567 u **pakno ne kor**
0568 **harkiso peka**
0569 u **casi teksam**
0570 u ○○○○
0571 **hapur toy kunne**
0572 **aureekiru** ■

0573 **ahunan hike**
0574 ○○○○○
0575 ○○○○○ ■

0576 **neun** motokor pe
0577 **ane wa tapne** ■tapne
0578 **kamuy he tapan** ■tapan
0579 **aynu he tapan** ■tapan

0580 iresu **sapo**
0581 u tan te **pakno**
0582 ○○○○○
0583 ○○○○○ ▲hike

0584 ○○○○○
0585 ○○○○○ ●ayne

0586 **usayne ka** tap
0587 u ○○○○
0588 **utar orke**he ▲名詞句

0589 **itak ne yakka**
0590 **ciyeko**somo-
0591 u -**yaykatanu**
0592 iye**karkar ku**su ●kusu

0593 cipi**yepko**re
0594 cipi**yepko**re
0595 u **yupke** hike
0596 ○○○○○○
0597 ○○○○○
0598 ○○○○○ ●hike

0599 ○○○○○ ▲p
0600 ○○○○○ ●kusu

0601 **iruska** ipor
0602 anan **tuyka** ta
0603 **ipuki**tara ■

0604 ○○○○○
0605 ○○○○○○ ■
0606 u casi **kotor**
0607 a**konot**tara ■

0608 u ○○○○
0609 ○○○○○
0610 i**nukar** ayne ●ayne

0611 **oar apun**no
0612 **hopun**pa hine ●hine

0613 u ○○○○
0614 ○○○○○ ■
0615 u ○○○○ ■

0616 ○○○○○
0617 ○○○○○ ■

0618 **ketusi** upsor
0619 u **tekkus**pare ■

0620 **mak an** kat **kor pe**
0621 u ○○○○
0622 eto**ko orke** ▲etoko orke

0623 **tapan kamuy** maw
0624 **ketusi** upsor wa
0625 **hopuni** kamuy maw
0626 **kamuy** maw sika
0627 kamuy **kosonte**
0628 u ○○○○ ●kane

0629 **tapan** pe rekor
0630 easi**rana**
0631 ka**muy kosonte**
0632 i**yaynomare** ■

0633 u sirka **kasi**
0634 ○○○○○
0635 ○○○○○
0636 ene o**ka hi** ▲ene oka hi

0637 **easira**na
0638 **sikari** cup noka
0639 u ○○○○
0640 **earuwa**to
0641 kamuy ko**sonte**
0642 u sana**sanke** ■

0643 ○○○○○
0644 u ○○○○
0645 u ○○○○ ■

0646 kamuy **cipa**nup
0647 kamuy **ninka**ri
0648 **kamuy tamasay**
0649 **koaru**weun
0650 u **sanasap**te ■

0651 ○○○○○
0652 ○○○○○
0653 ○○○○○
0654 ○○○○○ ■

0655 ○○○○○
0656 ○○○○○ ●wa

0657 ○○○○○
0658 ○○○○○ ■
0659 kamuy **ninkari**
0660 **kisar** uyruke ■

0661 **kamuy cipanup**
0662 **erurikikur**
0663 u ○○○○ ●kane

0664 u ○○○○
0665 ○○○○○
0666 ○○○○○
0667 ri**wak kamuy ne**
0668 ko**yaykar kane** ●kane

0669 ○○○○○
0670 ○○○○○○
0671 u ○○○○
0672 ○○○○○ ■

0673 e**p akor sa**po
0674 u **nan tuyka**si
0675 **hetuku cup ne**
0676 **iyenucupki**
0677 u ○○○○ ●kane

0678 u **casi kotor**
0679 si**kari cup no**ka
0680 u ○○○○
0681 ○○○○○ ■

0682 i**yoype** nipek
0683 ep ○○○○
0684 u ○○○○
0685 ko**sonte** nipeki ▲名詞句

0686 ○○○○○
0687 ○○○○○
0688 u ○○○○ ▲名詞句

0689 ○○○○○
0690 ○○○○○
0691 ○○○○○
0692 ○○○○○ ■

0693 kuwa **kurka**si
0694 u kane **kuwa**
0695 cinoye **kuwa**
0696 kuwa **tuyka**si
0697 u ○○○○ ■

0698 kuwa **kurka**si
0699 u **tek**rari**re** ■

0700 u ○○○○
0701 i**tak** oma**re** ■

0702 i**tak ne manu** p
0703 ○○○○○
0705 ○○○○○ ■
0706 ○○○○○ ●ene oka hi

0707 ○○○○○
0708 ○○○○○
0709 ○○○○○ ▲名詞句（呼びかけ）

0710 ○○○○○
0711 ○○○○○ ■

0712 ○○○○○
0713 **kamuy rametok** ▲名詞句（呼びかけ）

0714 **apaskuma kus ne kor**
0715 ○○○○○
0716 **somo an kuni p**
0717 ○○○○○○ ●kus

0718 **hayokan ruwe**
0719 ○○○○○ ■

0720 **tumu** an kewtum
0721 ○○○○○
0722 **somo** ne nankor ■

0723 ○○○○○
0724 **erekor** moto
0725 **ene o**ka hi ▲ene oka hi

0726 ○○○○○
0727 ○○○○○
0728 ○○○○○
0729 ○○○○○ ■

0730 kiyan**ne hike**
0731 **kamuy nis ka** ka ta
0732 a**kopuriniwkes** ■

0733 u ○○○○
0734 ○○○○○
0735 ○○○○○ ■

0736 u ki **pe ne kus**
0737 ○○○○○
0738 **ene o**ka hi ▲ene oka hi

0739 u **sinis kotor**
0740 u ○○○○
0741 u ○○○○
0742 e**sisuye kor** ●kor

0743 ne hi **koraci**
0744 u **kus wa ani**
0745 u**huy wa paye** ■

0746 u ○○○○
0747 ○○○○○ ■
0748 ○○○○○ ■

0749 ○○○○○
0750 iki **yakkay**ki ●yakkayki

0751 u **apkas** hum ko
0752 ○○○○○
0753 ○○○○○ ■
0754 ○○○○○ ■

0755 u **ki wa ne kor**
0756 ma**k anan ne kor**
0757 u ○○○○
0758 ○○○○○
0759 ○○○○○ ■

0760 ○○○○○
0761 mo**sirkes um**ma
0762 u **apkas hum** ko
0763 ○○○○○ ■
0764 ○○○○○ ■

0765 u **kus wa ani**
0766 u**huy wa paye** ■

0767 **orowa** easir
0768 **otu pa** re pa
0769 **neno iki** ayne ●ayne
0770 i**perusuy** kor ●kor

0771 ka**muy nis ka ta**
0772 u **un cise ta**
0773 ○○○○○ ●kor

0774 ○○○○○
0775 ○○○○○ ●ayne

0776 u **hon ne kor pe**
0777 u **totta kunne**
0778 ○○○○○ ■

0779 u **hon okkasi**
0780 op**oysuyanke** ■
0781 u ○○○○ ■
0782 ipe **rok ayne** ●ayne

0783 u **hon ne kor pe**
0784 u **totta kunne**
0785 **sisam oma**re ■

0786 ne hi **mosma poka**
0787 **koyay**sinire
0788 **ki yak** aramu
0789 he**topo horka** ●horka

0790 u **ranke mo**sir
0791 o**ran hum kon**na
0792 ○○○○○ ■
0793 ○○○○○ ■

0794 u ap**kas hi ta**
0795 u ○○○○
0796 mosir **noski ta**
0797 ○○○○○
0798 ○○○○○ ▲

0799 ○○○○○
0800 u ○○○○
0801 ○○○○○
0802 ○○○○○ ●kane

0803 ○○○○○
0804 u ○○○○
0805 u ○○○○ ■

0806 **enka**sike kus kor ●kor
0807 **nukar** wa ne kor ●kor

0808 ○○○○○○
0809 e**ne pirka hi**
0810 ○○○○○ ●sekor

0811 u ○○○○
0812 u **ne yak tasi** ●tasi

0813 upak **pito** ne
0814 upak **siretok**
0815 ○○○○○ ●

0816 u ○○○○ ●kusu
0817 ○○○○○
0818 ○○○○○ ■

0819 u ○○○○
0820 ○○○○○ ●ciki
0821 u ○○○○
0822 ○○○○○
0823 **ene oka hi** ▲ene oka hi

0824 **teeta kane**
0825 **hoski**no **kane**
0826 **mosir** kar kamuy
0827 **mosir** kar **ayne** ●ayne

0828 **cikuni kupka**
0829 a**ni mosir kar**
0830 u **ki rok kupka**
0831 mo**sir noski wa**
0832 u ○○○○ ●hine
0833 ○○○○○
0834 ○○○○○ ▲pe

0835 sipa**se kamuy**
0836 te**kekar kuni p**
0837 **kupka ne** kor pe
0838 u ne **yakkay**ki ●yakkayki

0839 u **toykomunin**
0840 e**yaynunuke** ■

0841 tapan pe kusu
0842 pon cikisani ne
0843 **hetuku katu** ▲katu

0844 sikenukar pe
0845 u **ne korkay**ki ●korkayki
0846 **heru yaynu** ne ■
0847 anak **ki korka** ●korka

0848 **sekor an** menoko
0849 si**pase kamuy**
0850 ne **yak ta akor**
0851 u **yaynu katu** ▲katu

0852 kamuy **yaynu kuni**
0853 u ○○○○
0854 e**yaynunuke** ■

0855 u hon**kor ruwe**
0856 ○○○○○○
0857 u **kor ruwe** ne ■

0858 ○○○○○
0859 u a**pesamoma**
0860 ○○○○○ ■
0861 ki ru**we ne korka** ●korka

0862 ○○○○○
0863 u ○○○○
0864 **eresu ku**ni p
0865 u **ewkusku**su ■

0866 ○○○○○
0867 ○○○○○
0868 ○○○○○
0869 ○○○○○
0870 u ○○○○ ●hine

0871 ○○○○○
0872 u ○○○○
0873 u ○○○○
0874 ○○○○○○
0875 ○○○○○ ■

0876 ○○○○○○
0877 u **kor rametok**
0878 ○○○○○ ■

0879 u **ki wa ne kor** ●kor
0880 u **nen ta usa**
0881 u **respa ciki**
0882 u **pirka kuni** ●kuni

0883 kamuy o**poysan**
0884 ○○○○○
0885 u ne nan**kora** ■

0886 **sekor okay** pe
0887 ○○○○○
0888 **ewkoram**kur-
0889 u -○○○○ ●kane

0890 ○○○○○ ●hike
0891 ○○○○○
0892 ○○○○○ ■

0893 **tapan** pe kusu ●kusu
0894 u **yayteknawa**
0895 u **kanto oro wa**
0896 ○○○○○
0897 u **ranan** ruwe ▲ruwe
+
0898 ep ○○○○
0899 ○○○○○
0900 ○○○○○ ■

0901 aeres**pa poka**
0902 e**yaykora**mu-
0903 -○○○○○ ●ayne

0904 ○○○○○
0905 ○○○○○
0906 ○○○○○○ ●kus

0907 ○○○○○
0908 u ○○○○
0909 a**porose** pe
0910 u **moto orke**
0911 ○○○○○ ■

0912 ○○○○○
0913 ○○○○○
0914 ○○○○○
0915 ○○○○○○
0916 ne **hi tapan** na ■

0917 **eani taptap**
0918 ○○○○○
0919 **ean yakkay**ki ●yakkayki

0920 ○○○○○
0921 ○○○○○
0922 ○○○○○ ●kusu

0923 asi**numa tap**
0924 u ra**muanan** hi ▲hi

0925 **rep un i**worso
0926 **atuyso kur**ka
0927 **epunki**ne **kamuy**
0928 u **kor ture**si ▲

0929 ○○○○○
0930 ○○○○○
0931 ○○○○○ ●yakun

0932 **kim un iworso**
0933 ○○○○○
0934 **kamuy menoko** ▲

0935 pon**mat ne** ekor
0936 ki wa ne **yakne** ●yakne

0937 ○○○○○
0938 ○○○○○
0939 u **ne pa ki** wa
0940 uwas**te yakun** ●yakun

0941 tapan **pe son**no
0942 mosir e**rekor** ■

0943 ○○○○○
0944 u ○○○○
0945 ○○○○○ ■

0946 ○○○○○
0947 ○○○○○○ ■
0948 ○○○○○ ■

0949 oro**waun suy**
0950 ○○○○○○
0951 si**pase kamuy**
0952 **ane wa o**ra ●ora

0953 tapan te **pakno**
0954 a**eyayko**resu
0955 u **ki rok** ayne ●ayne

0956 ○○○○○
0957 a**monkurka**si
0958 **kosumna**tara ■

0959 ki **wa ne yakun**
0960 ta**pan te pakno**
0961 ○○○○○
0962 ○○○○○ ●kusu

0963 ni**satta** wano
0964 **tapan te** wano
0965 **kamuy mo**sir ka un
0966 u **kanto or** un
0967 u ○○○○
0968 ○○○○○ ■

0969 u ○○○○
0970 ep ○○○○
0971 ○○○○○○ ■

0972 ea**ni anak**
0973 ○○○○○
0974 kamuy **ne an kur** ▲

0975 u ○○○○
0976 **kamuy inuma**
0977 **koeun ki wa** ●wa

0978 **eehayok pe**
0979 ○○○○○
0980 ki **pe ne wa ku**su ●kusu

0981 opitta **aekore**
0982 ○○○○○ ■

0983 u ○○○○
0984 u ○○○○
0985 ○○○○○
0986 u **ki nankon** na ■

0987 u **pirkano**po
0988 eyay**kewtum ka**
0989 **eohunara** ■

0990 ○○○○○
0991 ○○○○○
0992 ○○○○○ ■

0993 kamuy **moyremat**
0994 **utar** orkehe
0995 **u ar**ki ciki
0996 iteki **koyki na** ■

0997 ○○○○○
0998 **eren ecine** ■
0999 **tapan a casi**
1000 ○○○○○○○ ■

1001 ○○○○○
1002 ○○○○○○
1003 **kamuy nis ka** un
1004 u **yaytunaska**
1005 e**p aki ki na** ■

1006 aye a **itak**
1007 u **pirka**nopo
1008 ○○○○○ ■

1009 ○○○○○
1010 **arespa ka**muy
1011 **tane anak**ne
1012 ○○○○○○
1013 **rikinan kus** ne ■

1014 **itak turano**
1015 **iresu sapo**
1016 ○○○○
1017 e**osiraye** ■

1018 u ○○○○○
1019 u yay**tuypare** ■

1020 ○○○○○
1021 ○○○○○ ■
1022 ○○○○○
1023 ○○○○○ ■

1024 ○○○○○
1025 ○○○○○
1026 ○○○○○ ■

1027 **ne hi koraci**
1028 **ru an toy ka wa**
1029 **tapan kamuy maw**
1030 **cirikipuni** ■

1031 **ne hi kora**ci
1032 **iresu sa**po
1033 ○○○○○
1034 ○○○○○-
1035 -○○○○○ ■

1036 u **arkuwan**no
1037 **kamuy** nis kotor
1038 ko**yaytunas**ka ■

1039 u ○○○○
1040 ○○○○○
1041 u **sapoe**huyean (?)
1042 a**raykoten**ke ■

1043 iki**an awa** ●awa
1044 tan poro **paraparak**
1045 **aesara**ninpa ■

1046 u **ki rok a**wa ●awa
1047 i**resu sa**po
1048 ○○○○○
1049 e**ne oka** hi ▲ene oka hi

1050 okkayo **pirka**
1051 nep e**ciskar** hawe an ■

1052 ○○○○○
1053 ○○○○○
1054 ○○○○○
1055 kamuy **hekaci**
1056 e**ne a hi**ne ●hine

1057 u ○○○○
1058 u ○○○○
1059 **ene** a hine ●hine
1060 **nep e**ciskar hawe ■

1061 ○○○○○
1062 u **aynu mo**sir
1063 ○○○○○○
1064 **aeye rok** awa ●awa

1065 **okkayo pirka**
1066 nep **ciskar** pe tap
1067 **kohawkor** hawe
1068 **oka ya sekor** ●oka ya sekor

1069 **iresu sapo**
1070 ○○○○○
1071 ○○○○○
1072 **esirotatpa** ■

1073 u nei ta **pakno**
1074 u **sinis kotor**
1075 eyay**rikikur**-
1076 u -nun**pa kor**ka ●korka

1077 ○○○○○
1078 u ○○○○
1079 ○○○○○
1080 ○○○○○
1081 ○○○○○ ■

1082 a**nak ki kor**ka
1083 hu**nakke ku**su
1084 ○○○○○
1085 ○○○○○
1086 **cikaspaotte**
1087 **iyekarkar pe** ▲pe

1088 u ne**i ta pakno**
1089 u **cisan yakun** ●yakun
1090 semok**kayoram**
1091 ○○○○○○
1092 **yaynuan** kusu ●kusu

1093 ire**su casi**
1094 **u casi** or un
1095 a**hunan hi**ne ●hine

1096 u **aminumpe**
1097 **aurekoyupu** ■
1098 ci**se kan kotor**
1099 **akonottarara** ■

1100 u **anan** awa
1101 u **senram** sekor ●sekor

1102 kamuy **moyre**mat
1103 utar **orke**he ▲

1104 ○○○○○
1105 **kunne kosonte**
1106 **tu menoko ne** wa ●wa

1107 **poro** ketusi
1108 **u sut** ketusi
1109 ○○○○○
1110 ○○○○○ ■

1111 **iruska kew**tum
1112 a**yaykorpare** ■

1113 **anak ki kor**ka
1114 **hunakke ku**su
1115 ○○○○○
1116 **ire**su sapo
1117 **iye** a itak ▲

1118 **sekor eyki yak**ne
1119 mosir **erekor**
1120 **eki ka**tuhu
1121 u ○○○○
1122 **sekor erekor**
1123 u ○○○○ ■

1124 i**tak rok awa** ●wa
1125 **yaynuan** kusu ●kusu

1126 tan hus**kotoy** wa
1127 cise **kan kotor**
1128 **akonot**tesusu
1129 a**nan kor**ka ●korka

1130 u **kanna** ruyno
1131 u **kane amset**
1132 cituye **amset**
1133 u **amset kurka**
1134 akoyayo**sura** ■

1135 u **tanto tori**
1136 u **yaykotuy**ma
1137 asi**ramsuye** ■

1138 mak an **kat kor** pe
1139 **sipase kamuy**
1140 **sinis kor kamuy**
1141 **oroya ci**ki ●ciki
1142 **poho ane** wa ●wa

1143 tapan **te wano**
1144 mosir **erekor**
1145 u **aynu sekor**
1146 ○○○○○○○
1147 u ○○○○
1148 **yaynuan hike** ●hike

1149 **iruska kew**tum
1150 **ayaykor**pare
1151 u **anan ka**tu
1152 ○○○○○ ■

1153 ○○ ■pakno（結句）

**丹菊　逸治（たんぎく いつじ）**
アイヌ・先住民研究センター准教授。
専門は口承文芸論、アイヌ語アイヌ文学、ニヴフ語ニヴフ文学。

Alliteration in Ainu Poetry

Ainu and Indigenous Language Archive Project Report 2019
Published on March 25, 2020

Written by TANGIKU Itsuji

Published by Center for Ainu and Indigenous Studies, Hokkaido University
Kita 8-jo Nishi 6-chome, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido 060-0808, Japan
Printed and bound by Hakuyo Printing

---

**2019 年度アイヌ・先住民族言語アーカイヴ・プロジェクト報告書**

## アイヌ韻文の行頭韻

2020 年　3 月 25 日　発行

著者　丹菊逸治
発行　〒060-0808　札幌市北区北 8 条西 6 丁目
北海道大学アイヌ・先住民研究センター
印刷・製本　柏楊印刷株式会社

---